

令和6年度 文部科学省委託
「幼児教育の学び強化事業」

幼稚園における教育活動の実施状況調査
報告書

令和7年3月

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

<目 次>

I.	調査研究の概要	1
1	研究の背景・目的	1
2	調査研究の内容	1
II.	調査結果（管理職向け調査）	7
1	基礎的情報	7
2	幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	17
3	教育課程の役割・編成、指導計画の作成、評価の実施	18
4	特別な配慮を必要とする幼児への指導、子育ての支援	25
5	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動	35
6	ICT 整備の状況	43
III.	調査結果（各学年担当教員向け調査）	49
1	基礎的情報	49
2	幼児理解に基づいた評価の実施	50
3	幼稚園教育要領5領域のねらい・内容	54
IV.	Appendix	87
1	アンケート調査票	87

I. 調査研究の概要

1 研究の背景・目的

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い幼児教育が提供されることが重要である。このため、幼児教育施設である幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。以下同じ。）において、幼児の学びが豊かなものとなるよう、幼児教育の質の向上に関する課題等について調査研究を進め、幼児教育の一層の充実を図る必要がある。

以上の状況を踏まえ、幼稚園教育要領等に基づく教育活動の実施状況を把握するため、幼稚園を対象に調査を行った。

2 調査研究の内容

2-1. アンケート調査内容の設計

アンケート調査内容の設計に当たっては、幼稚園教育要領を基に、各園における具体的な教育実践の概況を把握することを基本方針とした。

具体的には、幼稚園教育要領の内容のうち、以下の項目について、管理職を対象に調査した。

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用状況
- ・ 教育課程の役割・編成
- ・ 指導計画の作成
- ・ 幼児理解に基づいた評価の実施
- ・ 特別な配慮を必要とする幼児への指導
- ・ 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動
- ・ 子育ての支援
- ・ ICT 整備の状況

また、各学年担当教員を対象に、幼稚園教育要領の内容のうち、以下の項目について調査した。

- ・ 幼児理解に基づいた評価
- ・ 各領域におけるねらい・内容

2-2. 調査対象の抽出、実施

(1) 対象園抽出の方法

調査対象として、全国の幼稚園・幼稚園型認定こども園より 1,497 件を抽出した。対象園の抽出に当たっては、実際の分布と地域や設置主体の構成比が近くなるように、都道府県別及び国公私別の比率をふまえて抽出数の割付を行った上で、ランダムサンプリングを行った。

具体的には下記の手順で対象園を抽出した。

- ① 文部科学省「令和5年度学校基本調査」を基に、全国の幼稚園・幼稚園型認定こども園の都道府県別・国公私別の構成比を算出。
- ② 抽出総数を 1,500 件とした上で、①で算出した構成比に基づき、都道府県別・国公私別の割当数を算出（ただし、国立については数が少ないため全数、公立については各都道府県最低3件の抽出となるように調整）。この調整の結果、配布数は 1,506 件となった。
- ③ ②で作成した割当数を基に、「令和5年度学校基本調査」より対象となる園をランダムに抽出（ただし、在園児数が0人及び調査時点で廃止となっている園については除外した）。
- ④ 上記の対象園について、管轄の教育委員会にリストを送付し、休園との連絡を受けた9園を除外したうえで、最終的な調査対象先を確定した。これにより、最終的な配布数は 1,497 件となった。

(2) 調査対象者

(1) で対象となった園については、管理職および3・4・5歳児の学級担任1名ずつに回答を依頼した。各学年の学級担任が2名以上の場合は、同じ学年の教員から回答対象を1名選んでもらうよう、管理職に依頼した。また、異年齢混合学級を設けている園については、学級担任の代表者1名に回答を依頼した。

(3) 調査の実施方法

(1) で対象となった園に対して、郵送にて調査資料一式（依頼状・アンケート調査実施要領・調査項目）を送付した。回答は WEB 上に開設したアンケート調査サイトでの入力求めた。なお、アンケート調査実施要領には、WEB アンケートの URL に加えて園個別の ID・パスワード（管理職・各学年担当教員共通）を記載し、アンケート調査サイトで回答時に入力いただくことで、管理職と各学年担当教員の回答結果の紐付けを可能とした。

2-3. 回収データ概要

(1) 調査期間

令和6年10月4日(金)～令和6年11月7日(木)

(2) 回答状況

- ・ 管理職向け調査:有効回答数 731 件
- ・ 各学年担当教員向け調査:有効回答数 1,436 件(回答のあった園は 624 件)
- ・ うち両調査でマッチングできたデータ:1,345 件

※両アンケートのマッチングについて

各園に付与した「園 ID」をユニークキーとして、管理職向けアンケートの回答と各学年担当教員向けアンケートの回答を紐付けした。その結果、両アンケートの回答がマッチングした件数は 1,345 件であった。管理職のみ回答があった件数は 152 件、各学年担当教員のみ回答があった件数は 91 件であった。

図表 1-1 管理職向け調査 設置主体別回答状況

国立	公立	私立	合計
36 件	359 件	336 件	731 件
4.9%	49.1%	46.0%	100%

図表 1-2 各学年担当教員向け調査 設置主体別回答状況

国立	公立	私立	合計
95 件	695 件	646 件	1,436 件
6.6%	48.4%	45.0%	100%

図表 1-3 各学年担当教員向け調査(うちマッチング可能サンプル) 設置主体別回答状況

国立	公立	私立	合計
89 件	672 件	584 件	1,345 件
6.6%	50.0%	43.4%	100%

図表 1-4 各学年担当教員向け調査 学年別回答状況

3歳児担当	4歳児担当	5歳児担当	異年齢混合 学級担当	合計
406 件	459 件	494 件	77 件	1,436 件
28.3%	32.0%	34.4%	5.4%	100%

図表 1-5 管理職調査 回答園の園児数・教員数の合計

	園児数合計	教員数合計
管理職調査	55,896 人	8,769 人
(参考) 令和 6 年度学校基本調査	757,968 人	82,809 人

2-4. 有識者ヒアリング

調査設計に当たって助言をいただくため、聖徳大学 教育学部 教授 河合優子氏にヒアリングを実施した。

2-5. 分析に当たっての主な変数処理

①施設規模による分類方法とその結果

園全体の在園児数を基準に、3つの施設規模カテゴリーに分類した。園全体の在園児数の累積分布に基づき、3分の1、3分の2に当たる値（在園児数）を分割基準としてそれぞれの園を「大」、「中」、「小」に分類した。

図表 1-6 施設規模による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)	在園児数 (人)	
			最小値	最大値
大	243	33.2	86	368
中	231	31.6	37	85
小	257	35.2	1	36

②教員一人当たりの幼児数による分類方法とその結果

園全体の在園児数を「主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数と学級と預かり保育のどちらも担当する人数」の合計人数で割り、算出された教員一人当たりの幼児の数に基づき、「少」、「中」、「多」に分類した。

図表 1-7 教員一人当たりの幼児数による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)	教員一人当たりの幼児の数 (人)	
			最小値	最大値
少	244	33.4	0.5	6.2
中	243	33.2	6.2	10.5
多	244	33.4	10.5	32.0

③一種・専修免許保有者割合による分類方法とその結果

園全体の幼稚園教諭一種免許保有者（以下、一種免許保有者）及び幼稚園教諭専修免許保有者（以下、専修免許保有者）の割合に基づき、3つの一種・専修免許保有者割合カテゴリーに分類した。まず、一種・専修免許保有者の割合を算出するために、「園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師」のうち、一種免許保有者及び専修免許保有者の合計人数を求め、「園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師」の合計人数で割った。算出された一種・専修免許保有者の割合に基づき、「一種・専修免許保有者なし」、「一種・専修免許保有者割合が3割未満」、「一種・専修免許保有者割合が3割以上」に分類した。

図表 I-8 一種・専修免許保有者割合による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)
一種・専修免許保有者なし	103	14.1
一種・専修免許保有者割合が3割未満	322	44.0
一種・専修免許保有者割合が3割以上	306	41.9

④園務用 ICT と Wi-Fi の有無による分類方法とその結果

管理職調査の Q22「貴園のICTに係る環境について、保有・活用しているものをお答えください。」の回答に基づき、園務用 ICT・Wi-Fi の有無について各園を3つのカテゴリーに分類した。「教員用の園務用パソコン」、「教員用の園務用タブレット」、「教員用の園務用スマートフォン」のいずれかについて保有・活用していると回答し、かつ、「園務用無線LAN、Wi-Fi、LTE等」を保有・活用していると回答した場合は「園務用 ICT あり、Wi-Fi あり」に分類した。一方、「教員用の園務用パソコン」、「教員用の園務用タブレット」、「教員用の園務用スマートフォン」のいずれかについて保有・活用しているが、「園務用無線LAN、Wi-Fi、LTE等」については保有・活用していない場合は「園務用 ICT あり、Wi-Fi なし」に分類した。上記のどちらにも当てはまらない園の場合は「園務用 ICT なし」に分類した。

図表 I-9 園務用ICTとWi-Fiの有無による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)
園務用 ICT あり、Wi-Fi あり	512	70.0
園務用 ICT あり、Wi-Fi なし	189	25.9
園務用 ICT なし	30	4.1

⑤教育活動の記録方法による分類方法とその結果

各学年担当教員調査の Q2「ご自身は、日頃、教育活動に関する記録をどのようにしていますか」の回答に基づき、教育活動の記録方法について各園を3つのカテゴリーに分類した。「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれかを選択し、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれについても選択していない場合は教育活動の記録方法を「手書き」として分類した。一方、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれかを選択し、「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれについても選択していない場合は教育活動の記録方法を「ICT」に分類した。最後に、「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれかを選択し、かつ、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれかについても選択している場合は「手書きと ICT 併用」と分類した。

図表 1-10 教育活動の記録方法による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)
手書き	615	43.1
ICT	387	27.1
手書きと ICT 併用	424	29.7

注釈) 度数と割合は、カテゴリーのいずれにも該当しない n=10 を除く。

II. 調査結果（管理職向け調査）

1 基礎的情報

1-1. 在園児数（Q1）¹

令和6年5月1日時点の在園幼児数について、「園全体」の平均は 76.47 人となっている。学年別に平均人数を見ると、それぞれ「満3歳児」は 0.99 人※、「3歳児」は 20.62 人、「4歳児」は 25.54 人、「5歳児」は 29.31 人となっている。園全体のクラス数の平均は 4.33 クラスである。

図表 II-1 令和6年5月1日時点の在園児数及びクラス数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園全体の幼児数	76.47	57	1	368
満 3 歳児数	0.99	0	0	30
3 歳児数	20.62	15	0	114
4 歳児数	25.54	19	0	162
5 歳児数	29.31	23	0	149
園全体のクラス数	4.33	3	1	15

注釈）※満 3 歳児数については、聴取時点（本調査では 5 月 1 日時点の状況について把握）により大きく変動が想定されるため留意が必要。各園における満 3 歳児の入園に関する状況は Q2-3 を参照。

¹ 調査票における問いの番号に対応。以降同様。調査内容により掲載順が前後する場合がある。

図表 11-2 【設置主体：国立】令和6年5月1日時点の在園児数及びクラス数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園全体の幼児数	84.78	74	25	203
満3歳児数	0.08	0	0	3
3歳児数	21.61	21	0	44
4歳児数	30.42	25	12	79
5歳児数	32.67	29	8	80
園全体のクラス数	4.31	4	2	8

図表 11-3 【設置主体：公立】令和6年5月1日時点の在園児数及びクラス数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園全体の幼児数	41.3	30	1	200
満3歳児数	0.0	0	0	2
3歳児数	9.3	5	0	70
4歳児数	13.5	10	0	62
5歳児数	18.6	14	0	139
園全体のクラス数	2.9	3	1	10

図表 11-4 【設置主体：私立】令和6年5月1日時点の在園児数及びクラス数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園全体の幼児数	113.1	95	3	368
満3歳児数	2.1	1	0	30
3歳児数	32.6	28	0	114
4歳児数	37.9	32.5	0	162
5歳児数	40.4	35	0	149
園全体のクラス数	5.8	6	1	15

1-2. 教職員数

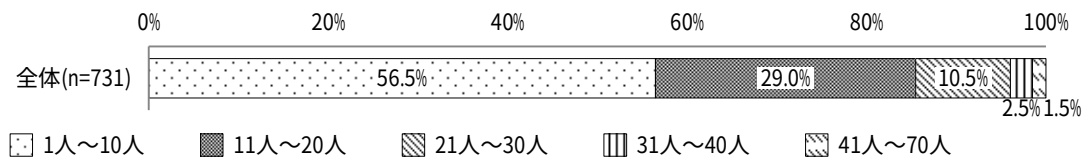
(1) 教職員数 (Q5)

調査時点の教職員数をみると、「教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数」の平均は5.87人である。また、「園長」、「副園長」、「教頭」、「主幹教諭」、「指導教諭」、「教諭・助教諭・講師」の合計人数は平均12.00人である。

図表 11-5 調査時点の教職員数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園長	1.00	1	0	2
副園長	0.40	0	0	2
教頭	0.16	0	0	2
主幹教諭	0.56	0	0	7
指導教諭	0.58	0	0	31
教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数	5.87	4	0	28
教諭・助教諭・講師のうち、主として預かり保育を担当する人数	1.37	1	0	17
教諭・助教諭・講師のうち、学級と預かり保育のどちらも担当する人数	2.06	0	0	30
養護教諭、養護助教諭	0.16	0	0	2
看護師等	0.05	0	0	2
支援員、補助者	2.09	1	0	30
事務職員	0.90	1	0	5
用務員・警備員・その他	1.51	1	0	20
園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師の合計人数	12.00	9	2	66

図表 11-6 園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師の合計人数



図表 11-7 【設置主体：国立】調査時点の教職員数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園長	1.00	1	1	1
副園長	0.69	1	0	2
教頭	0.11	0	0	1
主幹教諭	0.25	0	0	1
指導教諭	0.03	0	0	1
教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数	7.00	7	0	14
教諭・助教諭・講師のうち、主として預かり保育を担当する人数	0.50	0	0	3
教諭・助教諭・講師のうち、学級と預かり保育のどちらも担当する人数	0.25	0	0	6
養護教諭、養護助教諭	1.03	1	1	2
看護師等	0.00	0	0	0
支援員、補助者	1.33	0	0	5
事務職員	1.33	1	1	3
用務員・警備員・その他	1.39	1	0	8
園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師の合計人数	9.83	10	5	18

図表 11-8 【設置主体：公立】調査時点の教職員数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園長	0.99	1	0	1
副園長	0.24	0	0	2
教頭	0.14	0	0	1
主幹教諭	0.30	0	0	5
指導教諭	0.26	0	0	21
教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数	3.60	3	0	23
教諭・助教諭・講師のうち、主として預かり保育を担当する人数	1.15	1	0	10
教諭・助教諭・講師のうち、学級と預かり保育のどちらも担当する人数	1.03	0	0	20
養護教諭、養護助教諭	0.16	0	0	2
看護師等	0.04	0	0	1
支援員、補助者	2.54	2	0	30
事務職員	0.35	0	0	3
用務員・警備員・その他	0.80	1	0	10
園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師の合計人数	7.71	6	2	52

図表 II-9 【設置主体：私立】調査時点の教職員数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
園長	1.00	1	0	2
副園長	0.53	1	0	2
教頭	0.17	0	0	2
主幹教諭	0.88	1	0	7
指導教諭	0.98	0	0	31
教諭・助教諭・講師のうち、主として学級を担当する人数	8.18	7	0	28
教諭・助教諭・講師のうち、主として預かり保育を担当する人数	1.71	1	0	17
教諭・助教諭・講師のうち、学級と預かり保育のどちらも担当する人数	3.36	2	0	30
養護教諭、養護助教諭	0.05	0	0	1
看護師等	0.05	0	0	2
支援員、補助者	1.70	1	0	18
事務職員	1.44	1	0	5
用務員・警備員・その他	2.29	1	0	20
園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師の合計人数	16.81	15	2	66

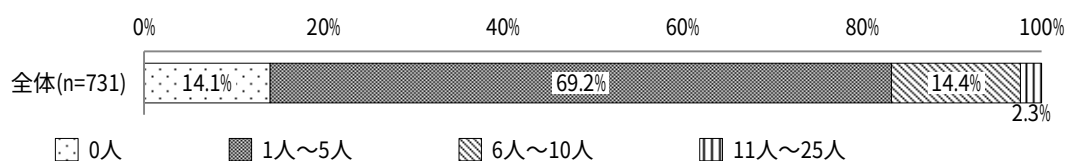
(2) 免許、資格保有者数 (Q6)

調査時点の免許・資格保有者数をみると、「幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数」は平均 3.12 人となっている。

図表 II-10 調査時点の免許・資格保有者数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
幼稚園教諭一種免許保有者	3.02	2	0	24
幼稚園教諭二種免許保有者	6.63	5	0	36
幼稚園教諭専修免許保有者	0.11	0	0	6
幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数	3.12	2	0	24
保育士資格保有者	8.34	6	0	39
小学校教諭一種免許保有者	1.20	1	0	10
小学校教諭二種免許保有者	0.47	0	0	7
小学校教諭専修免許保有者	0.06	0	0	3

図表 II-11 幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数



図表 II-12 【設置主体：国立】調査時点の免許・資格保有者数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
幼稚園教諭一種免許保有者	5.36	5	1	9
幼稚園教諭二種免許保有者	2.14	2	0	6
幼稚園教諭専修免許保有者	1.17	1	0	6
幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数	6.53	7	1	14
保育士資格保有者	5.11	5	0	14
小学校教諭一種免許保有者	4.83	5	1	8
小学校教諭二種免許保有者	0.28	0	0	2
小学校教諭専修免許保有者	0.64	0	0	3

図表 II-13 【設置主体：公立】調査時点の免許・資格保有者数

項目	平均値	中央値	最小値	最大値
幼稚園教諭一種免許保有者	2.42	2	0	12
幼稚園教諭二種免許保有者	3.86	3	0	32
幼稚園教諭専修免許保有者	0.03	0	0	1
幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数	2.45	2	0	12
保育士資格保有者	5.53	4	0	34
小学校教諭一種免許保有者	1.24	1	0	8
小学校教諭二種免許保有者	0.43	0	0	4
小学校教諭専修免許保有者	0.04	0	0	1

図表 II-14 【設置主体：私立】調査時点の免許・資格保有者数

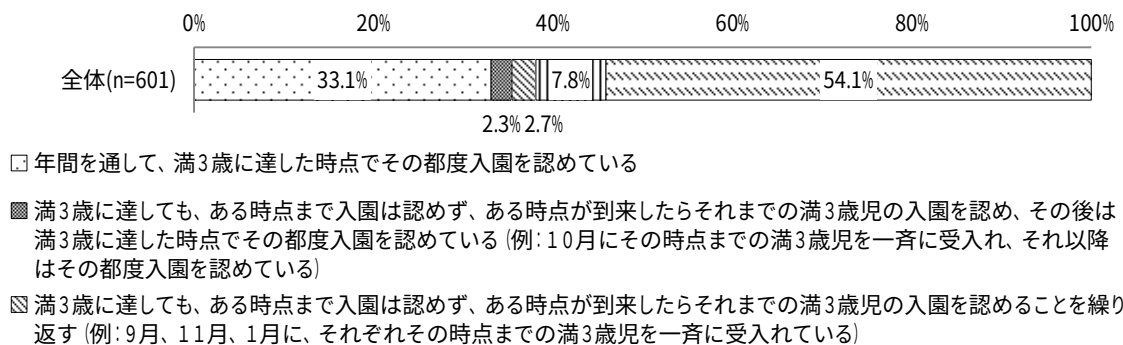
項目	平均値	中央値	最小値	最大値
幼稚園教諭一種免許保有者	3.41	3	0	24
幼稚園教諭二種免許保有者	10.08	9	0	36
幼稚園教諭専修免許保有者	0.08	0	0	5
幼稚園教諭一種・専修免許保有者の合計人数	3.49	3	0	24
保育士資格保有者	11.69	11	0	39
小学校教諭一種免許保有者	0.77	0	0	10
小学校教諭二種免許保有者	0.53	0	0	7
小学校教諭専修免許保有者	0.01	0	0	1

1-3. 満3歳児入園に係る園の方針 (Q2、Q3)

「満3歳に達した後の翌年度の4月に一斉入園する形としている（満3歳児は入園を認めていない）」が54.1%で最も割合が高く、次いで「年間を通して、満3歳に達した時点でその都度入園を認めている」が33.1%、「その他」が7.8%となっている。「その他」には、「誕生月の翌月1日から入園」という回答が多く、「満3歳になるまでは体験児として認め、満3歳になったら在園となる」、「満3歳に達する年度のいつでも入園を許可する」といった回答もみられた。

また、満3歳児入園を認めている園の割合は、合計46.6%である。

図表 II-15 満3歳児入園に係る園の方針



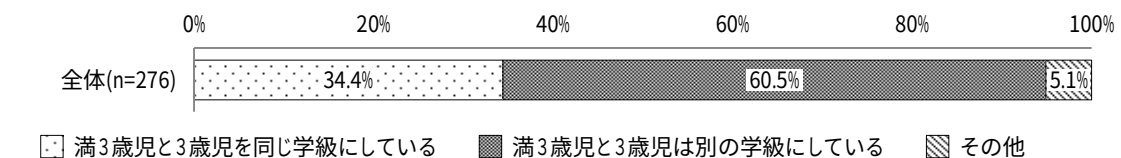
Ⅲ その他

☐ 満3歳に達した後の翌年度の4月に一斉入園する形としている（満3歳児は入園を認めていない）

注釈) 対象は Q1 で 3 歳児の在園児数が「1 以上」と回答したサンプルに限定（2 年保育の場合は対象外）

満3歳児を受け入れている場合の学級編成の方法をみると、「満3歳児と3歳児は別の学級にしている」が60.5%で最も割合が高く、次いで「満3歳児と3歳児を同じ学級にしている」が34.4%、「その他」が5.1%となっている。「その他」には、「保育部の2歳児と同じ学級にしている」、「満3歳児が園生活に慣れるまでは同年齢同学年クラスに在籍し、慣れたと判断したら縦割りクラスへ移行していく個別対応」といった回答がみられた。

図表 II-16 満3歳児の学級編成

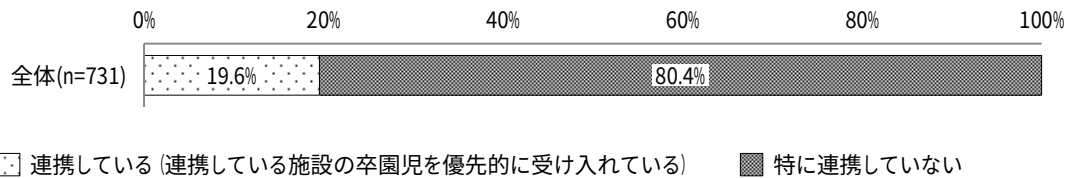


注釈) 対象は Q2 で「満3歳に達した後の翌年度の4月に一斉入園する形としている（満3歳児は入園を認めていない）」以外を選択したサンプルに限定。

1-4. 0～2歳児を対象とする幼児教育施設との連携（Q4）

「連携している（連携している施設の卒園児を優先的に受け入れている）」が19.6%、「特に連携していない」が80.4%となっている。

図表 II-17 0～2歳児を対象とする幼児教育施設との連携

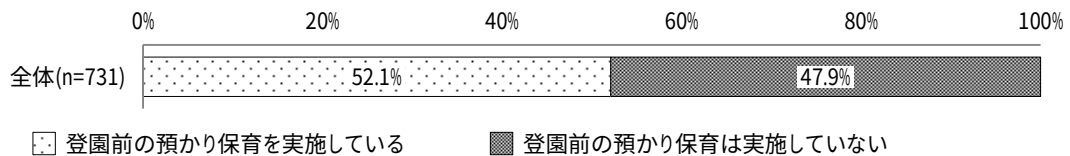


1-5. 教育活動の時間

(1) 「教育課程に係る教育時間の開始前に行う預かり保育」について（Q7）

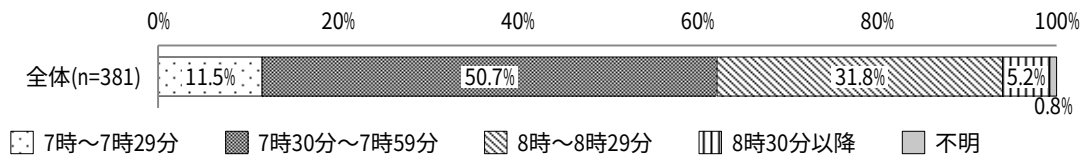
「登園前の預かり保育を実施している」が52.1%、「登園前の預かり保育は実施していない」が47.9%となっている。

図表 II-18 「教育時間開始前の預かり保育」の実施状況



教育課程に係る教育時間の開始前に行う預かり保育を実施している場合の開始時間をみると、「7時30分～7時59分」が50.7%で最も割合が高く、次いで「8時～8時29分」が31.8%、「7時～7時29分」が11.5%となっている。

図表 II-19 「教育時間開始前の預かり保育」の開始時間：数値回答



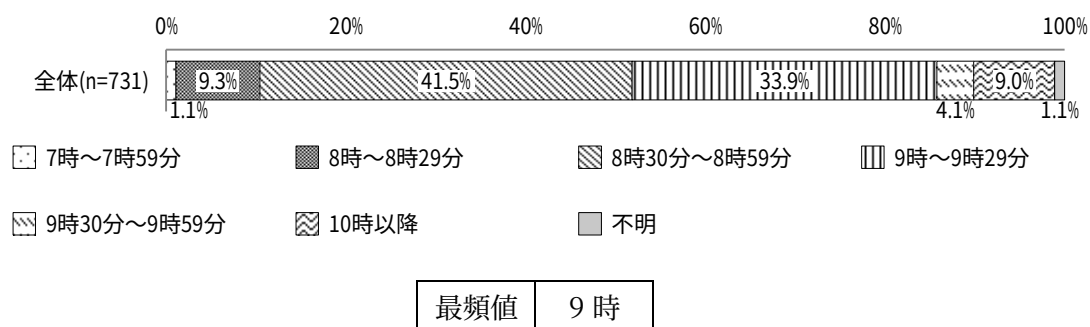
最頻値 7時30分

注釈) 対象は Q7 で「登園前の預かり保育を実施している」と回答したサンプルに限定。

(2) 教育課程に係る教育時間について (Q8)

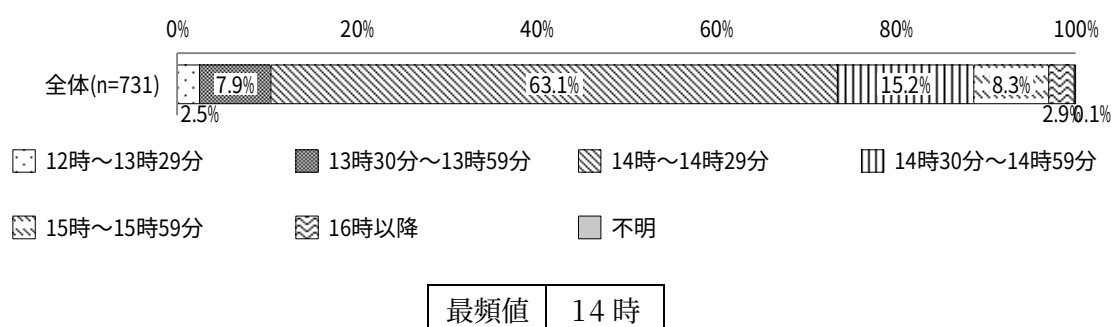
開始時間をみると、「8 時 30 分～8 時 59 分」が 41.5%で最も割合が高く、次いで「9 時～9 時 29 分」が 33.9%、「8 時～8 時 29 分」が 9.3%となっている。

図表 II-20 教育課程に係る教育時間（開始時間）について：数値回答



終了時間をみると、「14 時～14 時 29 分」が 63.1%で最も割合が高く、次いで「14 時 30 分～14 時 59 分」が 15.2%、「15 時～15 時 50 分」が 8.3%となっている。

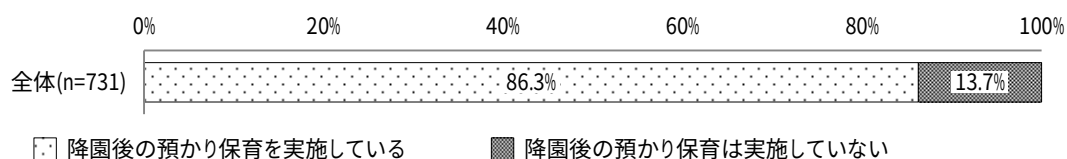
図表 II-21 教育課程に係る教育時間（終了時間）について：数値回答



(3) 「教育課程に係る教育時間の終了後に行う預かり保育」について (Q9)

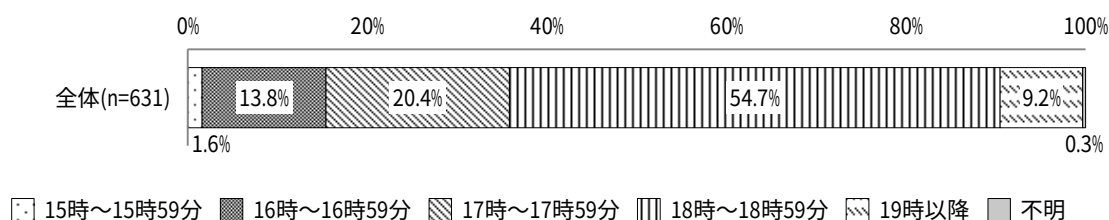
「降園後の預かり保育を実施している」が 86.3%、「降園後の預かり保育は実施していない」が 13.7%となっている。

図表 II-22 「教育時間終了後の預かり保育」の実施状況



教育課程に係る教育時間の終了後に行う預かり保育を実施している場合の終了時間をみると、「18 時～18 時 59 分」が 54.7%で最も割合が高く、次いで「17 時～17 時 59 分」が 20.4%、「16 時～16 時 59 分」が 13.8%となっている。

図表 II-23 「教育時間終了後の預かり保育」の終了時間



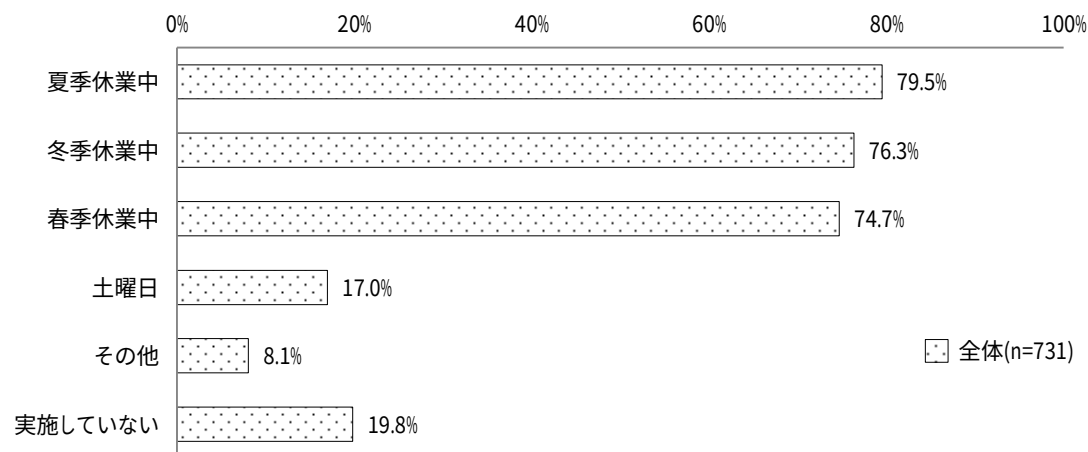
最頻値	18 時
-----	------

注釈) 対象は Q9 で「降園後の預かり保育を実施している」と回答したサンプルに限定。

(4) 長期休業期間中等の預かり保育について (Q10)

「夏季休業中」が 79.5%で最も割合が高く、次いで「冬季休業中」が 76.3%、「春季休業中」が 74.7%となっている。

図表 II-24 長期休業期間中等の預かり保育について：複数回答



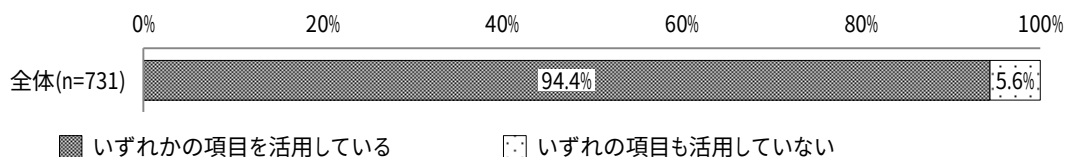
2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

2-1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用方法 (Q11)

「いずれかの項目を活用している」が94.4%となっている。

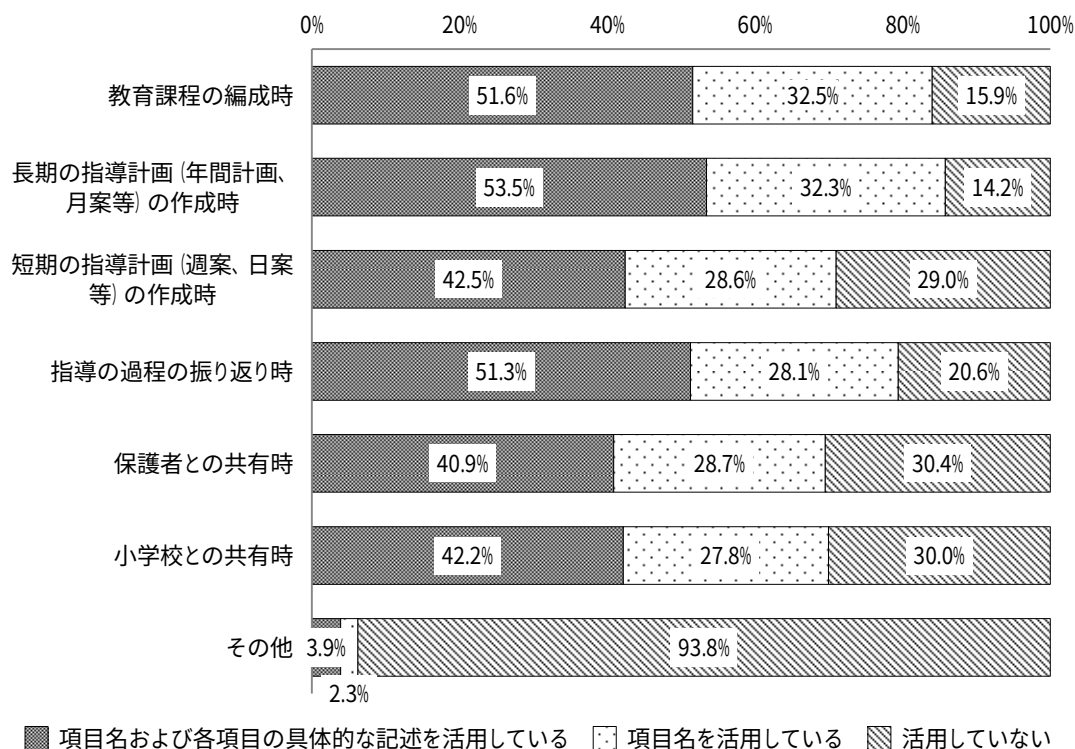
活用場面別に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用状況をみると、「その他」を除きいずれの場面においても「項目名および各項目の具体的な記述を活用している」とする割合が約4～5割となっている。一方、「短期の指導計画（週案、日案等）の作成時」「保護者との共有時」「小学校との共有時」については、「活用していない」とする割合も約3割となっており、場面によって活用状況にばらつきがみられる。

図表 11-25 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用有無



注釈) 「いずれの項目も活用していない」は、Q11にて「特に活用していない」を選択した割合。

図表 11-26 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用状況

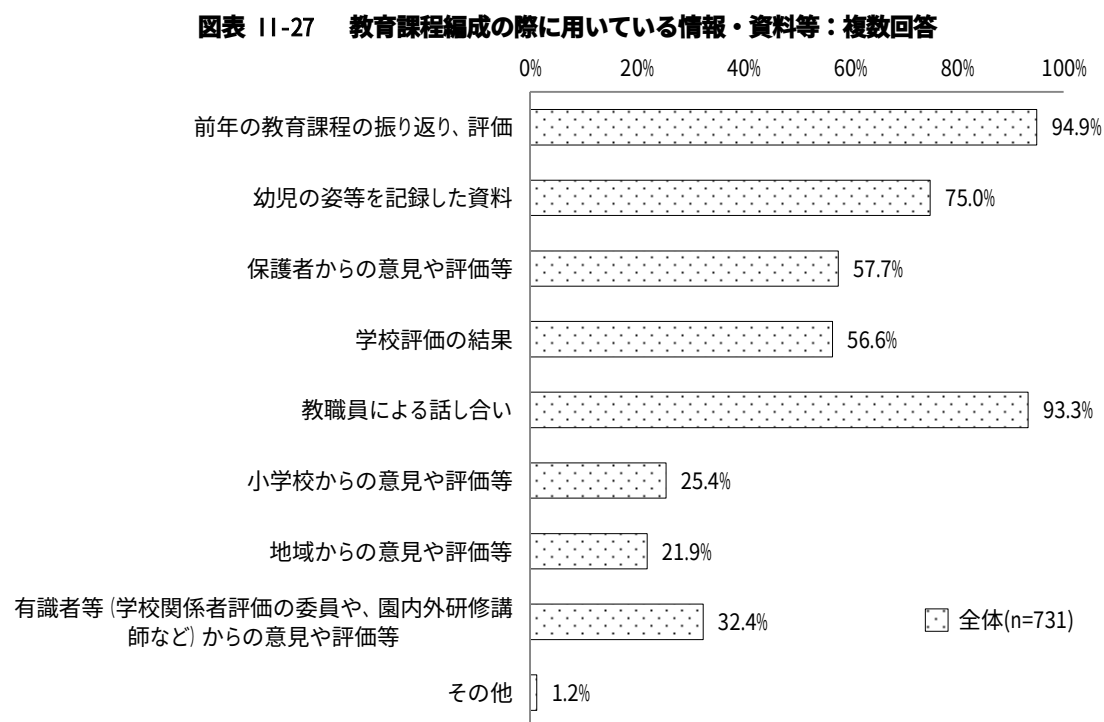


注釈) いずれも n=690 (Q11で「特に活用していない」を選択したサンプルは除外)。

3 教育課程の役割・編成、指導計画の作成、評価の実施

3-1. 教育課程編成の際に用いている情報・資料等 (Q12)

「前年の教育課程の振り返り、評価」が94.9%で最も割合が高く、次いで「教職員による話し合い」が93.3%、「幼児の姿等を記録した資料」が75.0%となっている。

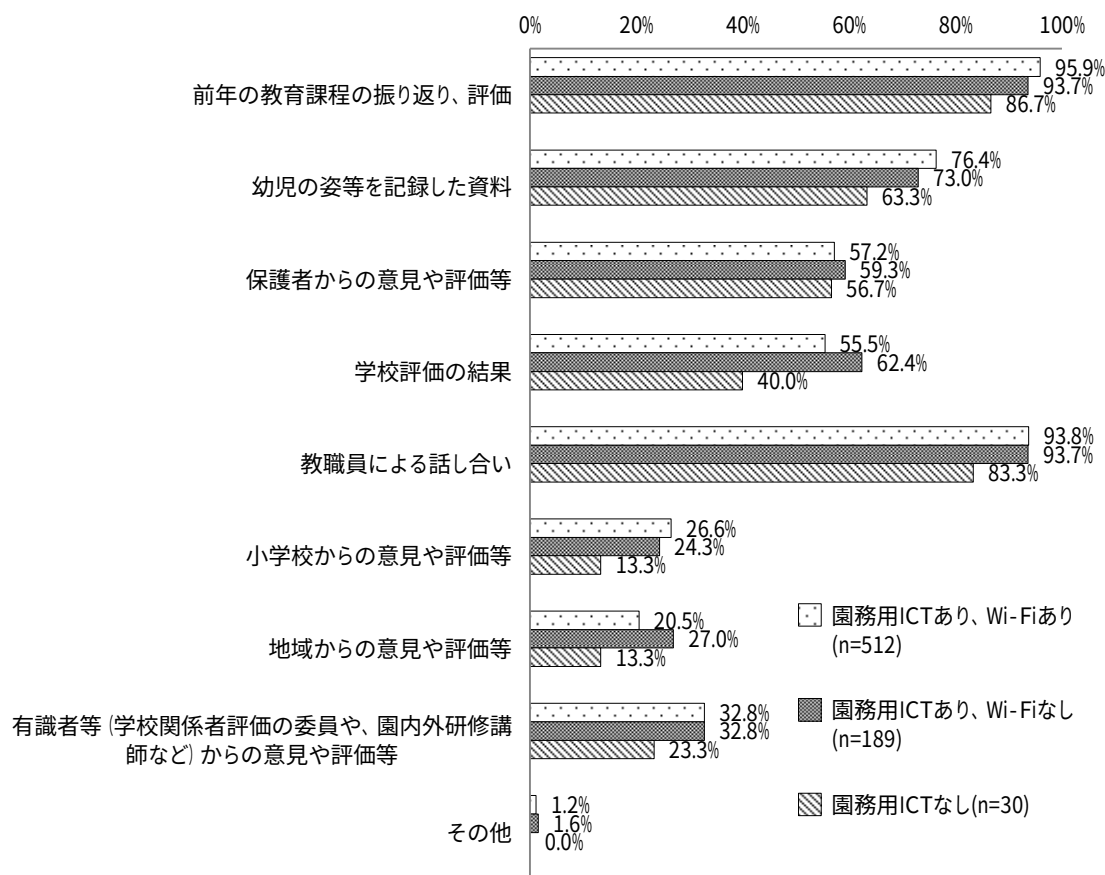


＜ICT 活用状況別＞

教育課程編成の際に用いている情報・資料等を、園の ICT 活用状況別に見ると、園務用 ICT がある園ほど、いずれの項目も実施率が高い傾向がみられる。

特に、「幼児の姿等を記録した資料」「学校評価の結果」「教職員による話し合い」「小学校からの意見や評価等」について、園務用 ICT がある園では、ない園に比べて約 10 ポイント以上実施率が高くなっている。

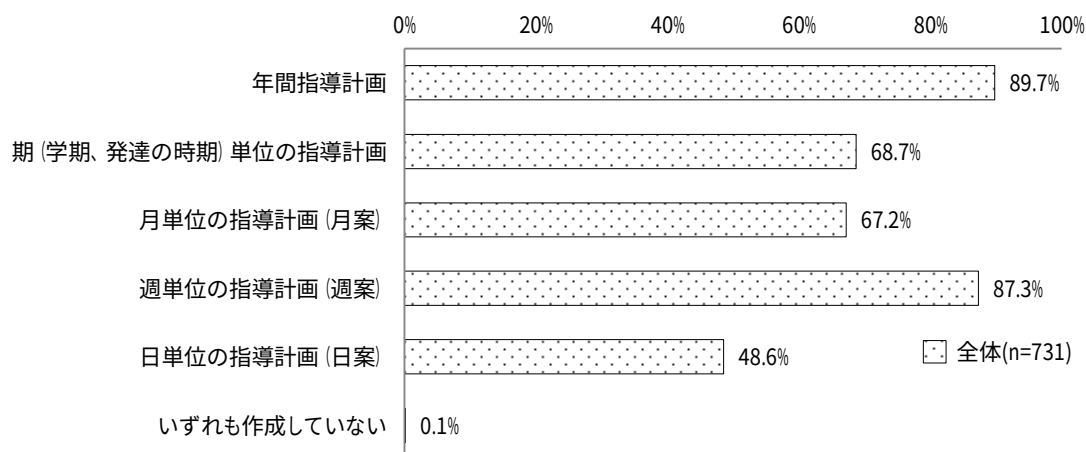
図表 II-28 ICT活用状況別 教育課程編成の際に用いている情報・資料等：複数回答



3-2. 教育活動に関する指導計画として作成している資料(Q13)

「年間指導計画」が89.7%で最も割合が高く、次いで「週単位の指導計画（週案）」が87.3%、「期（学期、発達の時期）単位の指導計画」が68.7%となっている。

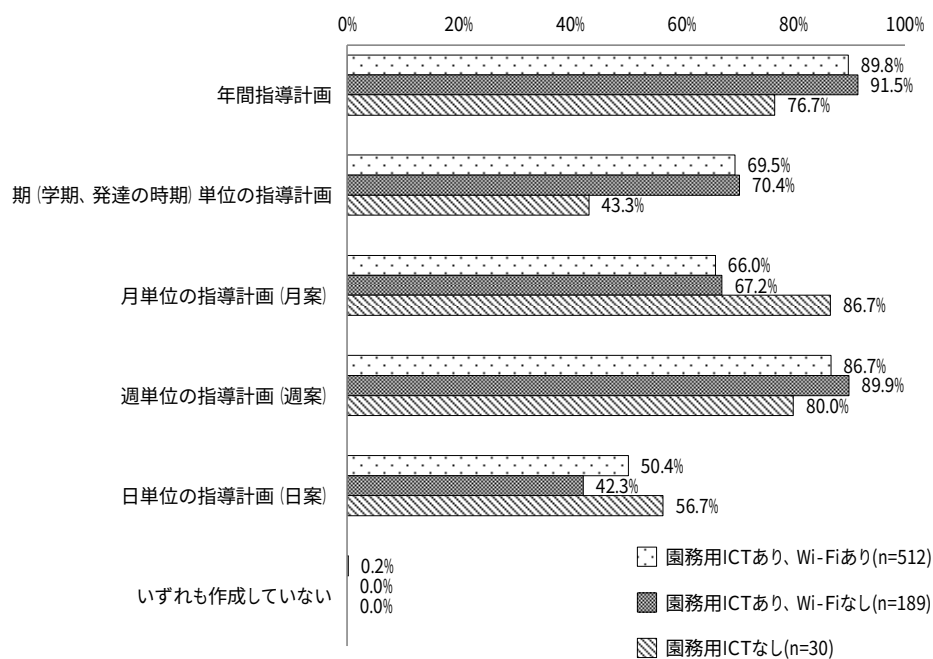
図表 11-29 教育活動に関する指導計画として作成している資料：複数回答



<ICT 活用状況別>

ICT 活用状況別に見ると、園務用 ICT がある園では、ない園に比べて「年間指導計画」「期（学期、発達の時期）単位の指導計画」の作成率が高くなっている。

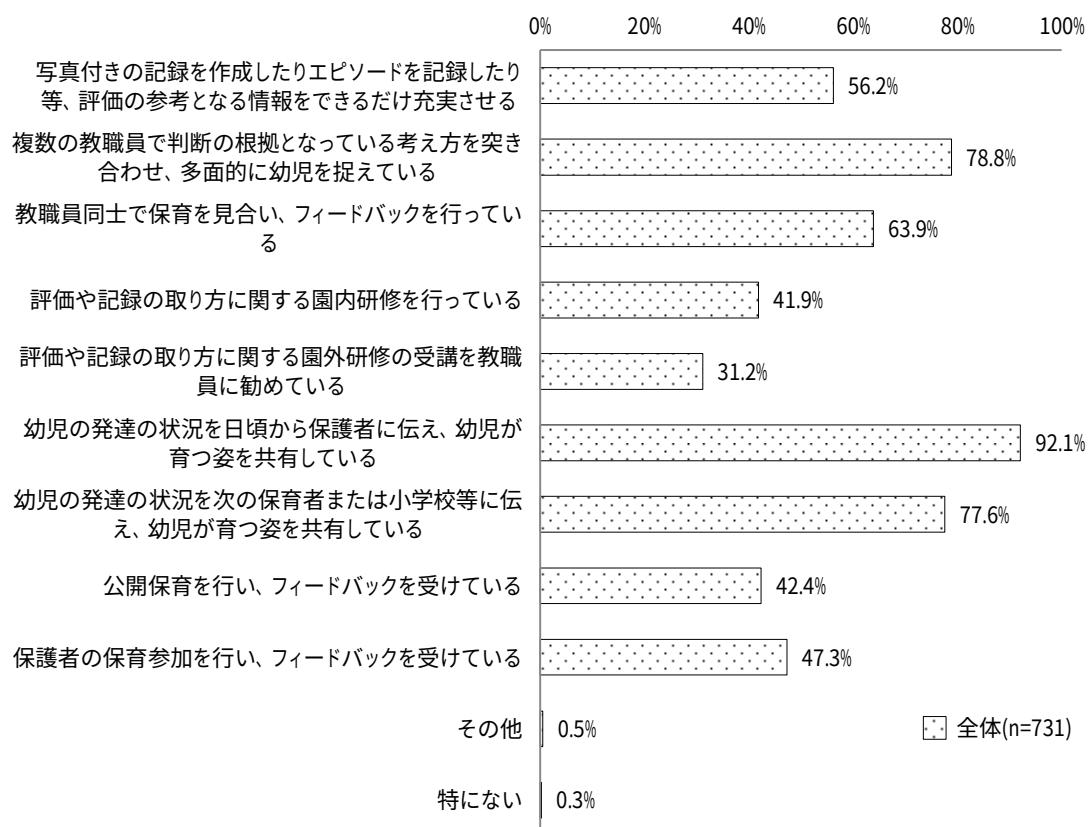
図表 11-30 ICT活用状況別 教育活動に関する指導計画として作成している資料：複数回答



3-3. 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組(Q14)

「幼児の発達の状況を日頃から保護者に伝え、幼児が育つ姿を共有している」が92.1%で最も割合が高く、次いで「複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている」が78.8%、「幼児の発達の状況を次の保育者または小学校等に伝え、幼児が育つ姿を共有している」が77.6%となっている。

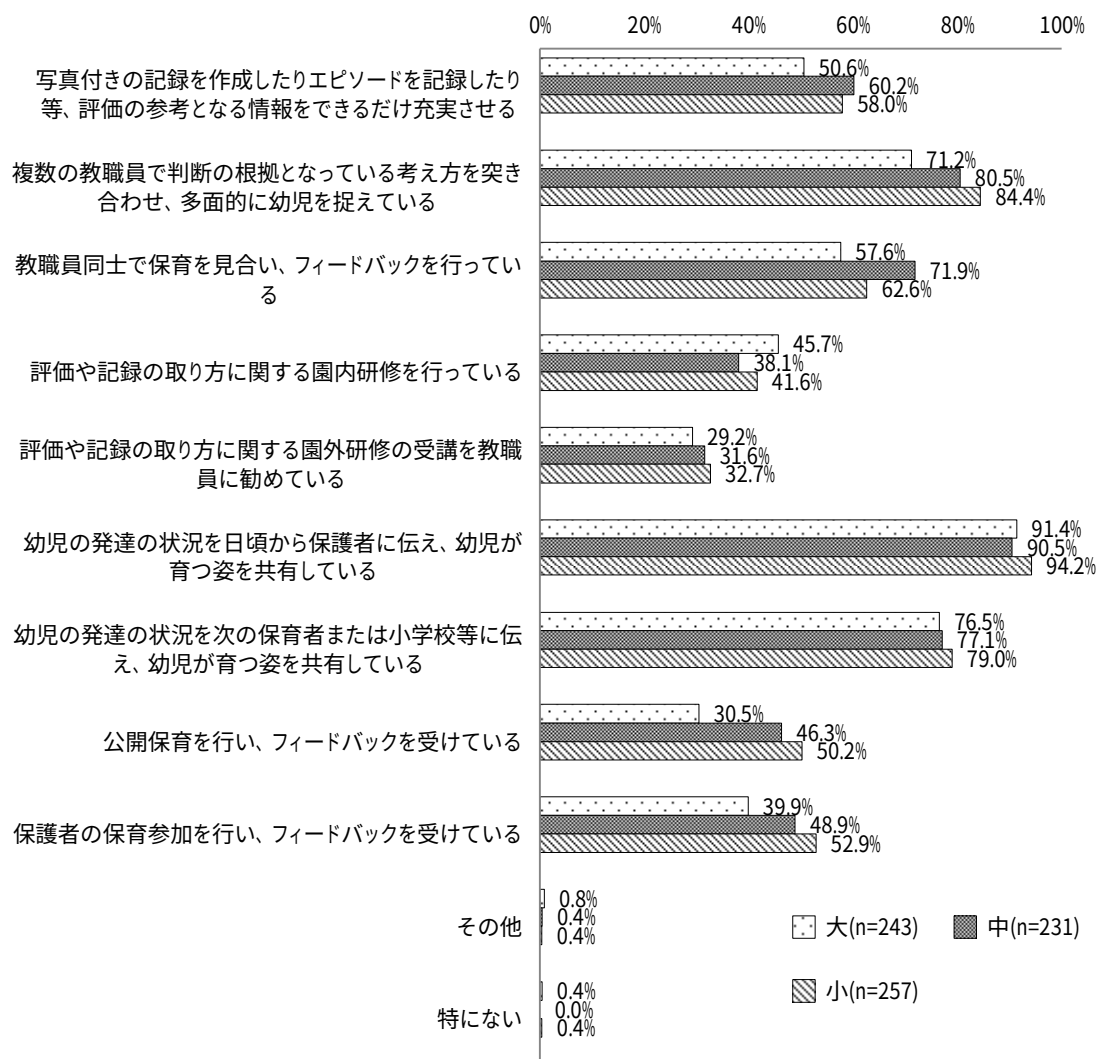
図表 11-31 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組：複数回答



＜施設規模別＞

施設規模別に見ると、「複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている」や、「公開保育を行い、フィードバックを受けている」「保護者の保育参加を行い、フィードバックを受けている」については、施設規模の小さい園においてより取り組まれている傾向にある。ほかに、中規模の園では「教職員同士で保育を見合い、フィードバックを行っている」割合が他の施設規模の園に比べて高くなっていたり、大規模の園では「評価や記録の取り方に関する園内研修を行っている」割合が高くなっているなど、施設規模による特徴がみられる。

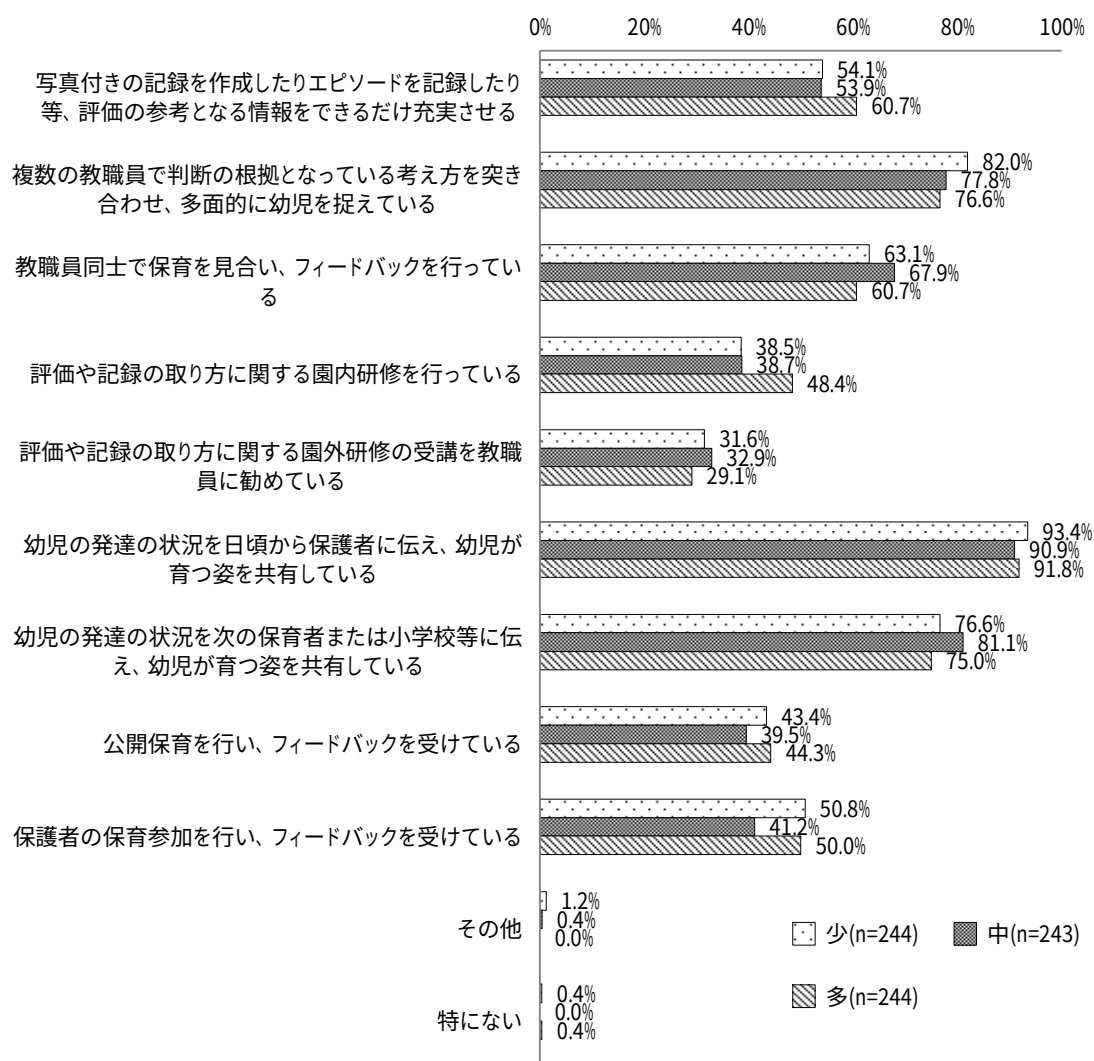
図表 11-32 施設規模別 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組：複数回答



＜教員 1 人当たりの幼児の人数別＞

教員 1 人当たりの幼児の人数別にみると、「複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている」については、教員 1 人当たりの幼児の人数が少ないほど取り組まれている割合が高くなっている。他方で、「写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる」や「評価や記録の取り方に関する園内研修を行っている」については、教員 1 人当たりの幼児の人数が多い園でより取り組まれている。

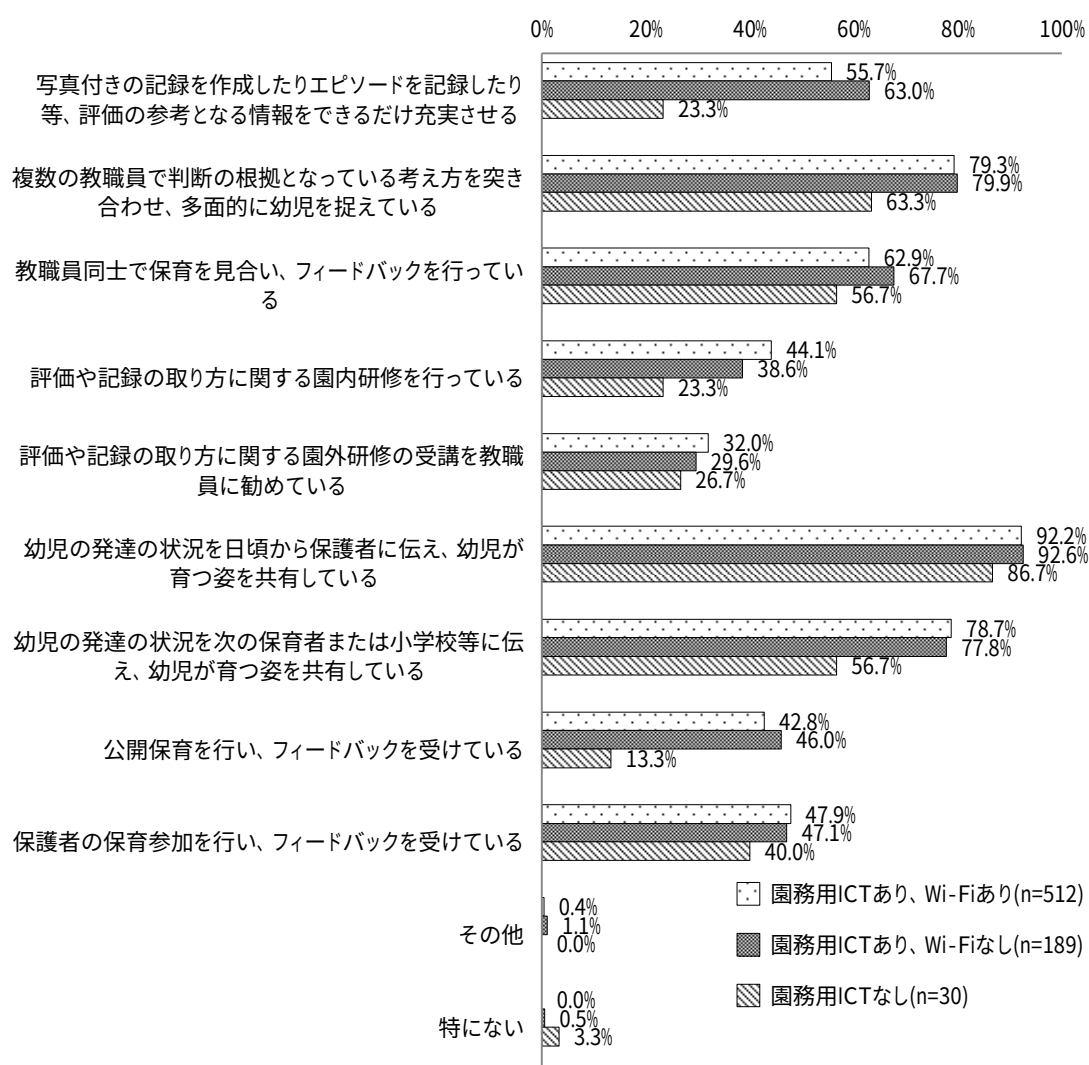
図表 II-33 教員 1 人当たりの幼児の人数別 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組：複数回答



＜ICT 活用状況別＞

ICT 活用状況別に見ると、園務用 ICT がある園ほど、いずれの項目も実施率が高い傾向がみられる。特に、「写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる」「複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている」「評価や記録の取り方に関する園内研修を行っている」「幼児の発達の状況を次の保育者または小学校等に伝え、幼児が育つ姿を共有している」「公開保育を行い、フィードバックを受けている」といった項目について、園務用 ICT がある園では、ない園に比べて約 10 ポイント以上実施率が高くなっている。

図表 II-34 ICT活用状況別 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組：複数回答

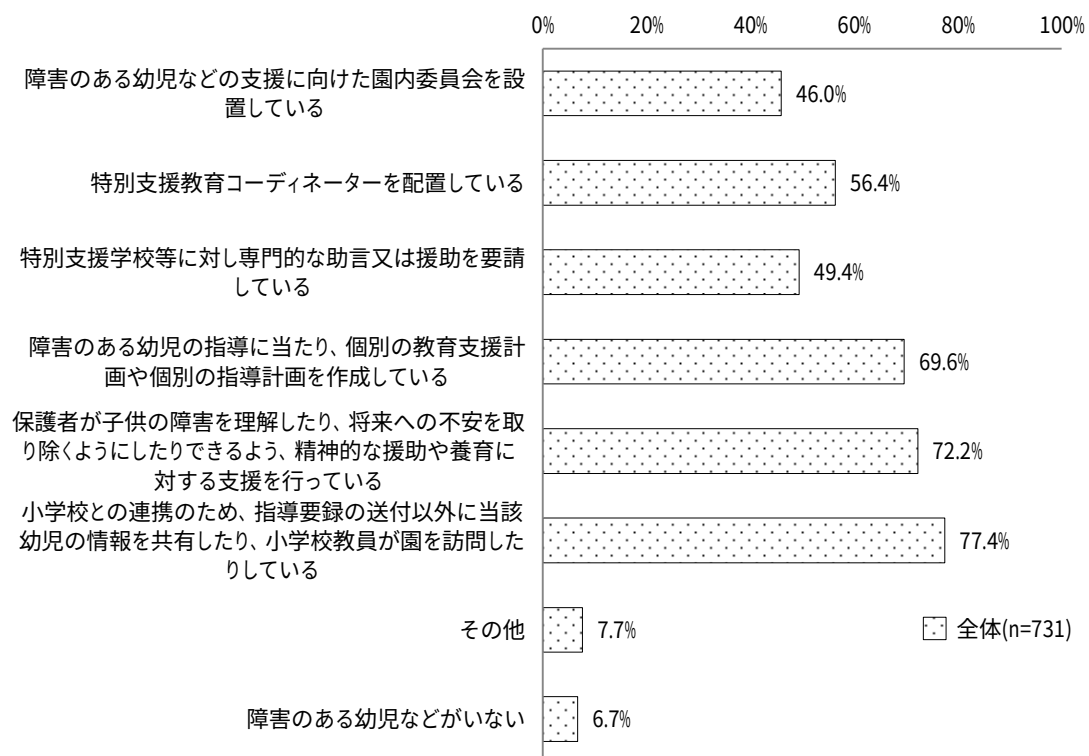


4 特別な配慮を必要とする幼児への指導、子育ての支援

4-1. 障害のある幼児などに関する取組内容 (Q15)

「小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている」が77.4%で最も割合が高く、次いで「保護者が子供の障害を理解したり、将来への不安を取り除くようにしたりできるよう、精神的な援助や養育に対する支援を行っている」が72.2%、「障害のある幼児の指導に当たり、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している」が69.6%となっている。

図表 11-35 障害のある幼児などに関する取組内容：複数回答

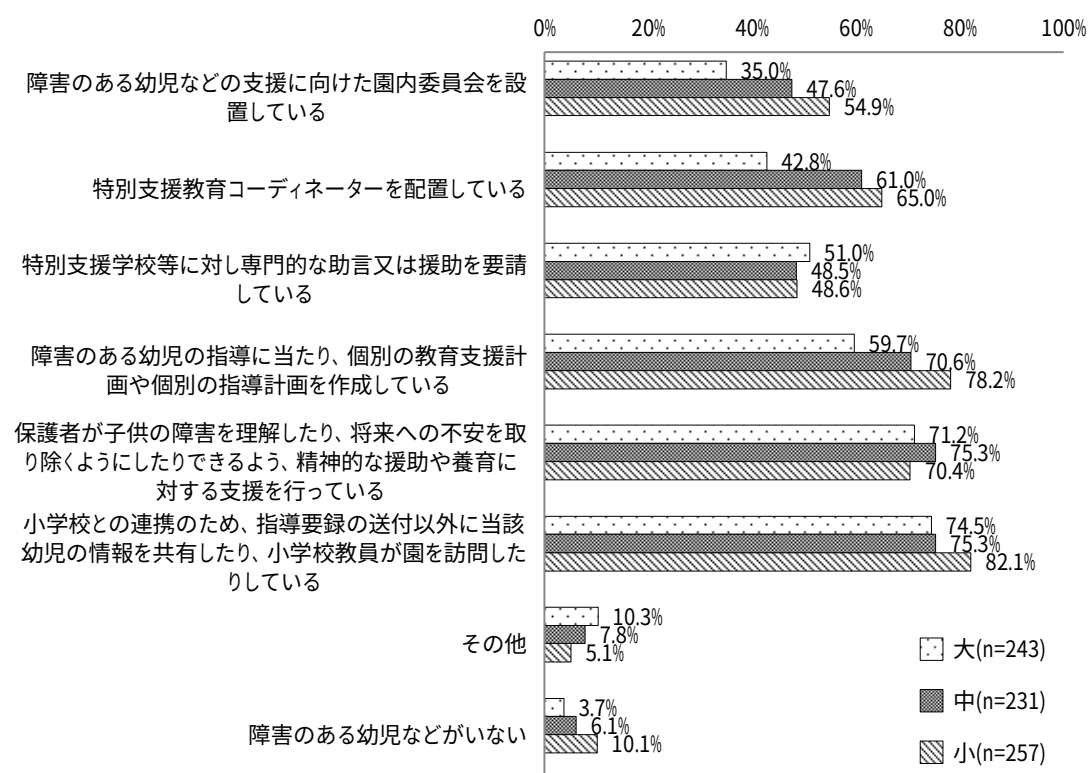


＜施設規模別＞

障害のある幼児などに関する取組内容を施設規模別にみると、いずれの施設規模においても、「小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている」が最も割合が高くなっている。

「障害のある幼児などの支援に向けた園内委員会を設置している」、「特別支援教育コーディネーターを配置している」、「障害のある幼児の指導に当たり、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している」については、施設規模「小」が「大」に比べて 20 ポイント程度回答割合が高く、規模による差が見られた。

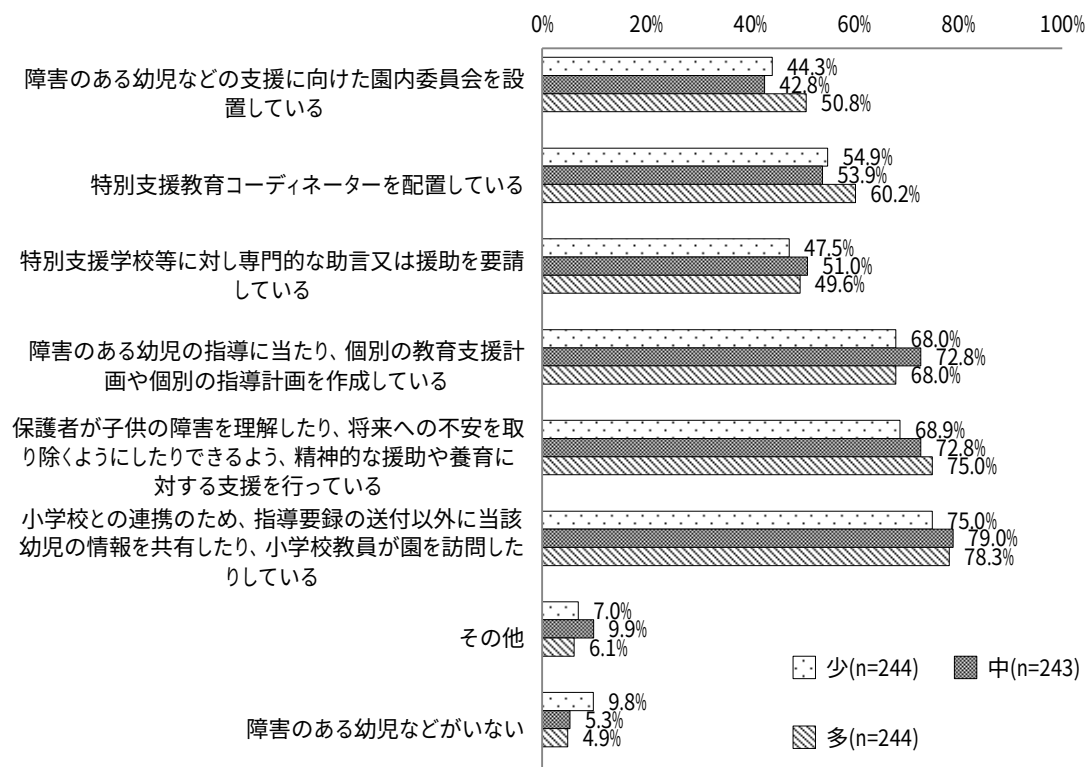
図表 11-36 施設規模別 障害のある幼児などに関する取組内容：複数回答



＜教員 1 人当たりの幼児の人数別＞

障害のある幼児などに関する取組内容を教員 1 人当たりの幼児の人数別にみると、いずれのカテゴリーにおいても、「小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている」の回答割合が最も高くなっている。

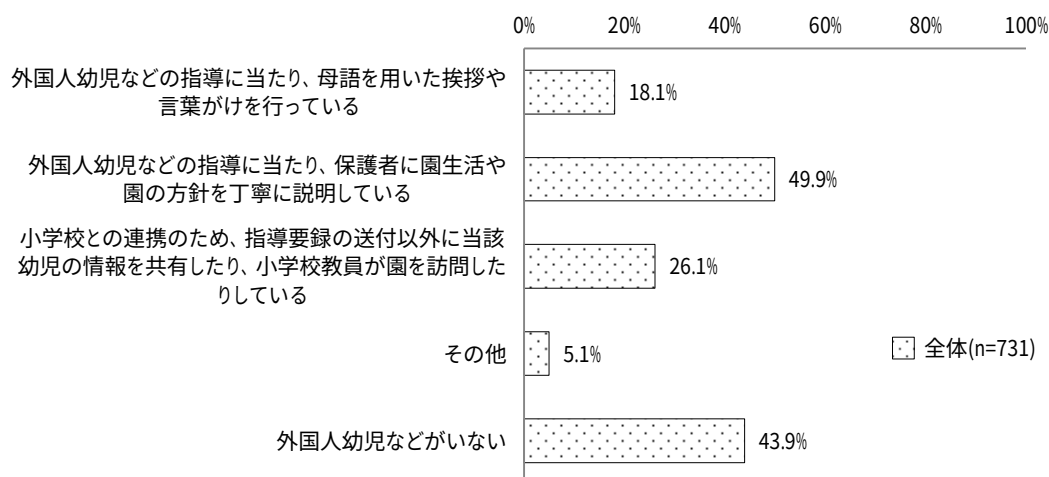
図表 11-37 教員 1 人当たりの幼児の人数別 障害のある幼児などに関する取組内容：複数回答



4-2. 外国人幼児などに関する取組内容 (Q16)

「外国人幼児などの指導に当たり、保護者に園生活や園の方針を丁寧に説明している」が49.9%で最も割合が高く、次いで「外国人幼児などがいない」が43.9%、「小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている」が26.1%となっている。

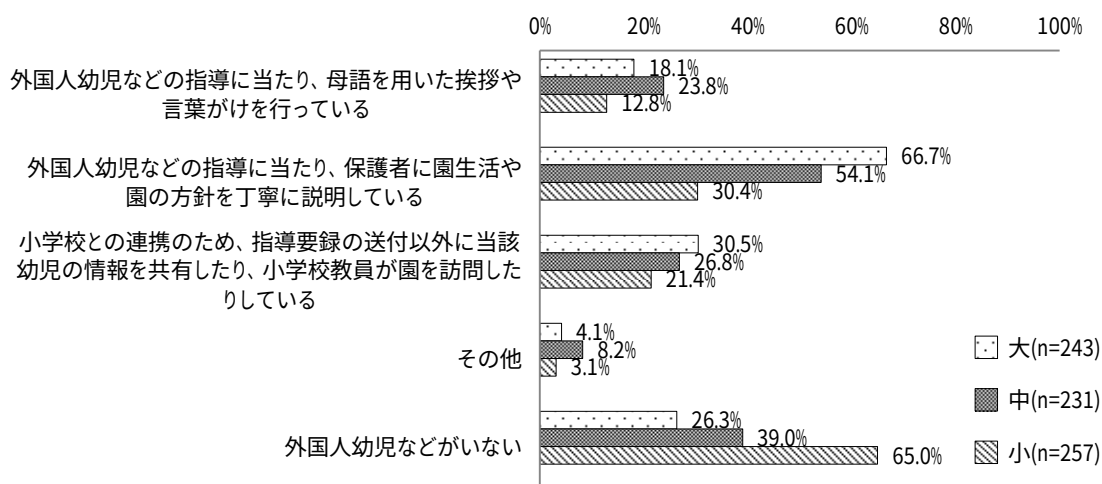
図表 11-38 外国人幼児などに関する取組内容：複数回答



<施設規模別>

外国人幼児などに関する取組内容を施設規模別にみると、施設規模「小」では、「外国人幼児などがいない」が最も高くなっている。「外国人幼児などの指導に当たり、保護者に園生活や園の方針を丁寧に説明している」は、施設規模「大」が「小」に比べて30ポイント以上回答割合が高く、規模による差が見られた。

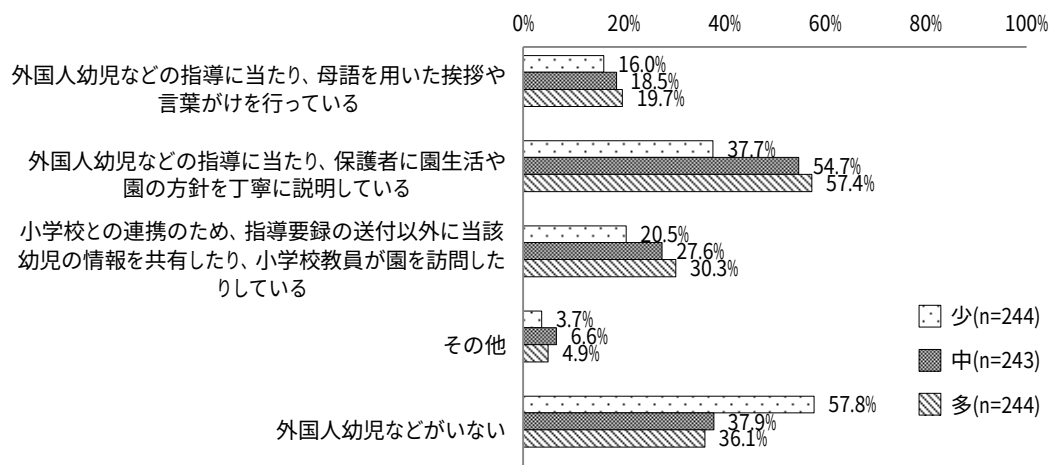
図表 11-39 施設規模別 外国人幼児などに関する取組内容：複数回答



<教員 1 人当たりの幼児の人数別>

外国人幼児等に関する取組内容を教員 1 人当たりの幼児の人数別にみると、「その他」と「外国人幼児などがいない」以外の取組について、教員1人当たりの幼児の人数が多いほど、取組の回答割合が高くなっている。

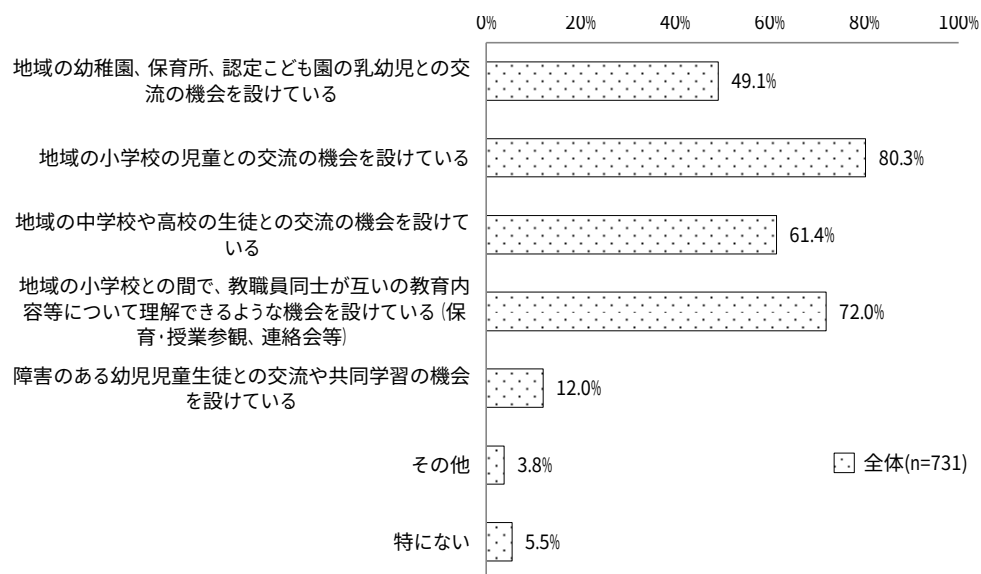
図表 II-40 教員1人当たりの幼児の人数別 外国人幼児などに関する取組内容：複数回答



4-3. その他、園運営上の留意事項 (Q17)

「地域の小学校の児童との交流の機会を設けている」が80.3%で最も割合が高く、次いで「地域の小学校との間で、教職員同士が互いの教育内容等について理解できるような機会を設けている（保育・授業参観、連絡会等）」が72.0%、「地域の中学校や高校の生徒との交流の機会を設けている」が61.4%となっている。

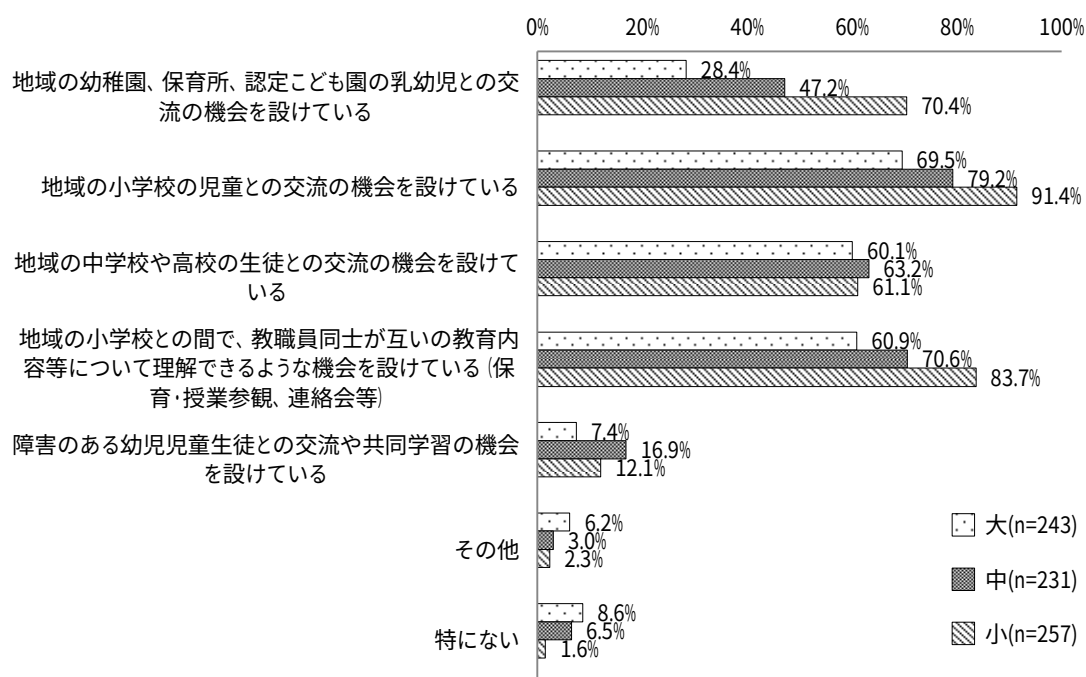
図表 11-41 その他、園運営上の留意事項：複数回答



<施設規模別>

その他、園運営上の留意事項を施設規模別にみると、施設規模が小さい施設ほど、地域の幼稚園、保育所、認定こども園との交流や小学校の児童との交流の機会を設けていることがうかがえる。特に、「地域の幼稚園、保育所、認定こども園の乳幼児との交流の機会を設けている」は、施設規模「小」が「大」に比べて40ポイント以上回答割合が高く、規模による違いが見られた。

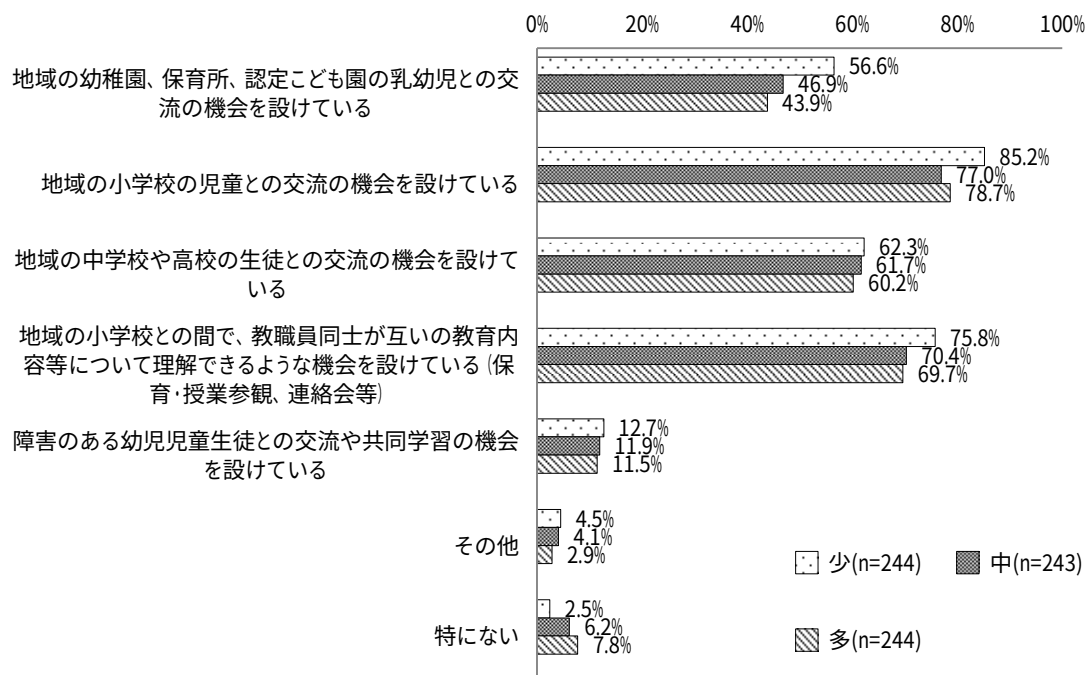
図表 11-42 施設規模別 その他、園運営上の留意事項：複数回答



<教員 1 人当たりの幼児の人数別>

その他、園運営上の留意事項を教員 1 人当たりの幼児の人数別にみると、いずれの取組も教員 1 人当たりの幼児の人数が少ない施設ほど、回答割合が高くなっている。

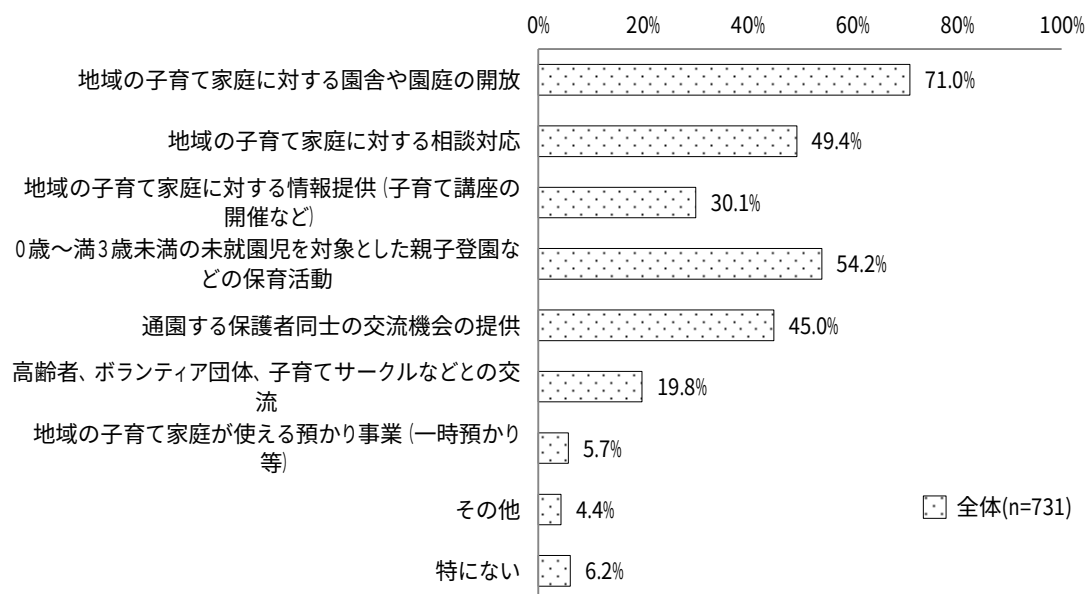
図表 11-43 教員 1 人当たりの幼児の人数別 その他、園運営上の留意事項：複数回答



4-4. 園で行っている子育ての支援（Q21）

「地域の子育て家庭に対する園舎や園庭の開放」が71.0%で最も割合が高く、次いで「0歳～満3歳未満の未就園児を対象とした親子登園などの保育活動」が54.2%、「地域の子育て家庭に対する相談対応」が49.4%となっている。

図表 11-44 園で行っている子育ての支援：複数回答

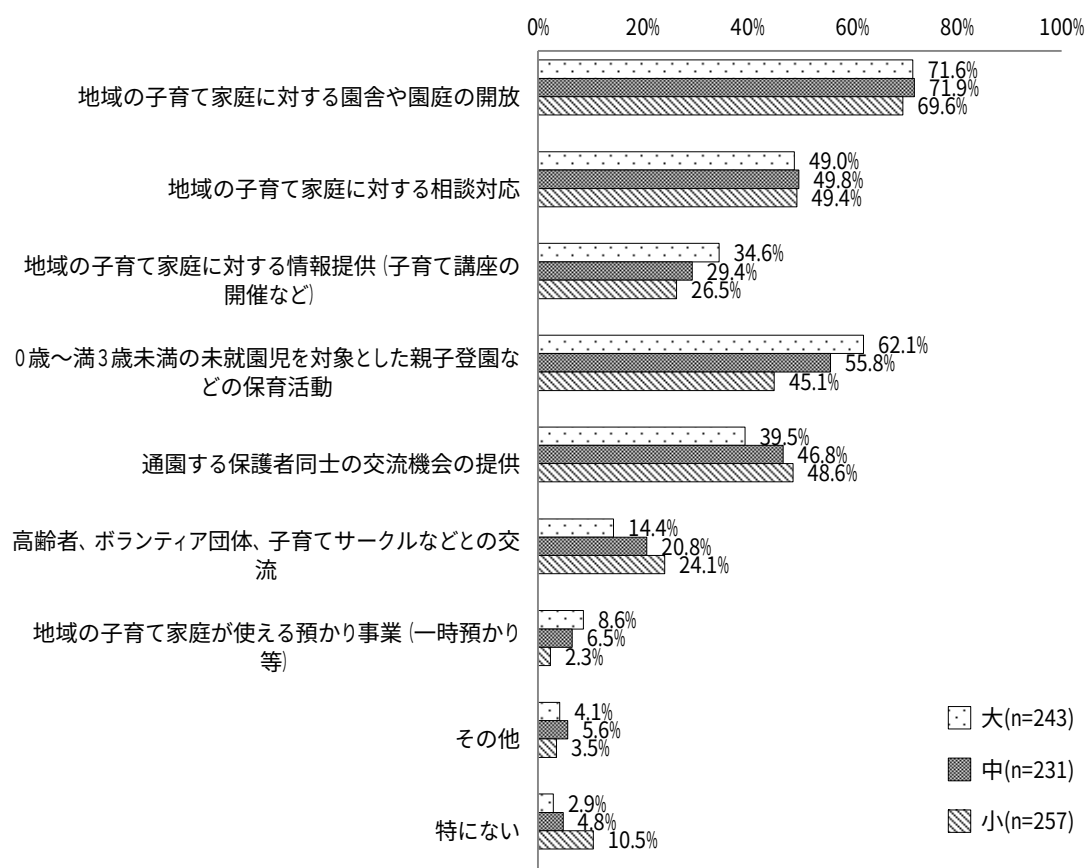


<施設規模別>

園で行っている子育ての支援の内容を施設規模別にみると、いずれの施設規模においても「地域の子育て家庭に対する園舎や園庭の開放」の割合が最も高くなっている。

「0～満3歳未満の未就園児を対象とした親子登園などの保育活動」は、施設規模「大」が「小」に比べて回答割合が15ポイント以上高くなっている。

図表 11-45 施設規模別 園で行っている子育ての支援：複数回答

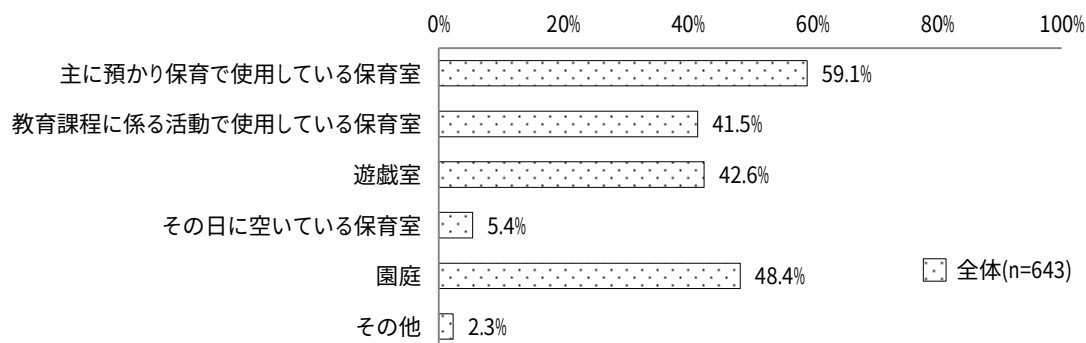


5 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動

5-1. いわゆる預かり保育の活動場所 (Q18)

「主に預かり保育で使用している保育室」が59.1%で最も割合が高く、次いで「園庭」が48.4%、「遊戯室」が42.6%となっている。

図表 II-46 預かり保育の活動場所：複数回答

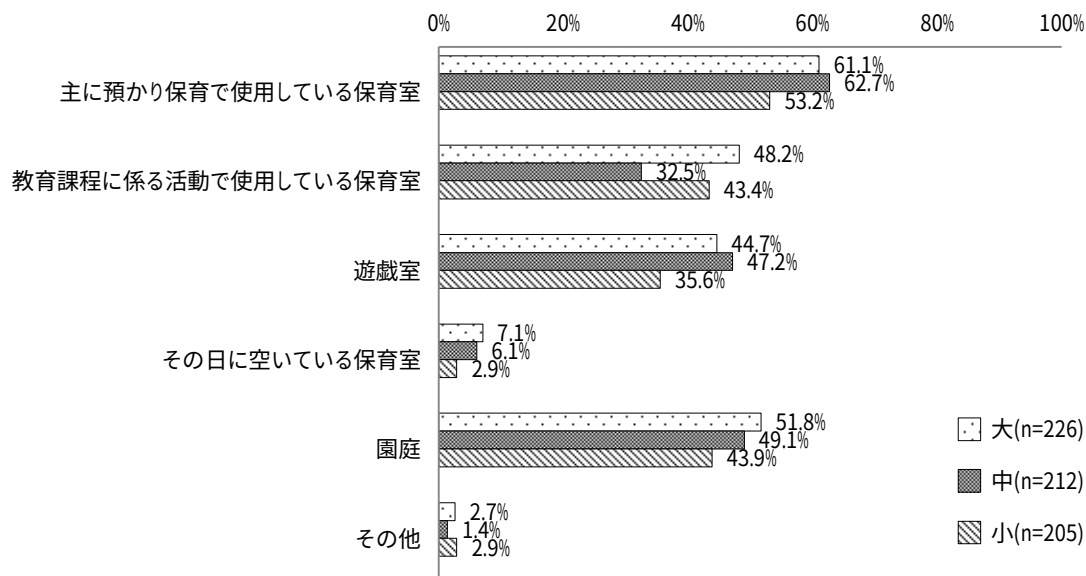


注釈) Q7～Q10 における預かり保育の実施状況を尋ねた質問において、いずれも実施していないとする園を除く。以降 Q20 まで同様。

<施設規模別>

いわゆる預かり保育の活動場所を施設規模別にみると、いずれの施設規模においても、「主に預かり保育で使用している保育室」の割合が最も高くなっている。

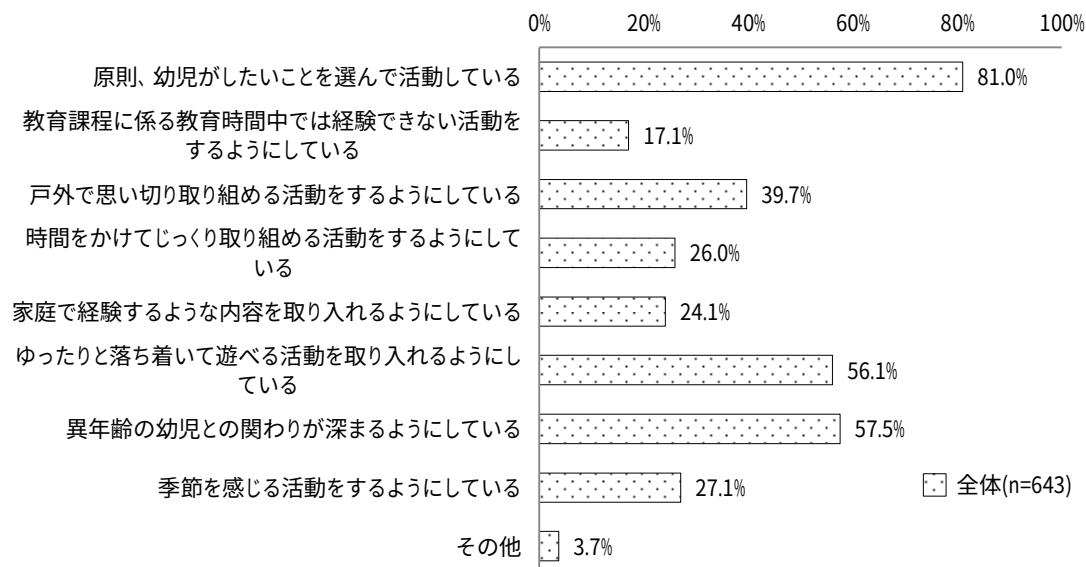
図表 II-47 施設規模別 預かり保育の活動場所：複数回答



5-2. いわゆる預かり保育の主な活動 (Q19)

「原則、幼児がしたいことを選んで活動している」が81.0%で最も割合が高く、次いで「異年齢の幼児との関わりが深まるようにしている」が57.5%、「ゆったりと落ち着いて遊べる活動を取り入れるようにしている」が56.1%となっている。

図表 11-48 預かり保育の主な活動：複数回答



各選択肢における具体的な活動内容の例は以下の通り。(自由記述より一部抜粋)

図表 11-49 預かり保育の主な活動における具体的な活動内容例

教育課程に係る教育時間中では経験できない活動をするようにしている	・ 教育時間中に使用しない玩具遊び ・ ままごと、ブロック、塗り絵、カード、ボードゲーム、将棋 ・ おやつ時間、リラックスタイム ／等
戸外で思い切り取り組める活動をするようにしている	・ 鬼ごっこ・かくれんぼ ・ ボール遊び ・ 砂遊び ・ 竹馬、三輪車、二輪車 ・ 園庭の活用 ／等
時間をかけてじっくり取り組める活動をするようにしている	・ パズル ・ アイロンビーズ ・ ブロック ・ お絵描き、塗り絵、編み物 ・ 折り紙、粘土、製作 ／等
家庭で経験するような内容を取り入れるようにしている	・ ままごと、人形遊び ・ 簡単なおやつ作り ・ 教育番組、DVD の視聴 ・ 眠たくなる子には休息のとれる場所を確保する ／等

ゆったりと落ち着いて遊べる活動を取り入れるようにしている	・ ブロック ・ お絵描き、塗り絵 ・ トランプ、かるた ・ 絵本 ／等
異年齢の幼児との関わりが深まるようにしている	・ 縦割り保育になるよう、預かり保育時のクラス分けをしている。 ・ 活動内でも学年にとらわれず遊んでいる。 ・ 3 学年合同で外遊びやカードゲームなどを行っている。 ・ 異年齢でペアを組み、製作やゲームをする。 ・ 異年齢の子供たちが同じ保育室で活動するため、自然と関わられるように声をかけて遊びが広がるようにしている。／等
季節を感じる活動をするようにしている	・ 水遊び、すいか割り、虫取り、かき氷作り ・ 落ち葉拾い、どんぐり拾い、そり滑り ・ こいのぼりづくり、七夕、クリスマス飾りなどの製作 ・ 園庭の草花で色水を作ったり、木の実や葉、枝集めをしたりして楽しむ。野菜を育てる。 ・ 野菜や木の実を収穫したり、図鑑をもって屋外の草花の名前を見つける。 ・ 季節のイベント（夏祭り・ハロウィン・クリスマス会・お別れ会）などを行っている。 ／等
その他	・ 長期休暇中は、日頃できないスライム作成、寒天遊び、季節の制作、絵の具遊び、水遊び、園庭ピクニックなど ・ 遊びや活動だけでなく休息できる場を設けている。 ・ 夕方行われる、地域主催の盆踊りの練習に参加するなど、地域の方や小学生との関わりながらの体験も取り入れている。 ・ 身体を動かして遊べる場を保育室そばで確保している。／等

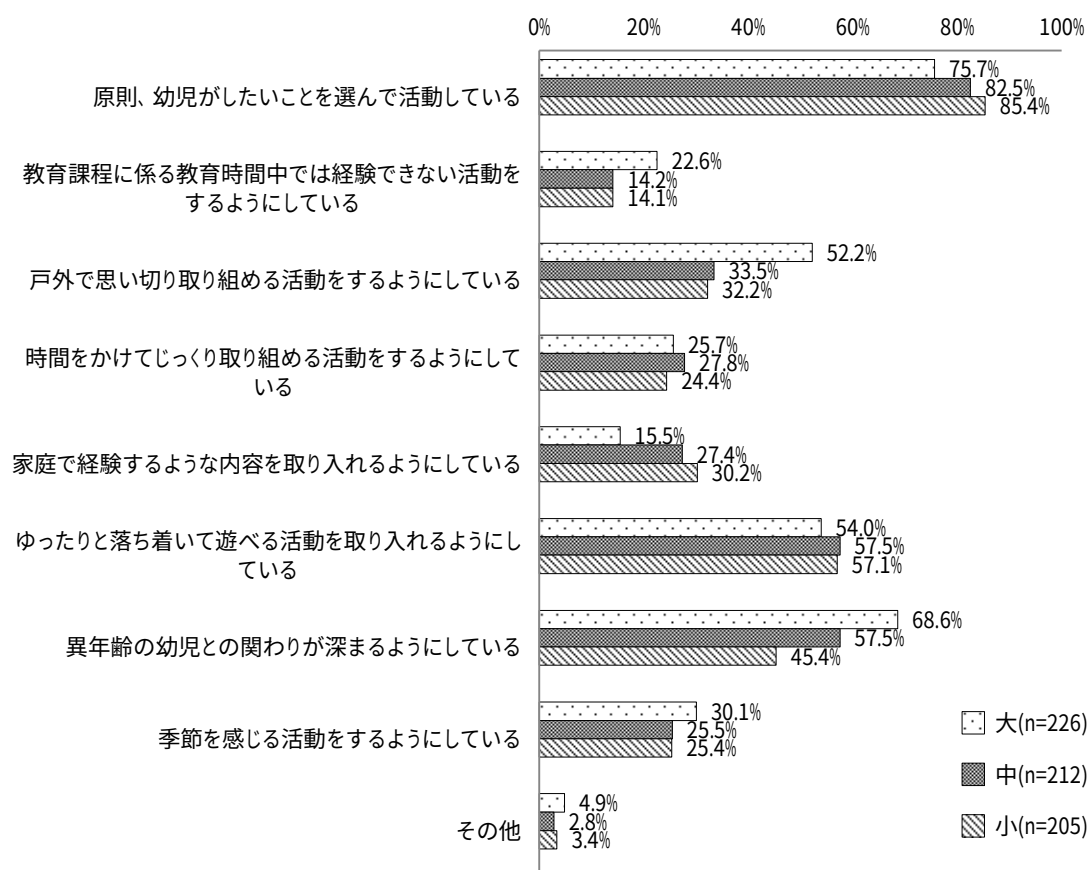
注釈) 抜粋に当たり、誤字脱字を修正し、意味を損なわない程度で回答内容を一部加筆・修正・省略した。

＜施設規模別＞

預かり保育の主な活動を施設規模別にみると、いずれの施設規模においても、「原則、幼児がしたいことを選んで活動している」の割合が最も高くなっている。

「戸外で思い切り取り組める活動をするようにしている」の回答割合は、施設規模「大」では5割を超えているが、「小」「中」では3割程度にとどまっており、規模による違いが見られた。また、「異年齢の幼児との関わりが深まるようにしている」においても、施設規模「大」は「小」に比べて 20 ポイント以上回答割合が高くなっている。

図表 II-50 施設規模別 預かり保育の主な活動：複数回答



5-3. いわゆる預かり保育における課題 (Q20)

「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる「預かり保育」）について、以下のような課題があればその理由とともに具体的にお答えください。（預かり保育における活動と、教育課程に基づく活動とを関連付けることが難しい。／預かり保育を担当する先生と、教育課程に係る教育時間を担当する先生との情報共有が難しい。／預かり保育を利用する保護者と、教育課程に係る教育時間を担当する先生との連携が難しい。など）」に対して自由記述回答を求めた。回答のあった 386 件のうち、「特になし」といった回答や質問と関係しない回答、課題と判断しにくい回答計 109 件を除き、277 件を分析した。

いわゆる預かり保育における課題とその理由として、「人材確保、配置、業務負担等」、「教育課程に基づく活動を担当する教員との連携」、「教育課程に基づく活動を考慮した預かり保育の活動」、「保護者との情報共有等」、「保育室等の整備」、「幼児の心身の負担への配慮」、「預かり時間や頻度の違いへの対応、発達に応じた活動等」に関する回答が得られた（回答が多い順、重複回答）。教育課程に係る教育時間と預かり保育を同じ教員が担当する場合には、当該教員の業務負担が課題として挙げられ、異なる場合には、両者の連携や教育課程に基づく活動を考慮した預かり保育の活動、保護者との情報共有等が課題として挙げられるなど、預かり保育における課題は複合的に関連していることがうかがえた。なお、「人材確保、配置、業務負担等」に関する課題には、幼児教育の専門性を有する人材の確保に関する課題や、専門性向上のための研修や教職員連携のための打合せの時間の確保に関する課題なども含まれる。また、「人材確保、配置、業務負担等」に関する課題に関する回答の一部には、その理由として、特別な配慮を必要とする幼児への対応を挙げる回答もあった。以下、それぞれのカテゴリーに当てはまる回答を一部抜粋した。

図表 II-51 預かり保育における課題

人材確保、配置、業務負担等	・ 預かり保育専任の有資格者の確保が難しい。 ・ 預かり保育を担当する人材の確保が難しい。資格や免許保持者以外にも枠を広げているが、応募者がいない。 ・ 預かり保育専任の教員を雇用する費用を確保するのが難しい。 ・ 預かり保育の利用が増えており、職員不足が深刻な状況にある。特別な配慮が必要な園児が預かり保育を利用するときの支援が十分にできない状況にある。 ・ 休業日や長期休業日の預かり保育担当を配置するのが難しい。 ・ 預かり保育を担当する教職員が研修する時間までなかなか取れない。 ・ 教育課程に係る教育時間を担当する教員の一部が、そのまま預かり保育を担当するので、勤務時間が長くなりがちである。 ・ 教育課程に係る教育時間と預かり保育を同じ教職員が担当し
---------------	--

	ているため、全教職員での打合せや研修の確保が課題である。 ・ 教育課程に係る教育時間を担当する教員が交代で預かり保育を担当しているため、保育終了後の教職員同士の情報交換や一人一人の子供たちへの指導・援助、環境構成などの共通理解を図る時間がなかなか取れず困っている。／等
教育課程に基づく活動を担当する教員との連携	・ 勤務時間（出退勤時間）の違いから情報共有をする時間の確保が難しい。 ・ 職員会議や保育の振り返りの時間等に預かり保育担当者が参加することができないため、情報共有が難しい。 ・ 教職員全員での話し合いがもてず、共通理解が求められる内容などの情報共有等が難しい。／等
教育課程に基づく活動を考慮した預かり保育の活動	・ 預かり保育の担当者が、教育課程に基づく活動を実際に見たり一緒にに行ったりしていないこともあり、関連付けて活動を行うことは難しい。 ・ 教育課程に基づく活動から預かり保育への連携は取りやすいが、預かり保育から次の日等の教育課程に基づく活動への連携について、重要性を感じてはいるが、どのように進めていくかが難しい。 ・ 預かり保育を利用している子供としていない子供の体験に差が出てしまうことがあり、そのバランスの取り方や活動の組み立て方が難しい。 ・ 預かり保育の担当者が複数いることや、ほぼ毎日利用する幼児と単発的に利用する幼児がいること、一日の利用時間数がそれぞれなにより、教育課程に基づく活動と関連し継続させることは難しい。 ・ 預かり保育は学年別ではなく、異年齢児保育となるため、教育課程に基づく活動と関連付けて進めていくことは難しい。／等
保護者との情報共有等	・ 預かり保育を利用する家庭が多く、利用時間（お迎えの時間）もそれぞれ違うため、教育課程に係る教育時間を担当する学級担任は、保護者との連携に苦慮している。 ・ 預かり保育を利用する保護者と学級担任との連絡時間が合わないことが多く、学級担任が残業することが多くなる。 ・ 保護者が迎えに来る前に預かり保育支援員が交替するため、保護者に幼児の様子を伝えるための連携が難しい。 ・ 預かり保育を利用する保護者と学級担任、預かり保育の担当者との関わりを毎日保障できず、問題があるときに限られやすい。 ・ 情報の共有が難しい。保護者にとって、便利なサービスとして捉えられてしまい、教育と思われてない点が課題である。／等

保育室等の整備	・ 預かり保育を行う専用の保育室がない。 ・ 預かり保育を行う保育室が狭い。 ・ 預かり保育の希望者が増加して、部屋が足りなくなっている。 ・ 預かり保育のための保育室がないので、教育課程に係る教育時間中に使う保育室を利用することになるため、当該保育室での翌日の保育のための環境の準備が十分に行えない。 ／等
幼児の心身の負担への配慮	・ 年々、預かり保育をする幼児が増え、園で長時間過ごす幼児が増えている。 ・ 最長 11 時間に及ぶ保育に際しては、園児の体力の限界を感じることがある。 ・ 預かり保育の人数が多く、家庭的にゆったり過ごすといった前提を担保する事が難しい。 ／等
預かりの時間や頻度の違いへの対応、発達に応じた活動等	・ 園児数が少ないため、異年齢児との合同保育を行っており、年齢に応じた活動をすることが難しい。 ・ 預かり保育は毎日人数もメンバーも変わることがあり、保育の中身を考えることの課題は多い。 ・ 預かり人数が日によって違うので、遊具の種類やスペースなどを工夫しているが、少人数（1人～2人）になると、子どもの遊びに対する意欲が薄くなってしまう。 ・ 迎えに来る時間がそれぞれで落ち着いて取り組むことが難しい。 ／等

注釈) 抜粋に当たり、誤字脱字を修正し、意味を損なわない程度で回答内容を一部加筆・修正・省略した。

図表 11-52 預かり保育における課題（自由記述のカテゴリー化による集計）

カテゴリー	度数	割合
人材確保、配置、業務負担等	122	34.8%
教育課程に基づく活動を担当する教員との連携	99	28.2%
教育課程に基づく活動を考慮した預かり保育の活動	55	15.7%
保護者との情報共有等	34	9.7%
保育室等の整備	14	4.0%
幼児の心身の負担への配慮	12	3.4%
預かりの時間や頻度の違いへの対応、発達に応じた活動等	11	3.1%
その他	4	1.1%

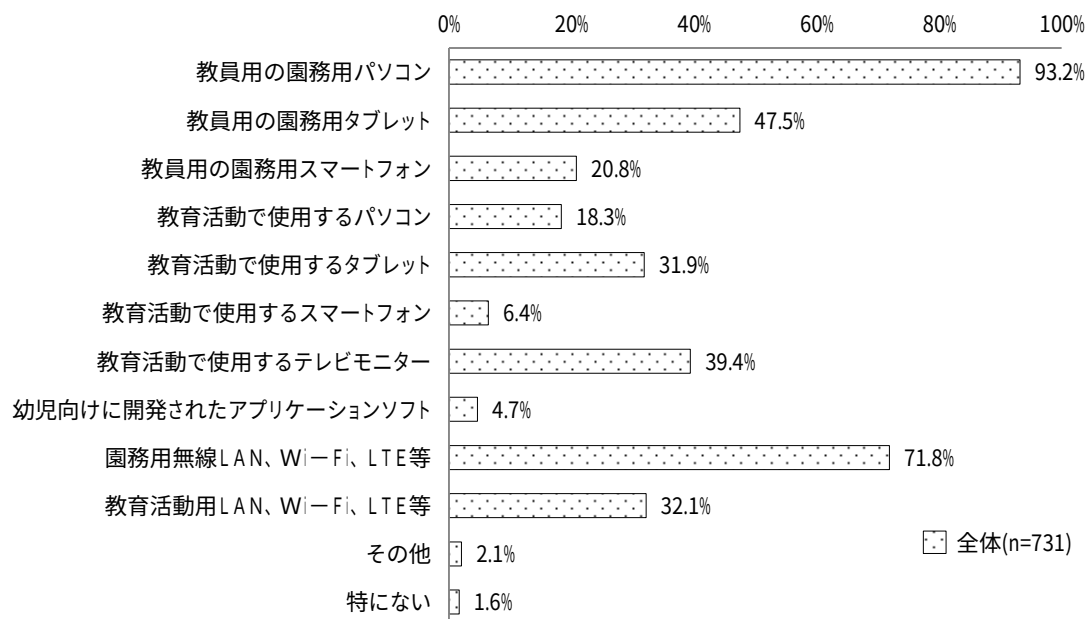
注釈）カテゴリー間で重複してカウントしている。カウントされた度数の合計 351 件を基に割合を算出している。

6 ICT 整備の状況

6-1. 園の ICT 環境 (Q22)

「教員用の園務用パソコン」が 93.2% で最も割合が高く、次いで「園務用無線 LAN、Wi-Fi、LTE 等」が 71.8%、「教員用の園務用タブレット」が 47.5% となっている。

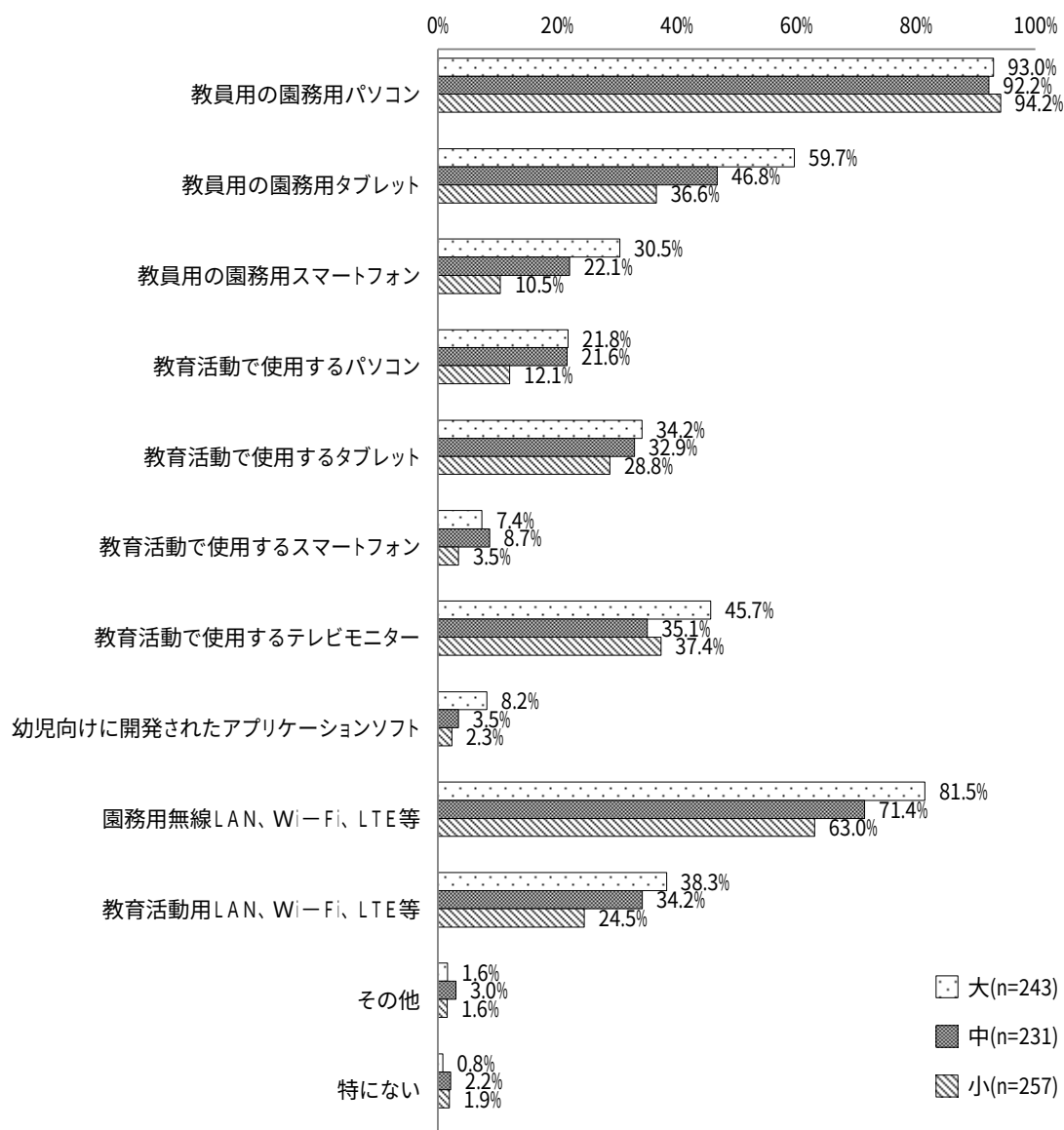
図表 II-53 園の ICT 環境：複数回答



<施設規模別>

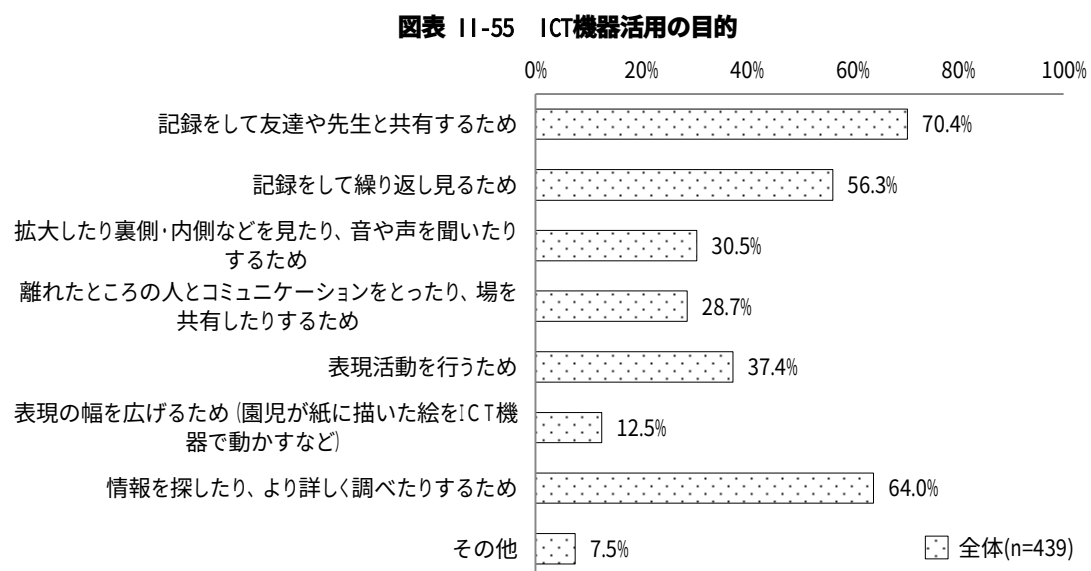
園の ICT 環境を施設規模別にみると、「教員用の園務用タブレット」「教員用の園務用スマートフォン」「園務用無線LAN、Wi-Fi、LTE等」「教育活動用LAN、Wi-Fi、LTE等」において、施設規模「大」は「小」に比べて 10 ポイント以上回答割合が高く、規模による違いが見られた。

図表 II-54 施設規模別 園のICT環境：複数回答



6-2. ICT 機器活用の目的 (Q23)

「記録をして友達や先生と共有するため」が70.4%で最も割合が高く、次いで「情報を探したり、より詳しく調べたりするため」が64.0%、「記録をして繰り返し見るため」が56.3%となっている。

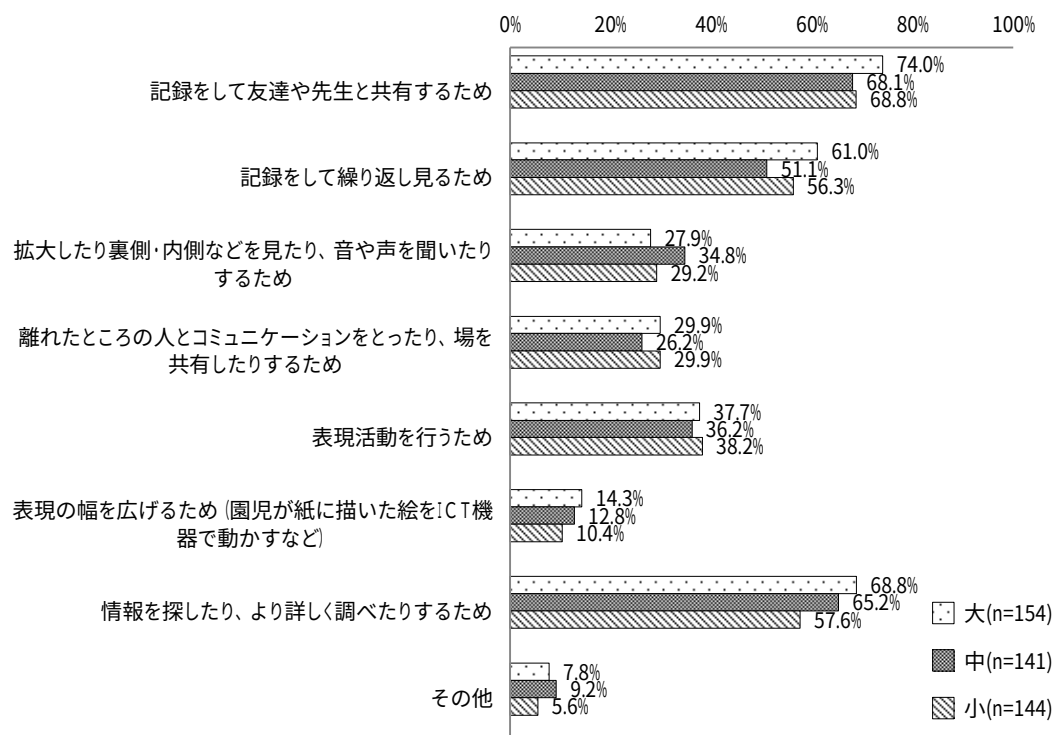


注釈) 対象は Q22 で「教育活動で使用するパソコン」「教育活動で使用するタブレット」「教育活動で使用するスマートフォン」「教育活動で使用するテレビモニター」と回答したサンプルに限定。

<施設規模別>

ICT 機器活用の目的を施設規模別にみると、いずれの施設規模においても、「記録をして友達や先生と共有するため」の回答割合が最も高くなっている。

図表 11-56 施設規模別 ICT機器活用の目的



注釈) 対象は Q22 で「教育活動で使用するパソコン」「教育活動で使用するタブレット」「教育活動で使用するスマートフォン」「教育活動で使用するテレビモニター」と回答したサンプルに限定。

6-3. ICT 機器を活用した教育活動を実施した際の課題 (Q24)

「ICT 機器を活用して教育活動を実施した際に、想定していたような活動にならなかったり、幼児の発達にふさわしくなかったりしたことがあれば、具体的にお答えください。」に対して自由記述回答を求めた。回答のあった 157 件のうち、「特にない」、「ICT を活用していない」といった回答や質問と関係しない回答、課題と判断しにくい回答計 112 件を除き、45 件を分析した。

ICT 機器を活用した教育活動を実施した際の課題としては、「幼児の発達や活動のねらいに応じた活用」に関する回答のほか、ICT 機器のスペックや Wi-Fi 環境に関する「物理的環境の整備」、動画広告や幼児にふさわしくない情報の表示に関する「不適切なコンテンツの表示」、ICT 機器・ネットワークの操作やトラブル対応に関する「ICT の専門的知見や操作」に関する回答が得られた（回答が多い順、重複回答）。「物理的環境の整備」に関する回答では、小学校との差への言及もあった。そのうち、「幼児の発達や活動のねらいに応じた活用」に関わる課題については、以下に一部抜粋した。

図表 II-57 ICT 機器を活用した教育活動を実施した際の課題

簡単にいろいろなことが調べられるので図鑑や絵本を見る機会が以前より減っている。子供も調べるイコールタブレットとなっている。
実際に見ることができないもの（生き物、食物の成長の様子、など）を見るには良いが、実際に見ることができたり、図鑑などを活用して調べることができたりするものに対して安易に使っているところ。いろいろな調べ方があることを子供達には伝えたが、世の中が ICT を活用することばかりに走っているように感じる。
生き物の生態や種類、名前について、分からないときにパソコンなどで調べると、すぐに答えが分かる。しかし、安易にパソコンなどばかりを頼ってしまう傾向に陥ると、答えを知って満足という結果に終わってしまう。実際の生き物に触れたり、飼育したりする機会を充実させていくことを大切にしなければと痛感する。
ネットから簡単に様々な写真を引っ張ってくることができるようになった。その分、職員は活動での資料を、本物ではなく写真やイラストを用意するだけで満足してしまうことが増えたと感じる。例えば、かたつむりやみのむし、どんぐりなど、実際に用意すれば見て、触ることができるのに、自分の足で自然物を探しに行かない職員に困っている。
小学生から動画で折り紙の制作の仕方を教えてもらう取組を行ったが、画面を止めたり再生したりを繰り返さないとなかなか折り方がわからず、画面から読み取ることも難しそうであった。
幼稚園同士で 5 歳児がオンライン交流を行った。離れていることや地域が違うことは分かっているが、その距離感やオンラインで交流している意味の理解となると幼児には難しいと感じる場面があった。また、他者意識が未熟な幼児にとって自分中心で進めるため画面越しの相手のことを考えて表現するのは難しいことなのだと感じた。（幼児の考えたゲー

ムやクイズはそばにいないと分からなかったりできなかったりした)
幼児の遊びの様子を見ながら、遊びが充実すると思われる場面を取り入れているが、ICT機器を使うこと自体が目的になってしまうことがある。
園児用タブレットがあるが、目的があって利用するのではなく、タブレットそのものを触ることが目的になり続けることがある。園児によってはそこから離れられなくなる場合がある。
動画の視聴などでは、幼児にとって魅力すぎたり、刺激が強すぎたりするためか、視聴を止められなくなることがあった。

注釈) 抜粋に当たり、誤字脱字を修正し、意味を損なわない程度で回答内容を一部加筆・修正・省略した。

図表 11-58 ICT機器を活用した教育活動を実施した際の課題（自由記述のカテゴリー化による集計）

カテゴリー	度数	割合
幼児の発達や活動のねらいに応じた活用	24	49.0%
物理的環境の整備	12	24.5%
不適切なコンテンツの表示	6	12.2%
ICT の専門的知見や操作	4	8.2%
その他	3	6.1%

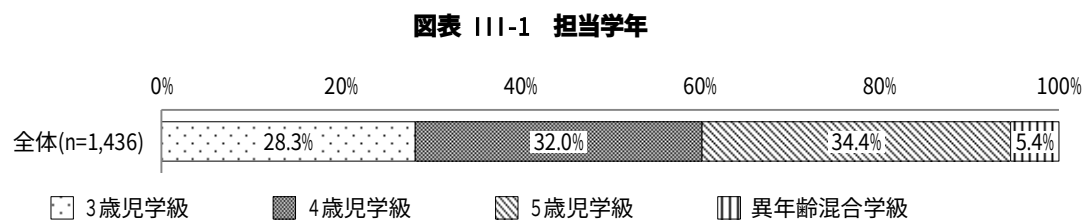
注釈) カテゴリー間で重複してカウントしている。カウントされた度数の合計 49 件を基に割合を算出している。

III. 調査結果（各学年担当教員向け調査）

1 基礎的情報

1-1. 担当学年

回答した教員の担当学年は、「5歳児学級」が34.4%で最も割合が高く、次いで「4歳児学級」が32.0%、「3歳児学級」が28.3%となっている。

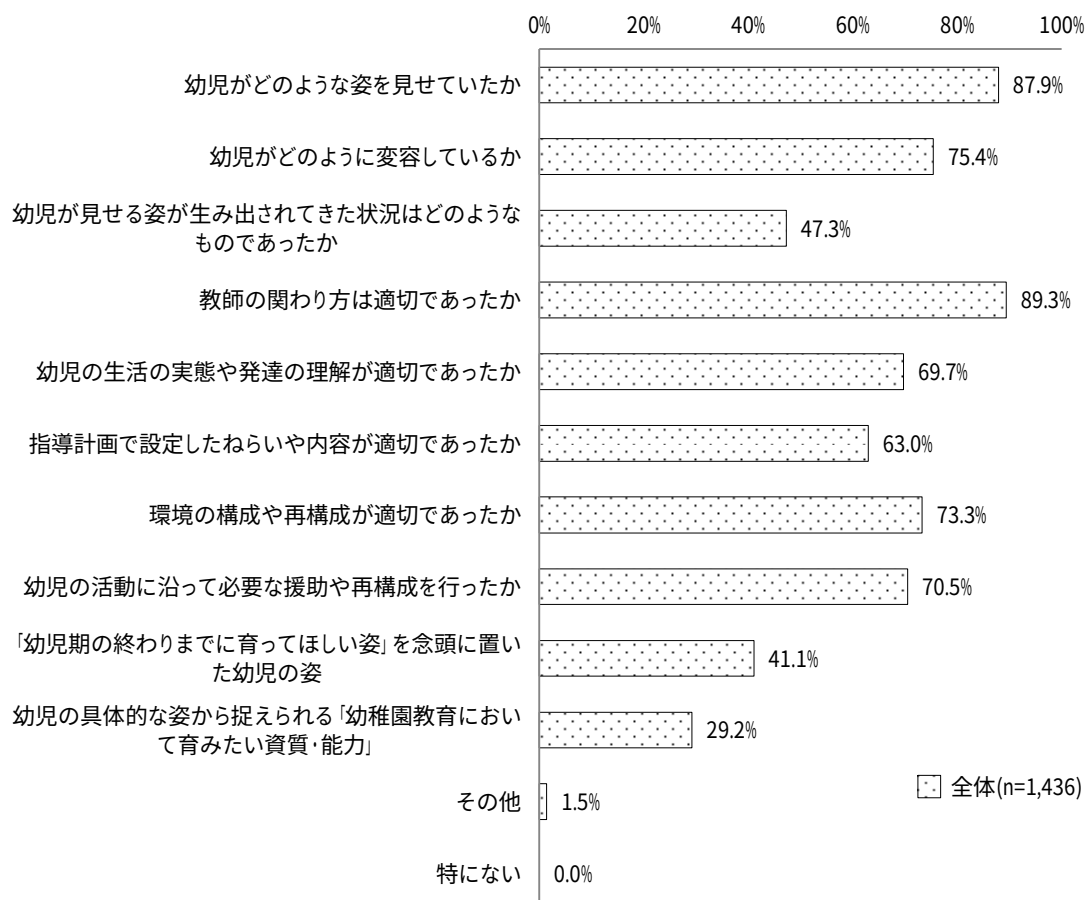


2 幼児理解に基づいた評価の実施

2-1. 指導の過程を振り返る視点 (Q1)

指導の過程を振り返る視点として、「教師の関わり方は適切であったか」という視点が89.3%で最も割合が高く、次いで「幼児がどのような姿を見せていたか」という視点が87.9%、「幼児がどのように変容しているか」という視点が75.4%となっている。

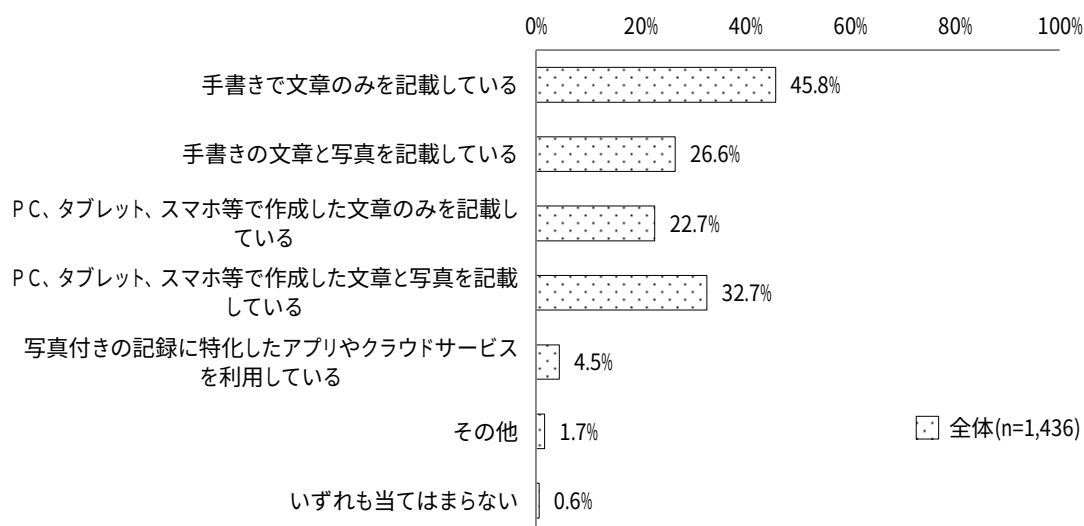
図表 III-2 ご自身の指導の過程について評価する際に、振り返っている視点として当てはまるものをお答えください：複数回答



2-2. 教育活動に関する記録 (Q2)

教育活動の記録方法についてみると、「手書きで文章のみを記載している」が45.8%で最も割合が高く、次いで「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」が32.7%、「手書きの文章と写真を記載している」が26.6%となっている。

図表 III-3 ご自身は、日頃、教育活動に関する記録をどのようにしていますか：複数回答



上記選択肢を以下の手順で再分類し、「手書き」「ICT」「手書きと ICT 併用」の3つに整理した結果が次の図表である。

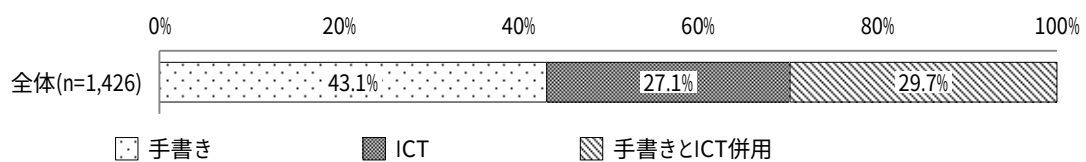
- ・ 「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれかを選択し、かつ「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれについても選択していない場合は、教育活動の記録方法を「手書き」として分類。
- ・ 「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれかを選択し、「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれについても選択していない場合は教育活動の記録方法を「ICT」に分類。
- ・ 「手書きで文章のみを記載している」、「手書きの文章と写真を記載している」のいずれかを選択し、かつ、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している」、「PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している」、「写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している」のいずれかについても選択している場合は「手書きと ICT 併用」と分類。

図表 III-4 教育活動の記録方法による分類

カテゴリー	度数	割合 (%)
手書き	615	43.1
ICT	387	27.1
手書きと ICT 併用	424	29.7

注釈) 度数と割合は、カテゴリーのいずれにも該当しない n=10 を除く。

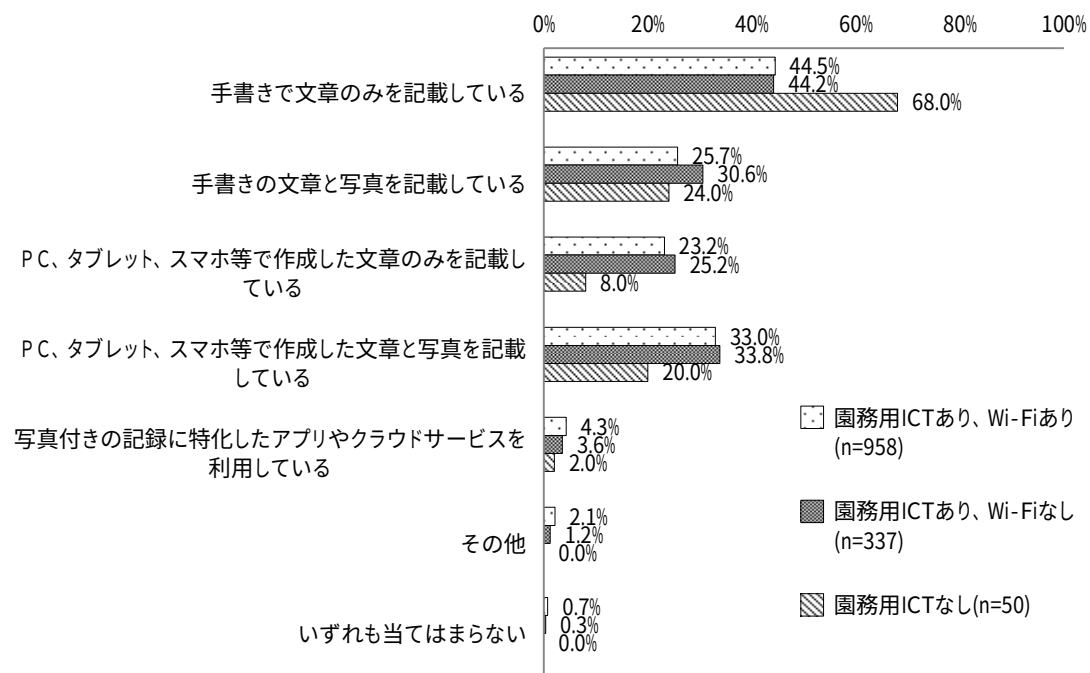
図表 III-5 教育活動の記録方法による分類



＜園務用 ICT と Wi-Fi の有無別＞

管理職向け調査と各学年担当教員向け調査のマッチングデータを使用し、管理職向け調査で把握した園の園務用 ICT と Wi-Fi の有無別に教育活動に関する記録の取り方についてみると、「園務用 ICT あり、Wi-Fi あり」、「園務用 ICT あり、Wi-Fi なし」、「園務用 ICT なし」のいずれにおいても「手書きで文章のみを記載している」割合が最も高いが、「園務用 ICT なし」が他の分類よりも 20 ポイントほど高くなっている。反対に、「PC、タブレット、スマホ等」で作成した文書、あるいは文書と写真を記載しているとの選択肢の回答割合は、「園務用 ICT なし」の園で低くなっている。園務用 ICT ありの園で、Wi-Fi の有無による回答傾向の大きな違いは見られなかった。

図表 III-6 園務用ICTとWi-Fiの有無別 ご自身は、日頃、教育活動に関する記録をどのようにしていますか：複数回答



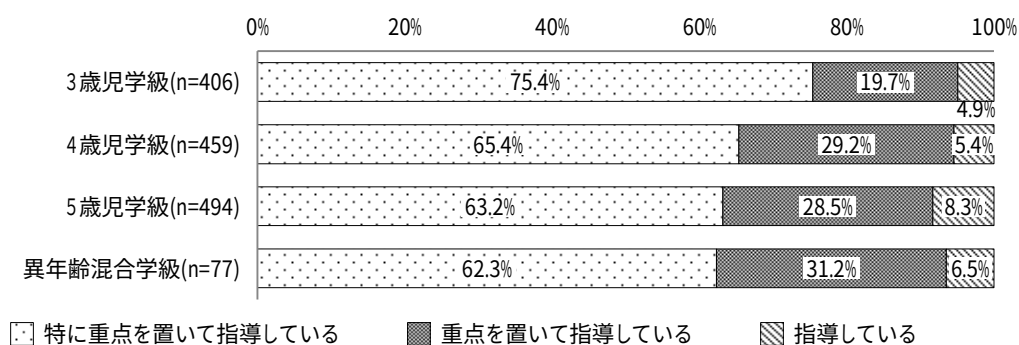
3 幼稚園教育要領5領域のねらい・内容

以降では、幼稚園教育要領の5領域それぞれのねらい・内容に関する、回答者（各学年担当教員）の指導の実態について尋ねた結果を、回答者の担当学年ごとに集計している。総じてすべての領域について、教員がそのねらい・内容を意識しながら指導している様子が明らかとなった。

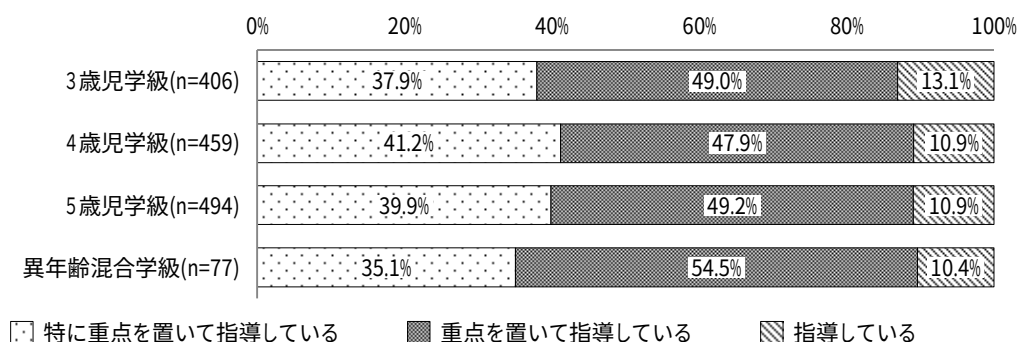
3-1. アンケート調査（健康）

「健康」領域においては、「先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する」や「身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が低くなっている。一方、「幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する」などについては、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が高くなっている。

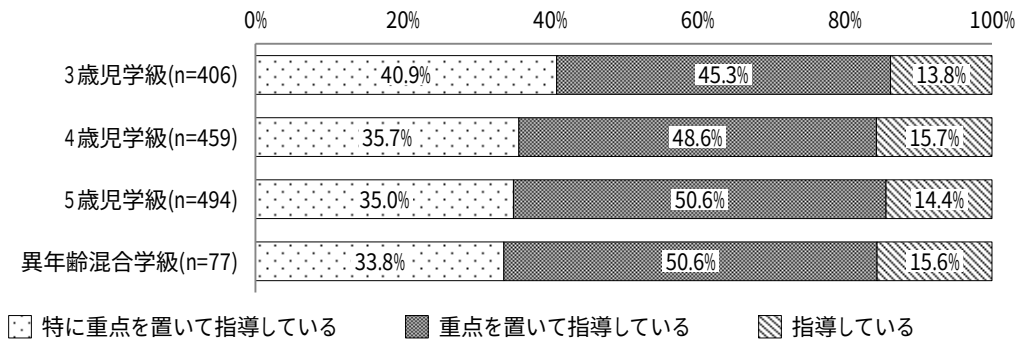
図表 III-7 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する



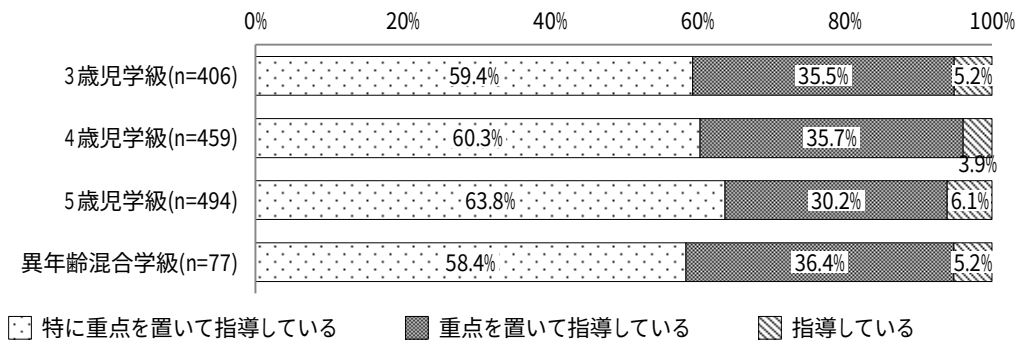
図表 III-8 いろいろな遊びの中で十分に体を動かす



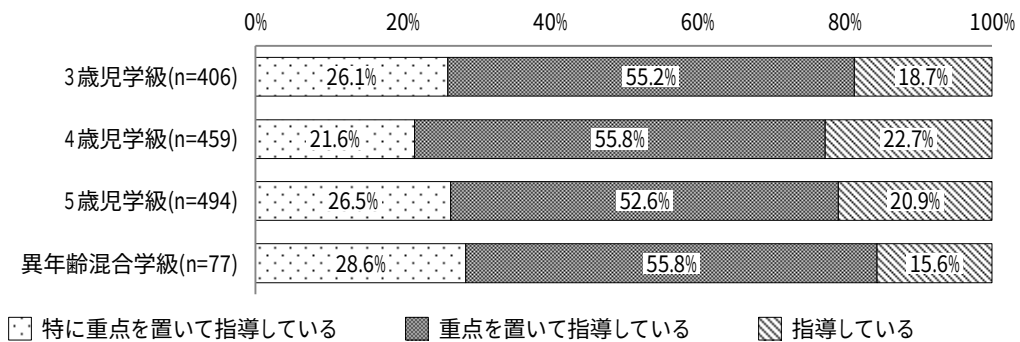
図表 III-9 進んで戸外で遊ぶ



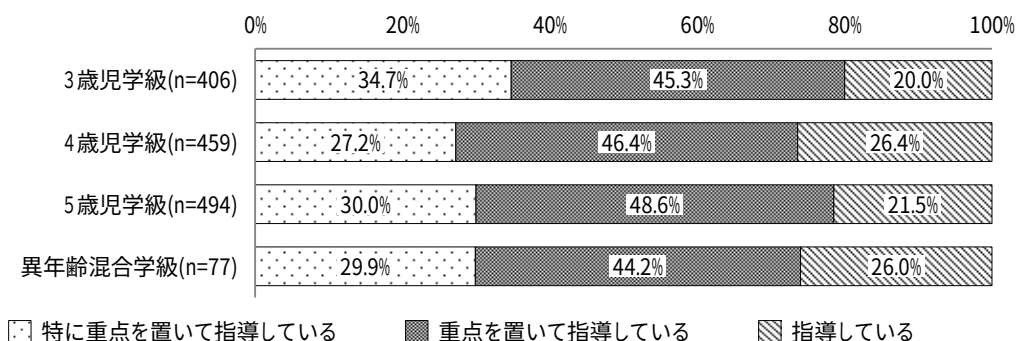
図表 III-10 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む



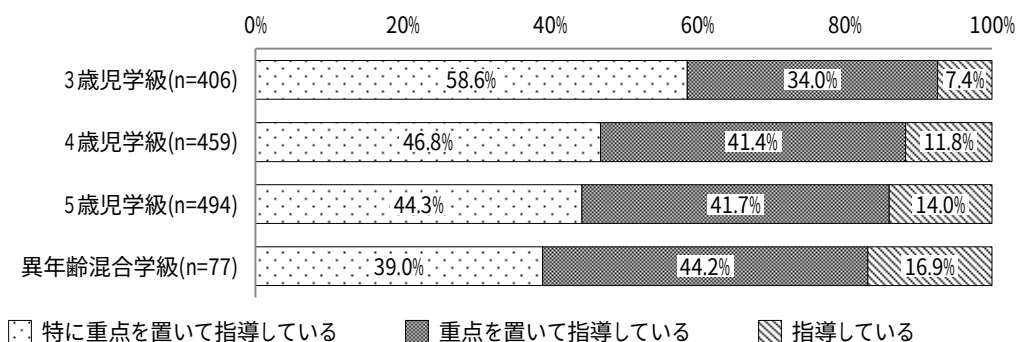
図表 III-11 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ



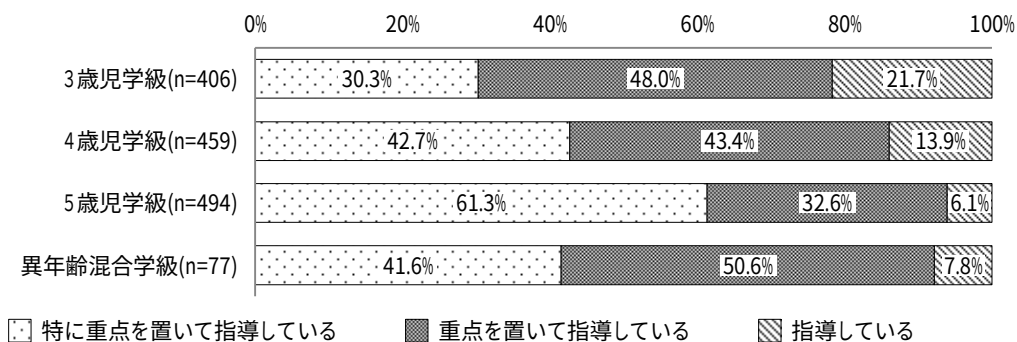
図表 III-12 健康な生活のリズムを身に付ける



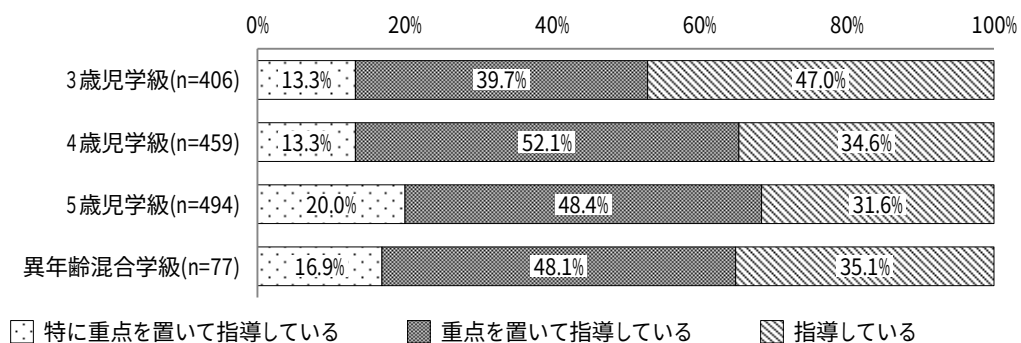
図表 III-13 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする



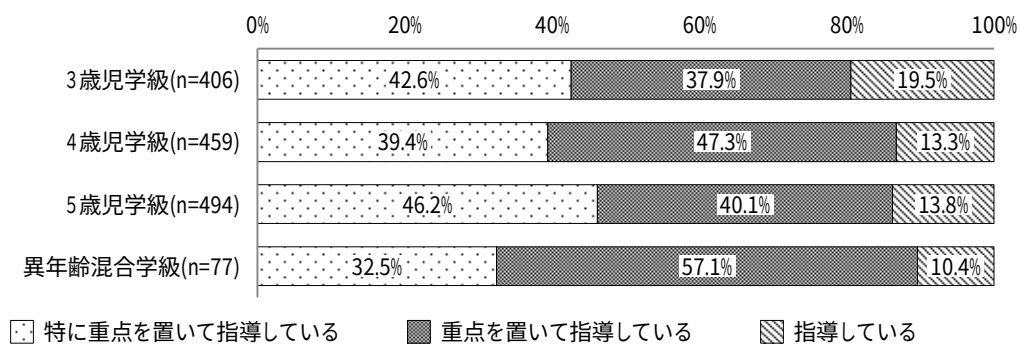
図表 III-14 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する



図表 III-15 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う



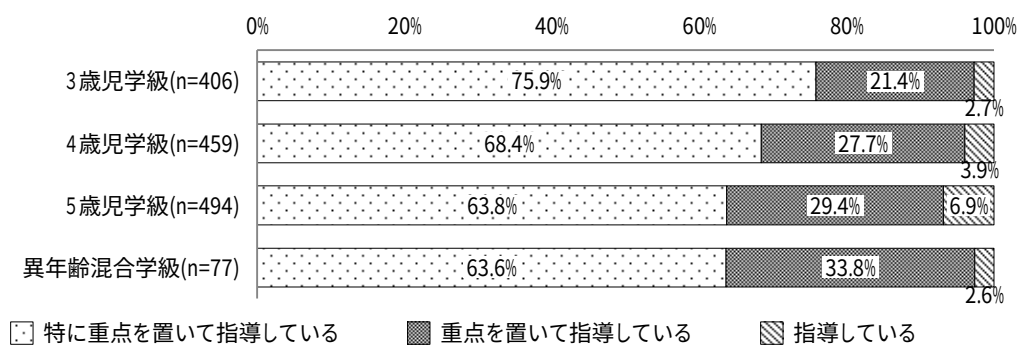
図表 III-16 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する



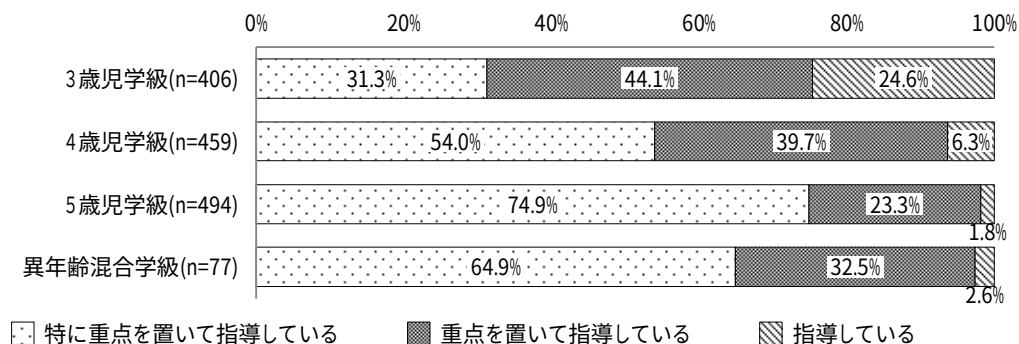
3-2. アンケート調査 (人間関係)

「人間関係」領域においては、「先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が低くなっている。一方、「自分で考え、自分で行動する」、「自分でできることは自分でする」、「いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ」、「友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う」、「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」、「友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう」、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする」、「よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する」、「友達との関わりを深め、思いやりをもつ」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が高くなっている。

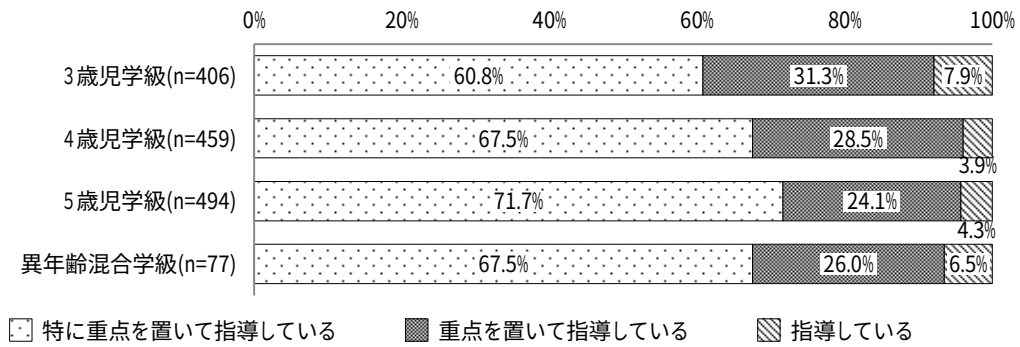
図表 III-17 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう



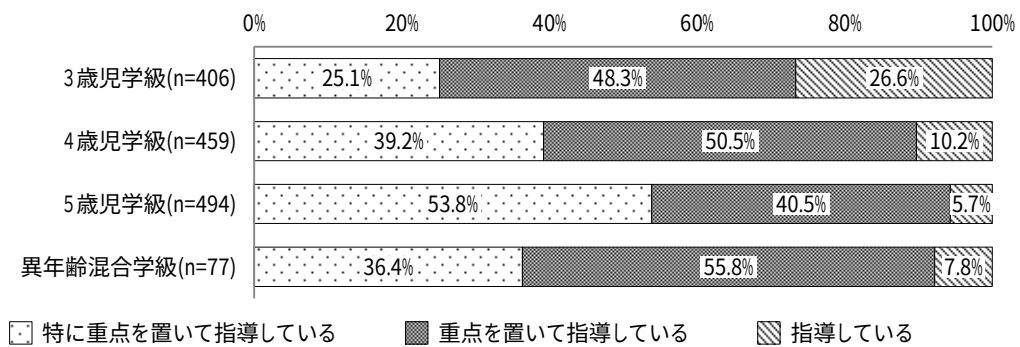
図表 III-18 自分で考え、自分で行動する



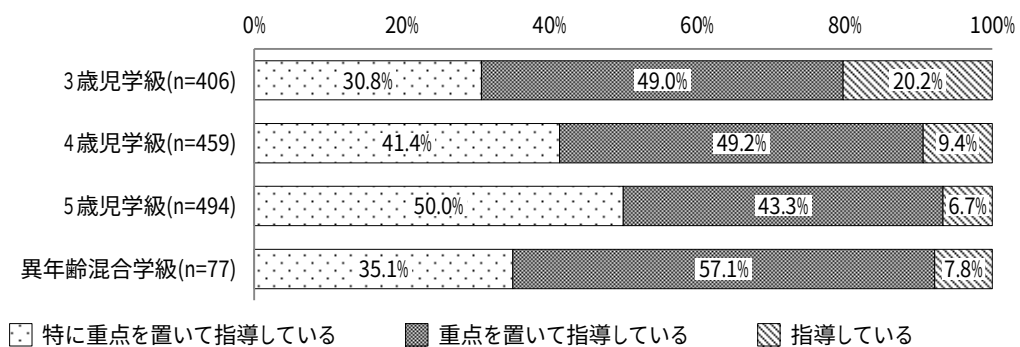
図表 III-19 自分でできることは自分でする



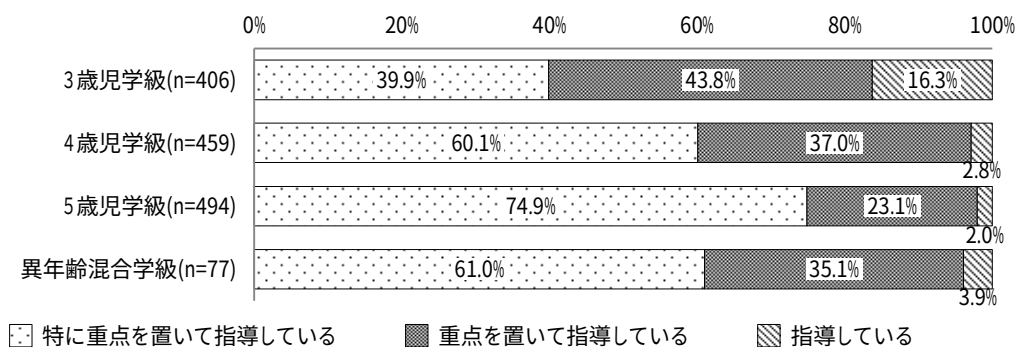
図表 III-20 いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ



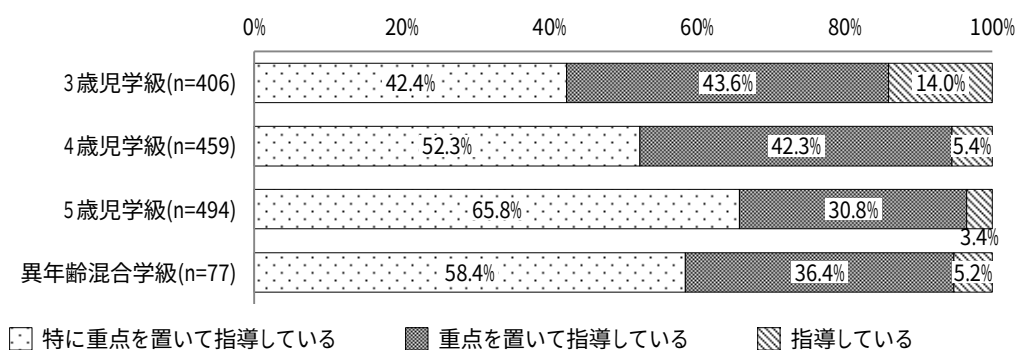
図表 III-21 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う



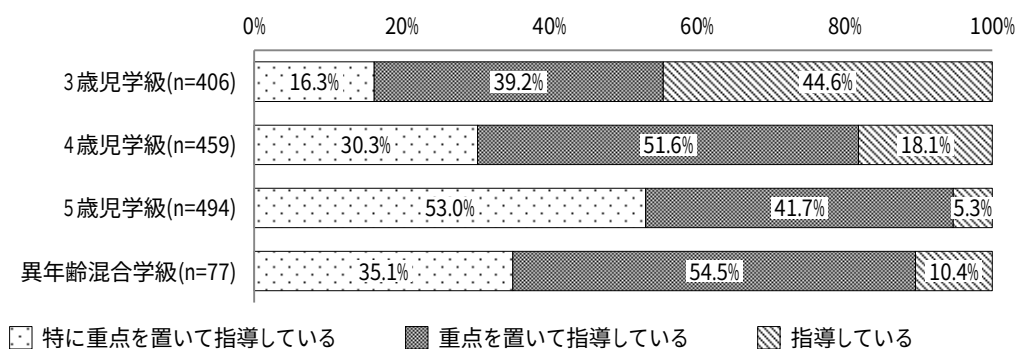
図表 III-22 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く



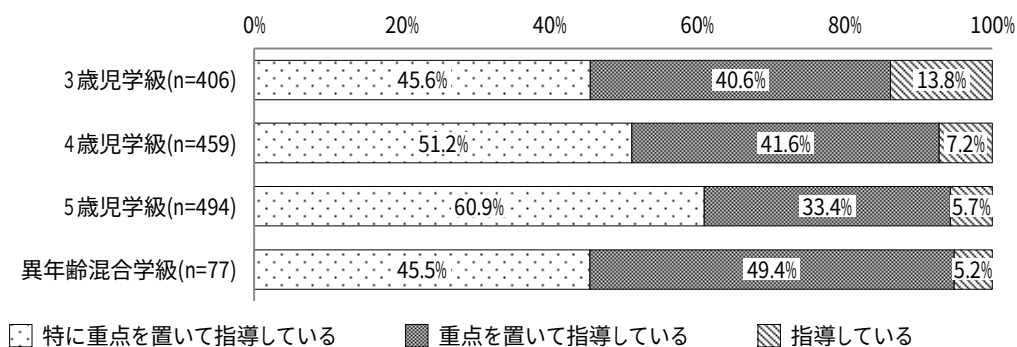
図表 III-23 友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう



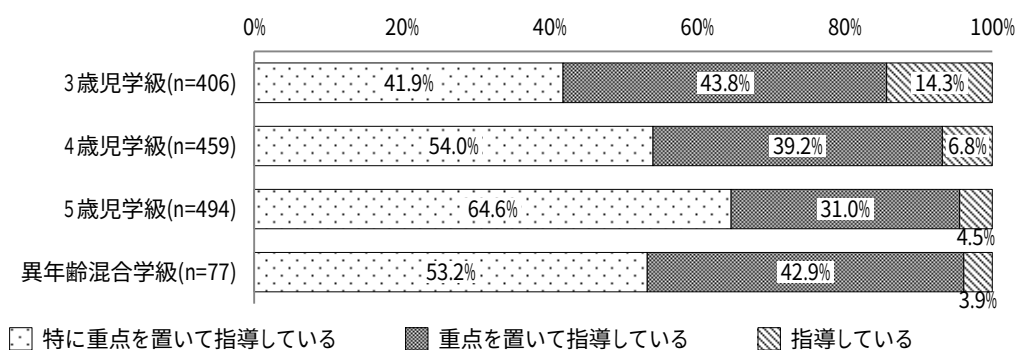
図表 III-24 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする



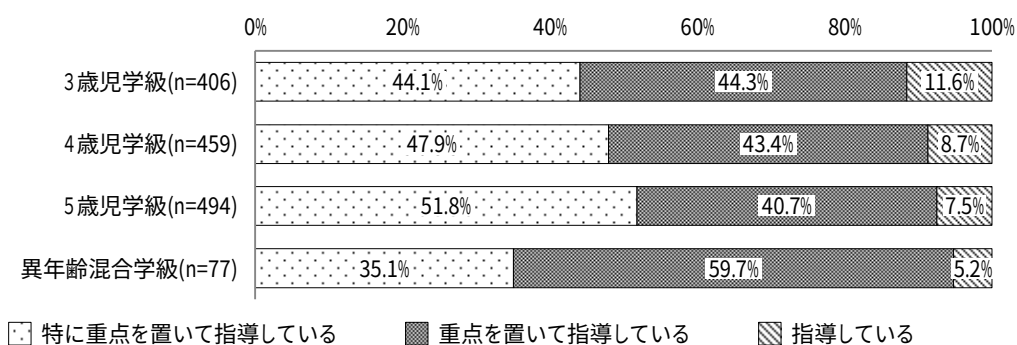
図表 III-25 よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する



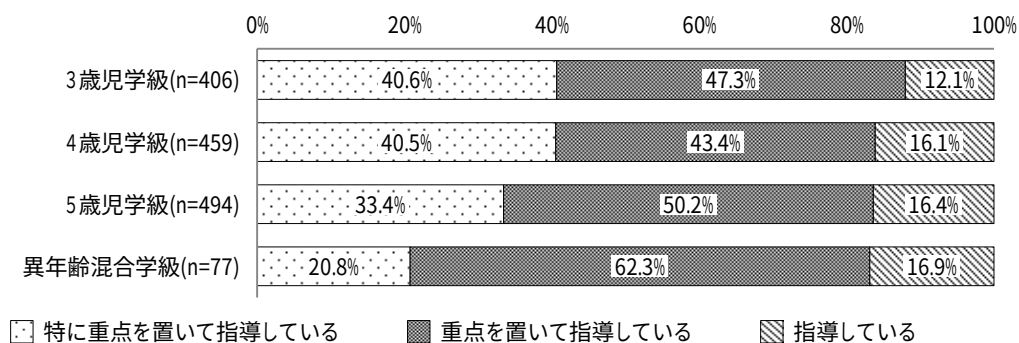
図表 III-26 友達との関わりを深め、思いやりをもつ



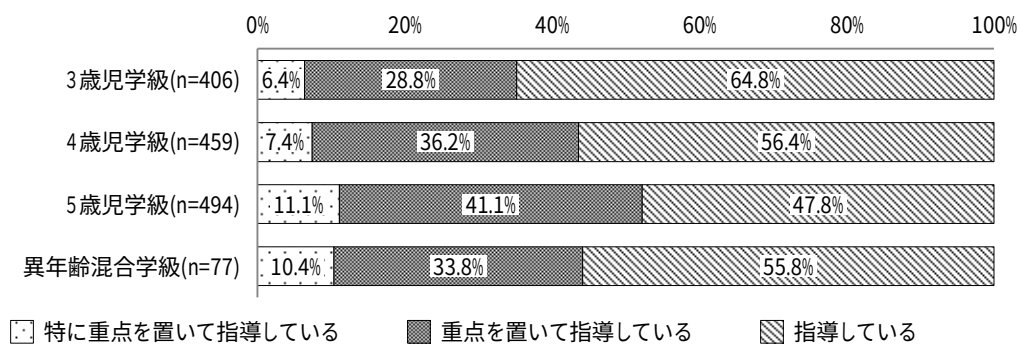
図表 III-27 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気づき、守ろうとする



図表 III-28 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う



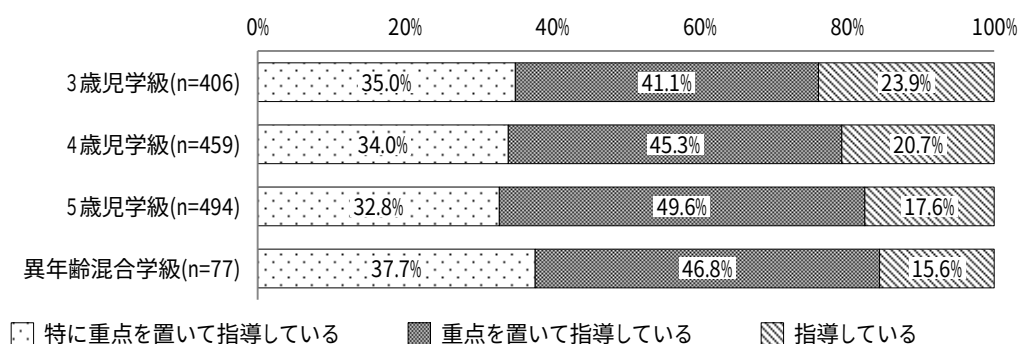
図表 III-29 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ



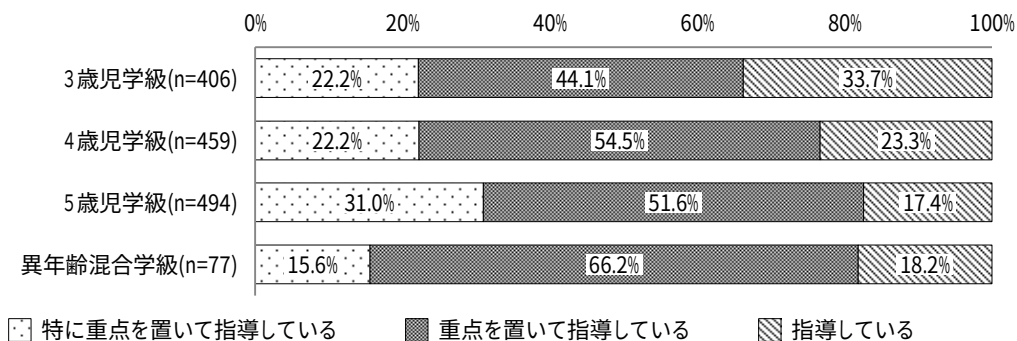
3-3. アンケート調査 (環境)

「環境」領域においては、「身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」、「日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」、「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が高くなっている。

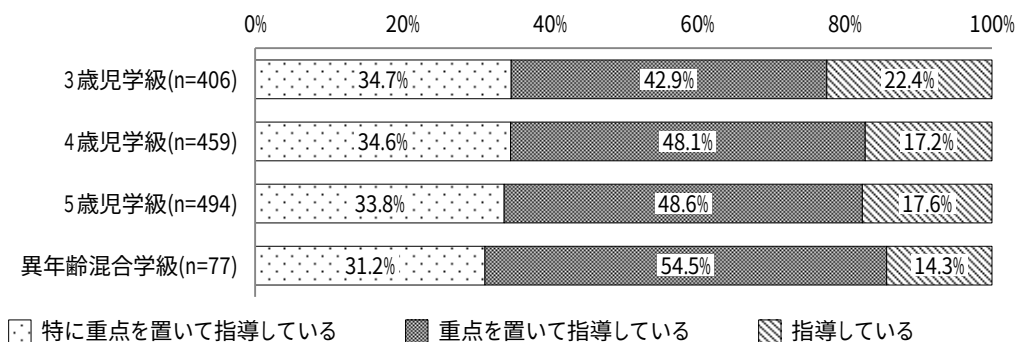
図表 III-30 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く



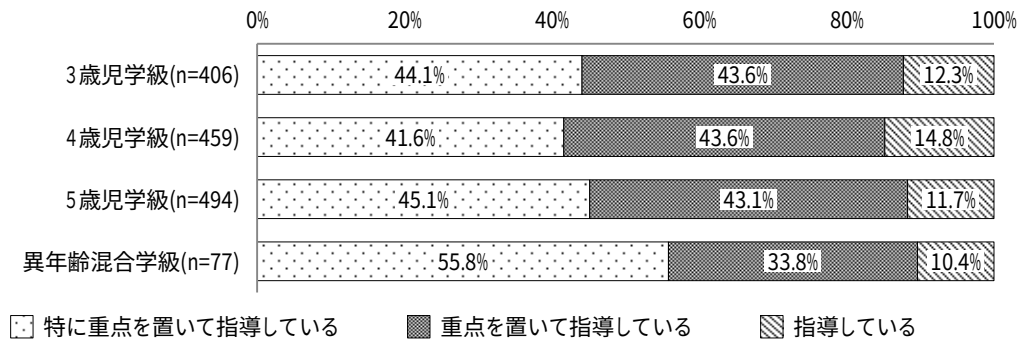
図表 III-31 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ



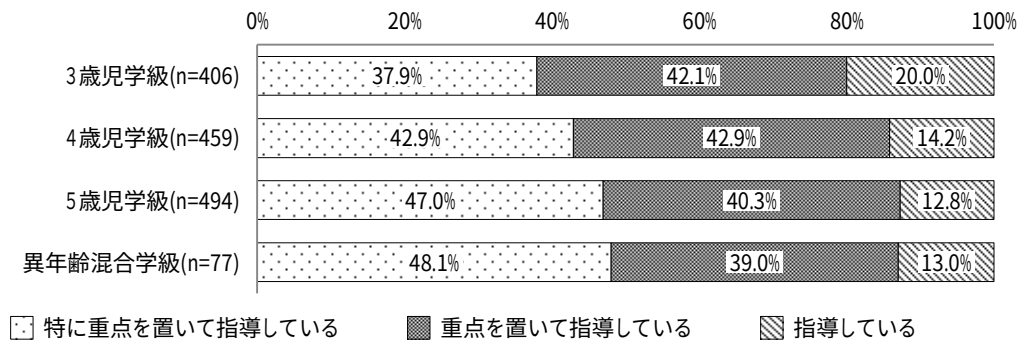
図表 III-32 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く



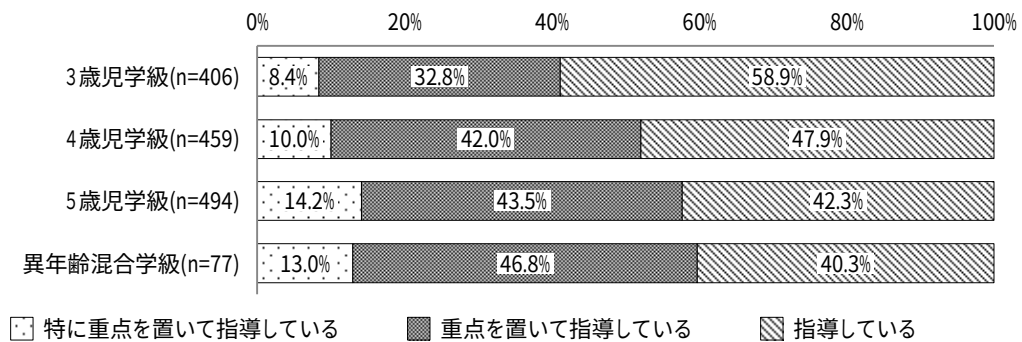
図表 III-33 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ



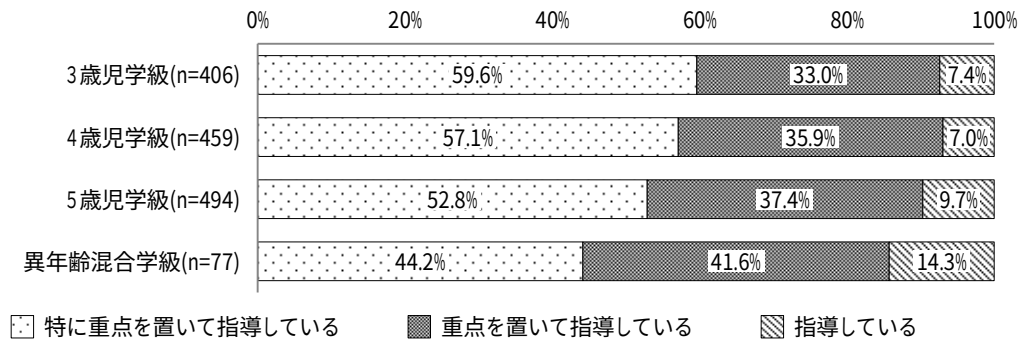
図表 III-34 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする



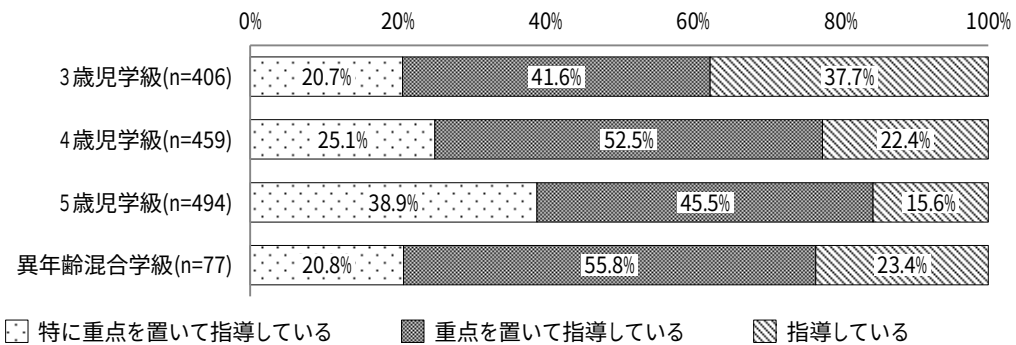
図表 III-35 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ



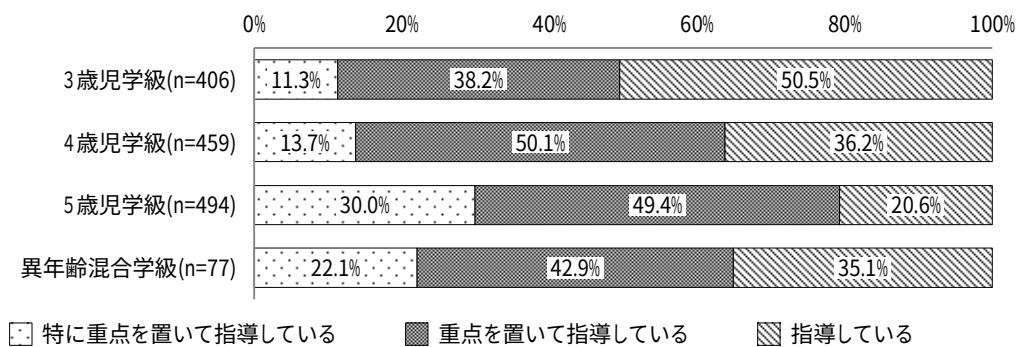
図表 III-36 身近な物を大切にする



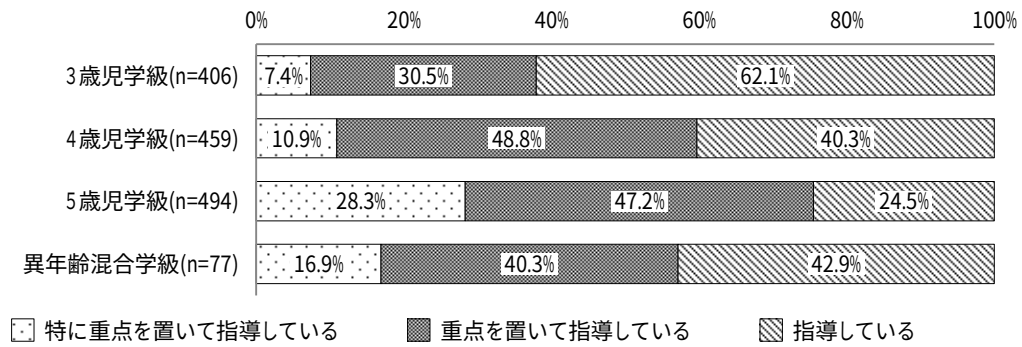
図表 III-37 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ



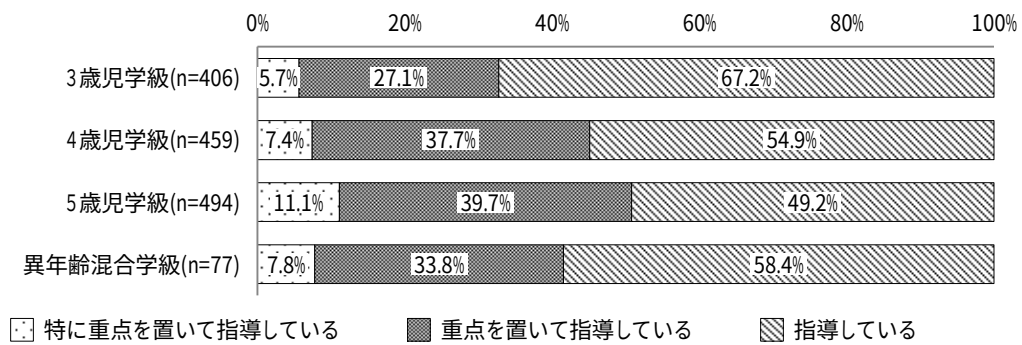
図表 III-38 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ



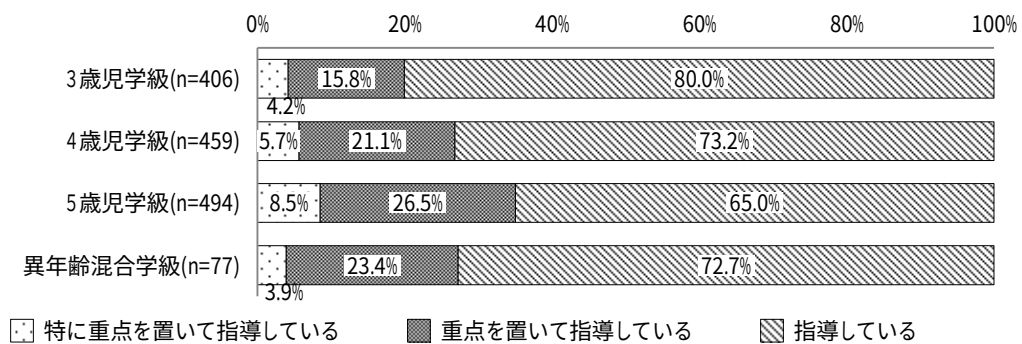
図表 III-39 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ



図表 III-40 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ



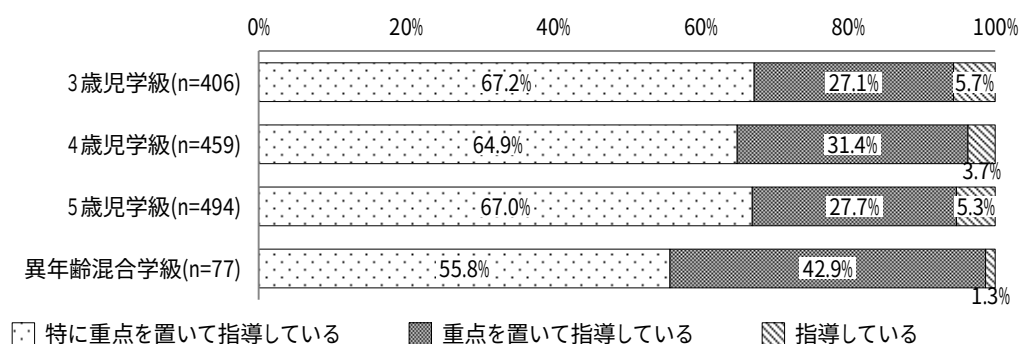
図表 III-41 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ



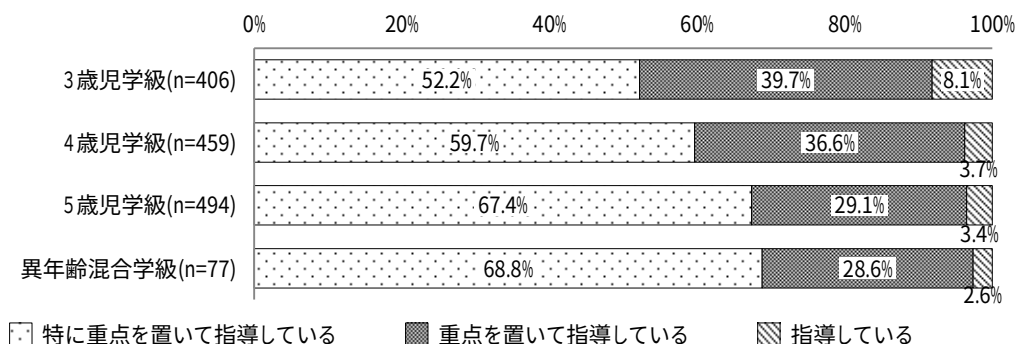
3-4. アンケート調査（言葉）

「言葉」領域においては、「したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する」、「したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする」、「人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す」、「日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が高くなっている。

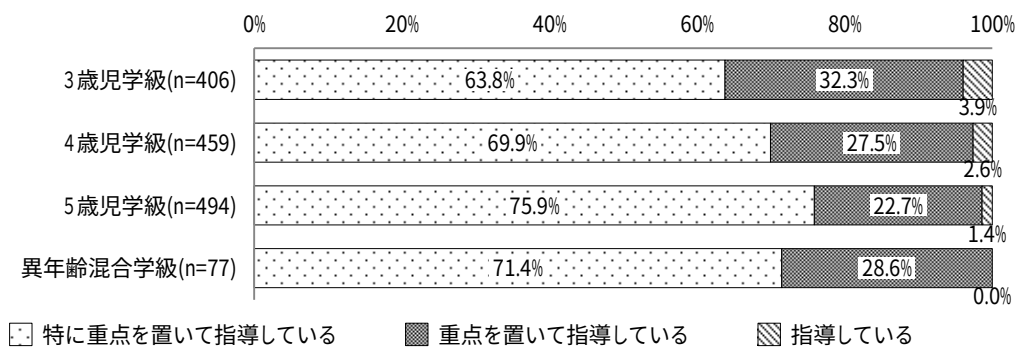
図表 III-42 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする



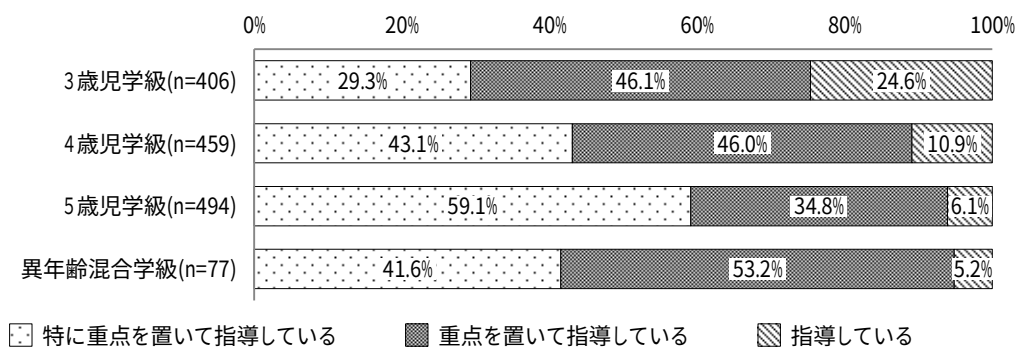
図表 III-43 したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する



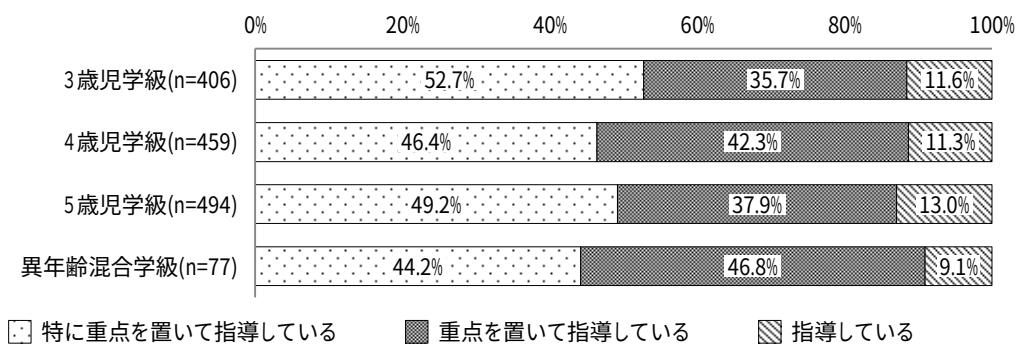
図表 III-44 したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする



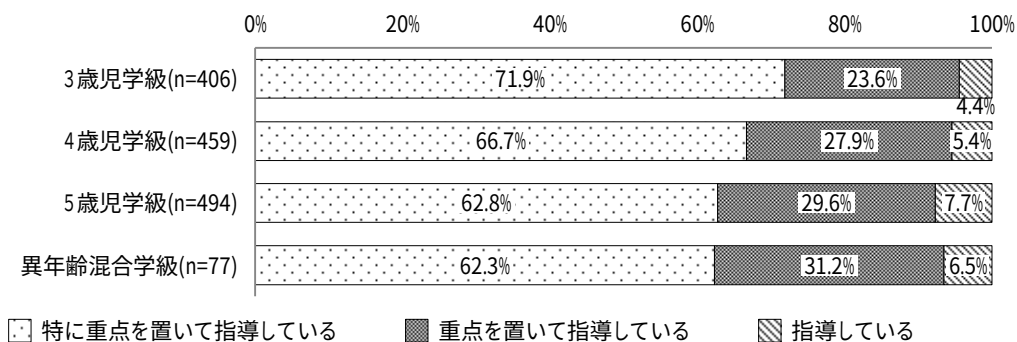
図表 III-45 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す



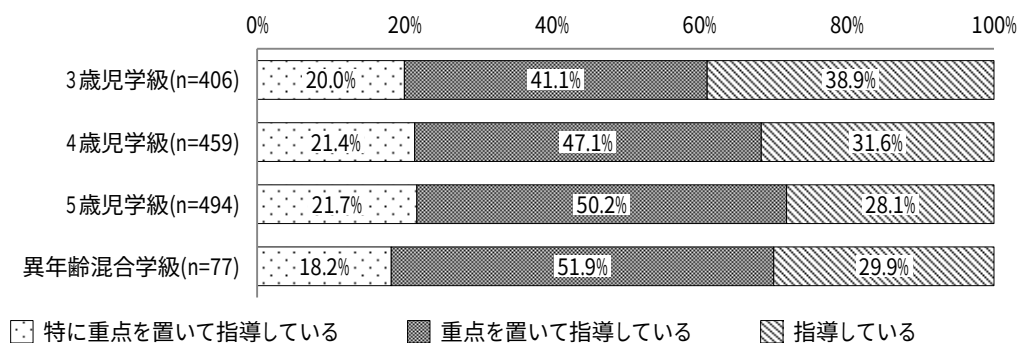
図表 III-46 生活の中で必要な言葉が分かり、使う



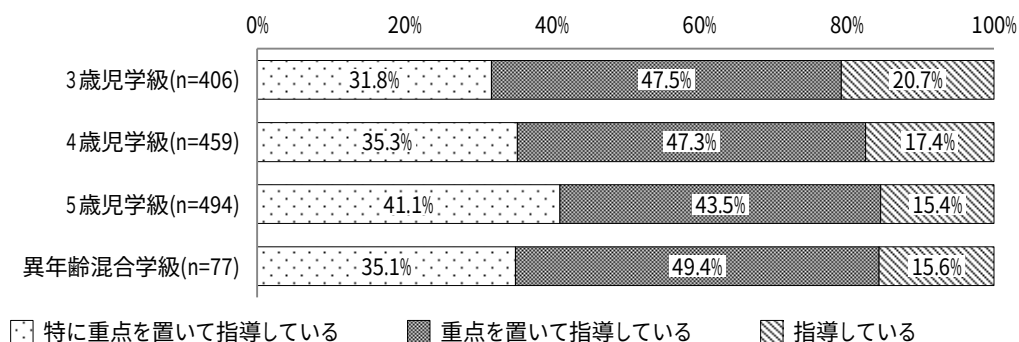
図表 III-47 親しみをもって日常の挨拶をする



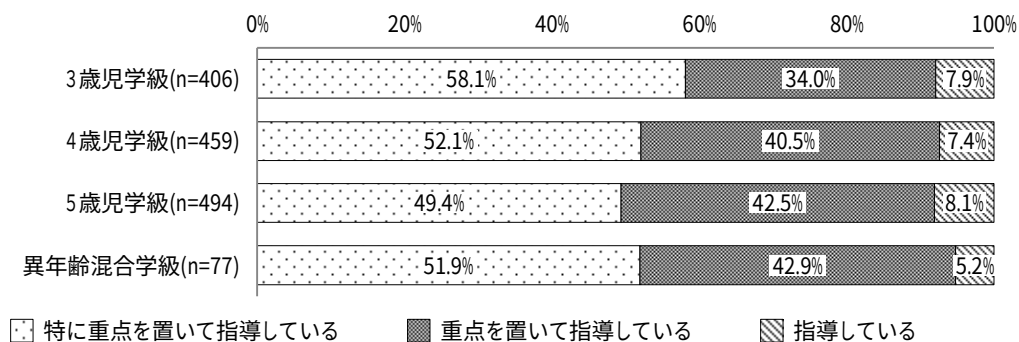
図表 III-48 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く



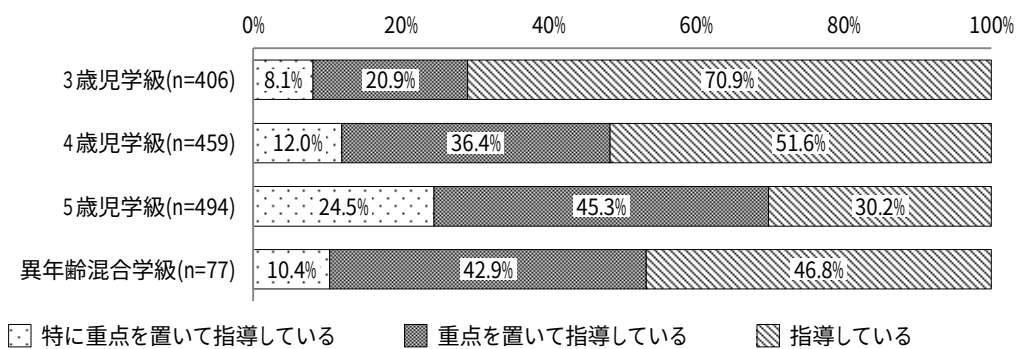
図表 III-49 いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする



図表 III-50 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう



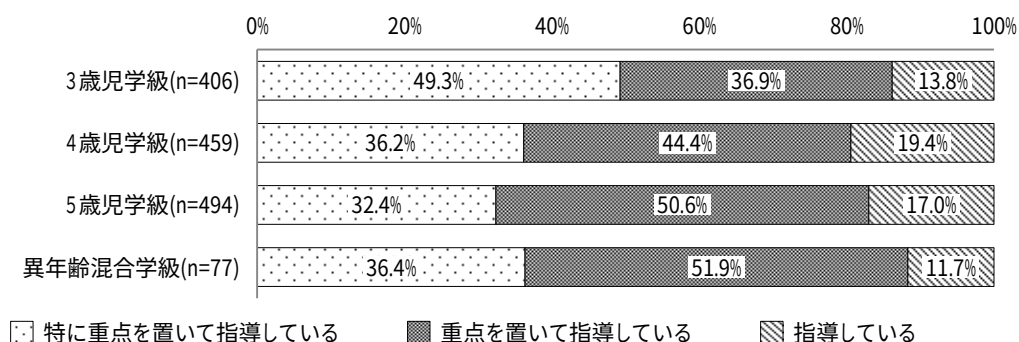
図表 III-51 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう



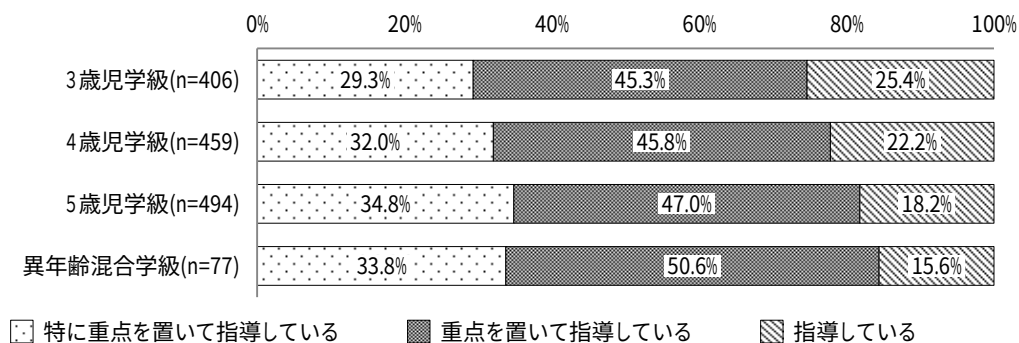
3-5. アンケート調査（表現）

「表現」領域においては、「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」などについて、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が低くなっている。一方、「様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう」、「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」、「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」などについては、学年が高いほど「特に重点を置いて指導している」割合が高くなっている。

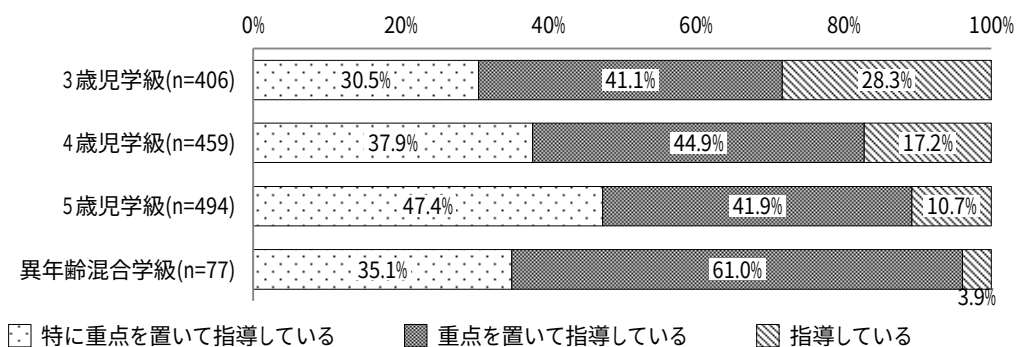
図表 III-52 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ



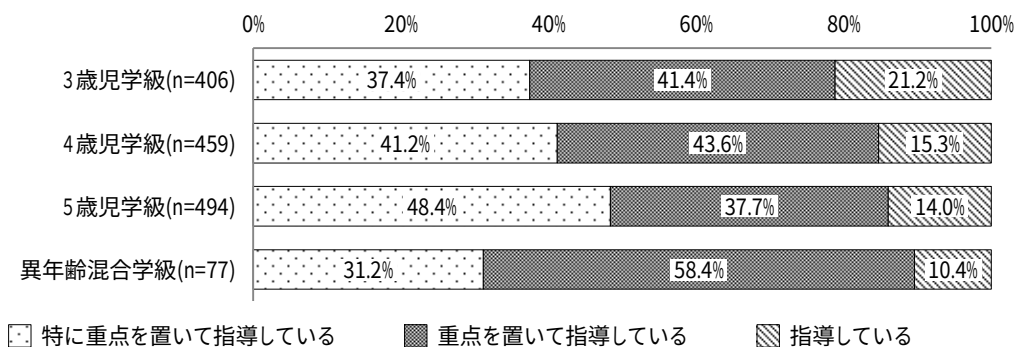
図表 III-53 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする



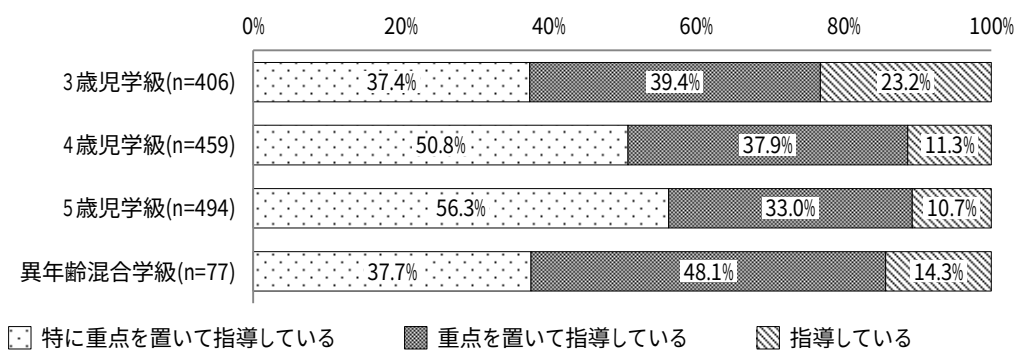
図表 III-54 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう



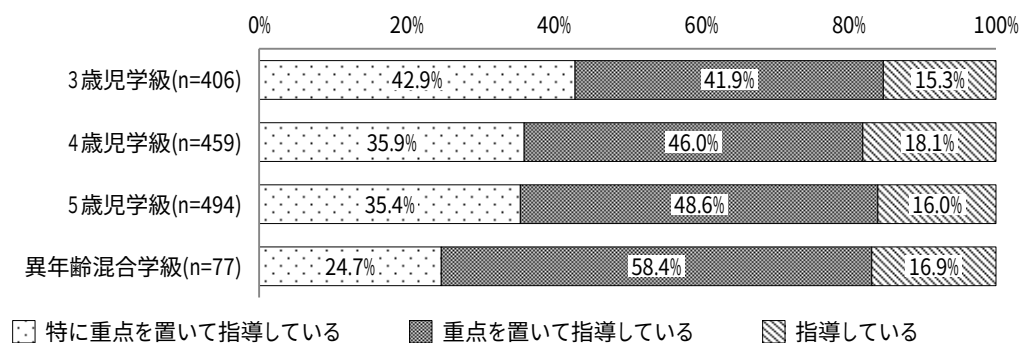
図表 III-55 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする



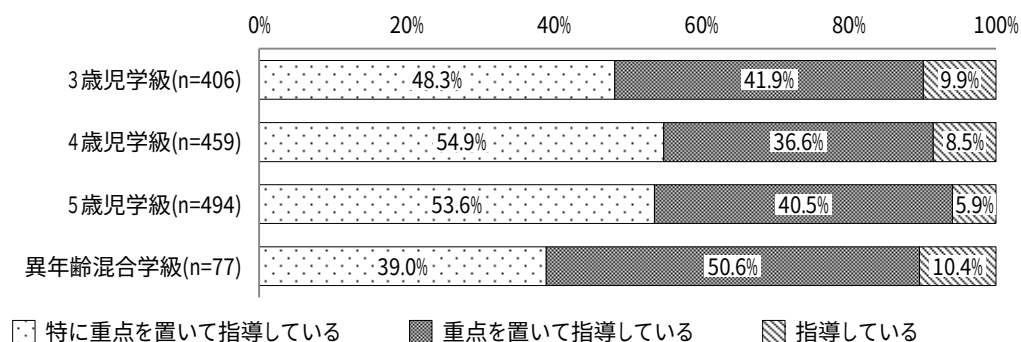
図表 III-56 いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ



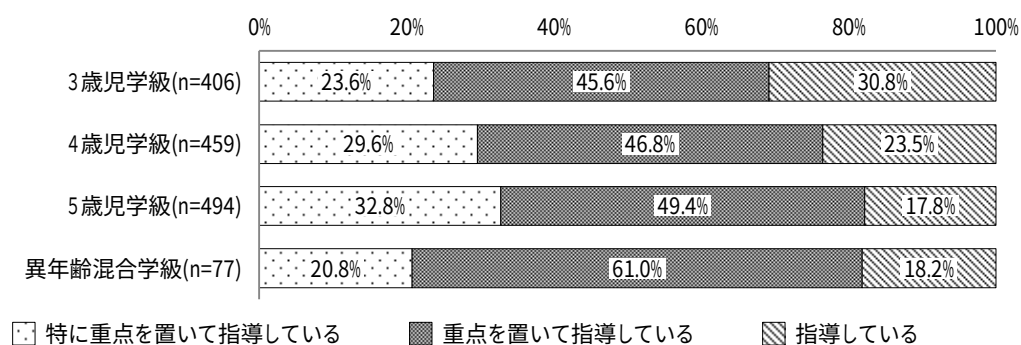
図表 III-57 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう



図表 III-58 かいたり、つくったりするのを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする



図表 III-59 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう



3-6. 自由記述

「5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）について、実際に指導を行う際に気を付けていることや、環境を構成する上で工夫されていることはありますか。具体的なエピソードや指導内容についてお書きください」との質問で、自由記述及び該当する学年について回答を求めた。有効回答計 1,084 件のうち、より具体的な場面やエピソード、環境構成上の工夫について詳述いただいた回答を中心に、以下に一部抜粋した。

図表 111-60 5領域の指導を行う際に気を付けていることや環境を構成する上で工夫していること

学年	具体的なエピソードや指導内容
3 歳児学級	他者の存在に目が向き始め、友達との関わりが増えてきているので、「一緒に遊んで楽しい」が感じられるように関わっている。友達と一緒にだどできること、友達のかっこいい、ステキなところを言葉にして伝えたり、自分の思いを相手に伝える大切さに気付けるように、やり取りの援助をしたりしている。援助の際は、教師がすぐに答えを出すのではなく、幼児の言葉を引き出し、幼児自身が自ら気付き、考えることを大切に、問いかけを多くするように心がけている。余裕をもって関わられるよう、時間の配分等をその都度考えるようにしている。
3 歳児学級	まずは幼稚園が、子供たちが安心して自分のしたいや好きなことを見つけ、自分の思いを出してのびのびと過ごせる場になるよう関わっています。
3 歳児学級	友達の様子が目に入るような机の配置や遊びの環境を構成しています。また、幼児が感じたことや思ったことを自分なりの言葉や表情などで表現した際に、共感したり受け止めたりし、表現する楽しさや相手に伝わる嬉しさに繋がるように援助しています。教師に伝わったことから友達に伝えるようになり、同じ遊びを一緒に楽しむ姿が見られるようになってきています。
3 歳児学級	初めての園生活、集団生活を経験する幼児がほとんどなので、安心、安定して過ごせるように、見守ったり声を掛けたり一緒に過ごしたりしている。安心、安定して過ごせるために、自分の遊具やエリアといった自分のペースで過ごせるように環境構成している。徐々に、周囲の友達や遊具に関心をもつ楽しさに共感している。言葉で表すことを求めすぎず、まずはその子の気持ちを理解し、言葉で確かめるようにしている。
3 歳児学級	日々の活動の中で子供たちの姿をよく観察してねらいを設定しています。年少クラスなので、どんな活動に対しても楽しさや友達と過ごす嬉しさをたくさん感じてほしいです。また、ねらいを達成する為には褒めることを心掛けながら、言葉かけや進め方を工夫して、丁寧に保育を進めています。環境に関しては、子供たちの遊びの中に製作コーナー、絵本、虫、花など季節を感じられるように週ごとや月単位で部屋を工夫しています。例えば、虫が大好きな子が多くいたので、5 月頃アゲハの幼虫をさなぎからちょうちょうになるまで観察をしました。それをきっかけに虫が苦手だった子も興味を持ち、9 月にはトンボやバッタを見つけて喜ぶ姿が見られました。

学年	具体的なエピソードや指導内容
3 歳児学級	初めてが多い3歳児にとって、友達の遊びを見る事で「楽しそう!」「やってみたい!」と思えるように、物理的に遊びの場所を近付けられるような環境構成を行ったり、年中児・年長児が作ったもの等を見せてもらえるような機会を意図的に設けられるようにしています。
3 歳児学級	領域ごとに遊びや活動を行うのではなく、自発的な遊びの中で、5領域のどこの姿が出ているのか一人ひとり捉えていくようにしている。また、週1、月1の副担任との振り返りの時間では、どんな力が表出されているのかまた、十分発揮されているところ、されなかったところを明確にし、どんな援助をしていくと総合的に力の発揮につながるのかを考え、環境構成・再構成をしていくようにしている。泡や色水遊びと、園庭で遊んでいる子達とがいたときに、副担任と話し合い、園庭で遊んでいる子に背を向けるように遊んでいた色水遊びの机の向きを斜めに変えて、お互いが見えるようにした。園庭にあるハウスをリフォームし始めた友達の声や音を聞いて、色水遊びの子がハウスに泡を届ける。自然とお互いが関わり合う姿であり、遊びと遊びが繋がり、物語となっていくのだと感じた。
3 歳児学級	3歳児は安心して生活を送る中で、自分のことを自分でやってみようとする気持ちを育てることを大切にしています。まずは、手洗い、うがい、着替え、食事などの生活面に重きをおいて指導しています。 環境では、クラスの間々が視覚的にわかるような物の配置や掲示物を用意したり、幼児の動線を考えた配置や遊び場の設定を行うようにしています。
3 歳児学級	日本語を母国語としない幼児が、クラスの半数在籍しているため、幼児の実態に応じて、繰り返し楽しんだり一緒に行ったりする中で、生活習慣や遊びの楽しさがわかり安心して過ごせるよう心がけている。日本語が全くわからなかった幼児が日々の繰り返しの中で次第にことばを獲得し、手を洗う、うがいをする、おきかえ、ありがとう、うれしいねなどの言葉を人とのやり取りの中で使えるようになってきた。
3 歳児学級	1人遊びから少しずつ、友達を感じながらまた、気の合う友達と遊び出したこの時期、人間関係、環境の面では、友達と一緒に遊ぶことが嬉しい気持ちや楽しい気持ちを言葉にしたり、互いの良さに気付けるようにしている。大人数というよりは、2～3人の友達との関わりを十分に楽しんでいる姿から 2～3 人が十分に遊べるスペースやそれぞれの遊びが視界に入る場の設定を意識している。言葉、表現の面では、自分の気持ちを言葉にして相手に伝えることで、泣いたり叩いたりと言った感情表現だけでなく言葉で伝わるという経験を積み重ねていけるように「いれて」「かして」「ありがとう」「悲しかった」「遊ぼう」「また今度一緒に遊ぼう」など。健康面では、友達との関わりの中で友達を真似たり、友達に刺激をもらったりしながら、多様な体の動きを獲得したり、心と体の安定につながることを考慮して様々な動きを引き出す環境を整えている。
4 歳児学級	砂場で塩ビ管を使って遊んでいて、中に砂を入れたり、水を流したり子供達がそれ

学年	具体的なエピソードや指導内容
	それぞれ遊んでいた。1人の男児が「トンネルにしたらおもしろい」と言ったので、教師や周りの友達と山を作ったり、穴を掘ったりして塩ビ管を通してトンネルを作った。水を流すと、土の中に隠れた水がその先から出てきて「すごい!」「つながった!」などみんなが感動し、やっていなかった友達や教師を呼びに行き嬉しそうに伝える。子供がやってみたいをできる限り実現し、そのときの発見や驚き、感動を共有するよう心がけている。
4 歳児学級	子供の興味をもっているものを知り、その興味が深まるように（図鑑や絵本など）を準備しておく。
4 歳児学級	基本的な生活習慣や友達との関わりについて（言葉の選び方など）は、その都度幼児と一緒に話し合い、意見を交わすなどして、教師の一方的な指導にならないよう気をつけている。例えば、個人間でのトラブルが起きた際には、まず当事者同士がしっかりと意見を言い合える環境を作り、その上で、クラスでも考え、意見を共有する時間を設けるようにしている。その際、教師が「こうでなければ」などと決めつけるのではなく、幼児一人一人が自分事として考えをもてるよう配慮している。
4 歳児学級	人間関係の部分では、無理矢理関わりをもたせたりすることはせず、個々に合わせて関わりをもてるよう、教師が介入し、幼児同士の橋渡しをするなどして少しずつ関わりをもつことができるようにしている。また、適宜触れ合い遊びなどを取り入れることで、人との関わりの楽しさを感じられるようにしている。環境は常に変化させ、マンネリ化しないように気をつけている。また、製作コーナーの材料や、遊具の片付け等の場所はイラスト等を用いて視覚的にわかりやすくしている。言葉や表現は、“幼児なりの”を大切に、幼児が発した言葉や表現を受け止め、認めるようにしている。上手く言葉にできないことなどは、幼児の思いを読み取り、必要に応じて代弁するなどして、今後に繋がるようにしている。
4 歳児学級	日々の遊びの中で、子供が興味・関心をもった遊びを取り上げ、それを取り入れるようにしている。クラスでネコ遊びが盛り上がり、自分のイメージしたネコを描いて、お面が作れるコーナーを用意すると、お面以外にもごはんや猫用の掃除機など、イメージを膨らめて、製作を楽しむようになった。そこからごっこ遊びへと発展していく中でことばのやりとり楽しんだり、なりきれるように援助したり、サークルを作ってネコごっこの世界観が広がる環境作りに努めた。また、体を動かす遊びの中で、ねことネズミ遊びを取り入れ、鬼ごっこを楽しむきっかけ作りの機会を作った。興味・関心のあるネコを通して、5 領域の経験ができるようにしている。
4 歳児学級	子供の思いを聞きながら、ごっこ遊びに使うものを自由に作れるように材料を準備している。遊びグッズの土台を作るときには、子供たちがアイデアを出したり、工夫できる余地を残して作っている。また、その子の個人のレベルに合わせた援助を心掛け、できる部分は任せ、できない子にはどこまで手伝ったらいいかを本人に確認しながら援助し、それぞれが自分でできる達成感を味わえるようにしている。また、教

学年	具体的なエピソードや指導内容
	え合うことができるような声掛けをしている。同じグッズを持ち意気投合して遊ぶことで、遊びが盛り上がり楽しさも増すので、教師もいっしょに遊び、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。
4 歳児学級	小規模園のため、幼児の遊びや経験が広がりにくい。教師が幼児の興味や関心を捉えながら、遊びの広がるようなアイデアを提案したり、遊びのきっかけづくりを行ったりしている。直接体験の重視。野菜や草花の栽培活動、虫や生き物の飼育、楽器の演奏、ごっこ遊び、運動遊びなど、園内外関わらず、実際に経験する・取り組むことを重視している。
4 歳児学級	園庭で見つけた青虫が成虫になるまで育てたり、野菜の成長を写真で撮影し掲示をすることで、生長を楽しみにできる環境を整えることで、自発的に観察したり、絵で描き止めたりするようになった。
4 歳児学級	子供たちが個々で遊んでいる遊びを、クラスの友達に伝え合う時間や場を大切にしている。「どうやって作ったか」「こんな遊びがしたいから作った」など、個々の遊びを全体に広げることで、子供同士の関わりや伝え合いが生まれ、遊びが発展してきていると実感している。今年度のクラスの子供たちはごっこ遊びが好きなので、いろいろな表現活動ができるように製作に必要なものを準備しているが、子供たち同士でイメージしながら作りだして遊ぶ姿がある。
4 歳児学級	4歳児は、気の合う友達ができたり、教師との信頼関係ができたりすることがどの領域においても土台になると考えている。気の合う友達が見つかるよう、また、友達と一緒に遊ぶ場が安定できるよう、自分たちで遊ぶ場をつくれるような環境構成や援助を大切にしている。2～3人で遊べるコーナーをつくったり、2～3人で座れるベンチを保育室に置いたりなどしている。また、自分たちで遊びの場を整えられるよう、レジャーシートや牛乳パックでつくった囲いなどを用意している。
4 歳児学級	心が動く体験を通して主体的に活動に参加できるよう、幼児の興味や関心を探り、保育内容を工夫する。秋の園外保育で、ドングリやマツボックリ探しを楽しんだ。ドングリやマツボックリが載っている図鑑や絵本を保育室に用意しておくことで、自然と手に取り、同じ形のドングリを探したり、他にもいろいろな形のドングリがあることに気がつき、教師や友達と発見したことを伝え合う姿が見られた。また、木の積み木で家を作って楽しんでいたら、ドングリとペンを置いておいたところ、ドングリに顔を描き、友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。
4 歳児学級	子供達が教師主導でさせられるのではなく、子供達のこうしてみたいがどうしたら実現できるのかを、子供達と一緒に考えるようにしています。すべて保育者が準備してしまうのではなく、何が必要か、子供達と考えながらすることで、保育者も遊びの一員となることを意識しています。プリンセスになりきって遊ぶことを楽しんでいる姿があります。子供達は、「ドレスがほしい」など、それぞれの思いが実現できるよう考えています。保育者が既成のもので準備するのではなく、カラーのポリロールで子

学年	具体的なエピソードや指導内容
	供達が扱いやすいものを準備することで、自分たちで好きな色を選んだり、ドレスの長さを考えて切ったりとオリジナルのドレスを作っています。また、作ったドレスを着て、みんなに見てもらえる場所はどこかを考え、保育室だけではない、玄関や遊戯室へ、CDデッキを持って行き、なりきって踊ったり表現しようとしている姿があります。
4 歳児学級	前の日の子供たちの遊びを見て、次の日の環境構成を考えたり、どう遊びが広がるかなど自分なりにイメージしたりしている。一人一人の子供の性格なども把握して、その子に合った言葉がけをするよう心掛けている。見通しがもてるように、次の活動の前に活動内容を順番に伝えるようにしている。“分からないこと”を自分で発信できるように、困っていてもすぐ声をかけずにまずは様子を見て、伝えることができた時は褒めて自信につながるようにしている。色々なお友達と関われるように“条件”を出してお弁当の席を作ることで、人間関係が少しずつ変わってきている。
4 歳児学級	指導計画や週案作成をするときに、5領域を意識して番号を書いて作成している。子供の興味を踏まえ、場や時間の保障をしてじっくり遊べる環境作りをし、その中で、「友達とやると楽しく面白い」ことを感じ、友達の刺激を受けたり、一緒にいると安心感を感じたりして友達との繋がりが出てくるようにしている。また、子供の発想を取り上げ、環境の再構成をしていくことで、遊びを広げていけるようにしている。
4 歳児学級	おまつりのおみこし製作で、どんぐりの折り紙製作をした経験から「どんぐりのおみこし作ろうよ!」と意見が出て、絵本に出るどんぐりぱんを見た子供たちが「この大きなパンをおみこしに乗せるのは?」「秋だから秋の葉っぱものせたらいいね!」「葉っぱはスタンプにする?」などたくさんアイディアが出て、子供たちと秋の訪れを感じながら楽しくおみこし製作ができています。このことから、保育者だけの思いではなく子供たちからの意見も多く取り入れ、活動を展開するようにしています。また同じ人の意見ばかりではなくいろいろな子供たちから意見を聞き、自分にはない新しい視点で広げられるようにしています。
4 歳児学級	秋の移り変わりをどんぐりを拾って遊びの中に取り入れたりして楽しんでいたりが、ふと空をクラスのみんなで見上げ、なんの形かを伝えあったり、イチョウの葉の色の変化を言葉にして伝えあったり、頬にあたる風はどうかを話題にしたりして、季節の移り変わりを知る機会をあえて設けることで、気付いたり知るきっかけを楽しんでいる。
4 歳児学級	運動会を経験した中で、年長さんへの憧れの気持ちを汲み取り、次の保育の日に聖火台にかわるダンボールや、必要な用具を作れる環境を用意しておいたことで、自分なりに聖火や、ポンポン、年長リズムでつかったりボンなどを作って遊ぶ姿が見られた。どんな遊びが始まるか前日までの経験から予測し、教材を用意しておいている。子供の遊びに合わせて出したり、一緒に遊んだりしている。
4 歳児学級	人間関係では、子供達が自ら友達に関わり、考えて行動できるように気をつけています。例えば、友達に嫌なことをされたら教師にすぐに助けを求めてきた場合には、

学年	具体的なエピソードや指導内容
	その幼児の気持ちを受け止めながらも、子供が自分で友達に何が嫌だったのか、どうしてそんなことをしたのかを友達に尋ねられるように援助し、自分たちで解決できるように促しています。また、上記の中での環境構成では、周りの友達の様子が気になり、上手く話し合いができないようであれば、落ち着ける場所(空き教室やクラスの中の隔離したスペース)へ移動して話せるようにしています。
4 歳児学級	色々な曲に合わせてふれ合い遊びをしたり、グループになって協力し合うゲーム(ひしもちゲーム、輪ゴムリレーなど)を取り入れ、友達と関わったり助け合ったりしながら取り組めるような活動をするようにしています。また、友達と一緒に一つの作品(町、ロボットなど)を仕上げていく時間を設けるなどして、相手の意見を聞いて受け入れたり、自分の気持ちを伝えようとする姿を見守り、成長していけるようにしています。相手の気持ちに気づけるように、言葉の意味や使い方などを全員で話し合う時間を設けることもしています。
5 歳児学級	「人間関係」「言葉」について 9 月から運動会練習が本格的になり、年齢とともに勝ち負けにこだわる子供が増えてきた。リレーでは紅白の 2 チームがあり、各チームで作戦会議をする機会をつくっている。指導の際に気をつけることは、「〇〇が遅いから」や、「〇〇が転んだから」など他人のせいで、という気持ちにならないように声をかけること。バトンを渡す時は～や、待っているときは～など、考えやすい声掛けを心掛けています。また、人前で話す、意見を言う事に慣れるために、週初めには生活発表として休日に何をして過ごしたか発表する時間を設けている。
5 歳児学級	5 領域を意識して保育ができるように、指導計画や週案作成時にどの内容を意識したものかを入れている。遊びごとに内容と結び付けるように番号を入れ、5 領域を意識した援助や環境構成ができるようにしている。人間関係では、友達と関わったり、友達の姿を意識したりしながら遊びが進んでいくように、ホワイトボードで遊びの過程を記録し、友達の遊びが見えるようにしている。言葉では、友達と思いを伝え合いながら遊べるように、グループやクラス全体での話し合いの場を設け、友達と一緒に考えたことで遊びが楽しくなるという経験ができるようにしている。
5 歳児学級	人間関係:年間を通して、話し合いの機会を計画的に取り入れるようにしている。年度初めは 2 人組(こいのぼり製作)、6 月頃に初めてのグループでの話し合い(祭りの取組、教師が加わりながら)、2 学期に再度グループでの話し合い(作品展)というように、自分の考えを伝えたり友達の思いを聞いたりする機会を積極的に取り入れている。 言葉:「先生トイレ」と言ったりセロハンテープの芯を見せて「これ」と言ったりする幼児の姿が見られる。幼児の言いたいことを察して教師が動くのではなく、「トイレに行ってきます」「セロハンテープがなくなったのでください」など、言いたいことを文章として伝えられるように指導している。
5 歳児学級	子供たちの声から遊びを展開していくことや、それぞれの思いを友達を知ることが

学年	具体的なエピソードや指導内容
	できる機会をつくるよう意識している。ピザ屋さん遊びでは、「異年齢の友達を誘いに行きたい」という声上がり、友達を募って異年齢児の部屋に誘いに行く姿が見られた。何度も招待してはお店屋さん遊びを楽しむ中で、「もっとしてみたいこと」「やってみたけれどうまくいかなかったこと」など、それぞれの子供たちの中で思いが生まれた。そこで、集いのなかでそれらを話し合う時間を設け、翌日の遊びにつなげたり、アイデアを出し合い、言葉で伝えあいながらさらに体験を重ねていくことで、心が動く体験を友達と共有できるようにしているところである。
5 歳児学級	保育の予定を1か月単位で考えるとした時に、5領域がバランスよく重点に置かれて計画が立てられているか考えています。私のクラスではボーリングごっこが流行っています。はじめはただペットボトルを倒すだけのボーリングでした。その横に工作コーナーを設けました。すると、ある男児がそこで画用紙を切り、「ボーリングチケットです」と配り始めました。私の中で、製作が好きな子と体を動かすことが好きな子が一緒に遊んだり、話し合ったりして何かできたらいいなと思い、環境を設定していました。領域を考えるときに、まずは子供の姿をよく考えるようにしています。
5 歳児学級	表現については、お題に対して自由に発想し自分の考えを絵と文章に表現する活動を行っています。各自の自由な発想を認め、褒めてあげ、また、友達の前で発表することで表現の大切さが学べるようにしています。はじめは人の前で発表することが苦手だった子も徐々に積極的に発表できるようになっています。
5 歳児学級	園内での関わりだけでなく、地域、小、中学生、大学のボランティア、外国籍の方など、たくさんの人との関わりを大事にし、自分を発揮したり人との関わりを楽しんだり、また、多様な考えを認め他者を大事にする力などを育むようにしている。
5 歳児学級	「健康」朝に異年齢と一緒に体操や運動遊びに取り組むことを習慣化している。異年齢が互いに憧れや思いやり、自信などを土台に意欲を高め楽しんでいる。 「人間関係」友達関係のトラブルは当人たちだけの話し合いで終えずにクラス全体でも共有して、他人事にせず自分たちのこととして考え合うようにしている。 「環境」興味をもてるよう目につくところに季節の植物を飾ることが、自然についての会話のきっかけとなることも多い。最近では園庭にある種を集める探検をし、集めた種を種類ごとに分けて遊んだ。 「言葉」してほしいことを目線や行動で訴えてきた時は必要な言葉を引き出すように関わっている。 「表現」子供の小さな感動や発見はクラス全体に共有して大きな感動や発見となるようにしている。隣の保育室から聞こえてくる歌に気付いた時は耳を澄ませて聞いたり一緒に歌ってみたりすることもある。
5 歳児学級	秋になり、虫がたくさん見つけられるようになった。ただ捕まえるだけではなく、じっくり観察したりお世話をする 것도楽しめるようにと願い、さりげなく虫コーナー（図鑑や写真、簡単にスケッチができるもの、それぞれの虫かごなどを置く場所）を設けた

学年	具体的なエピソードや指導内容
	り、クラス集団の時間に、楽しかったことや不思議だったこと、困ったことなどを紹介し合うようにした。すると、個々に楽しむ虫探しから、友達と誘い合って遊んだり、クラスのみんなで関心を高めたりすることにつながっていった。今はそんな子供の姿から、大きな紙にそれぞれが大好きな虫の絵を描いて表現を楽しんでいる。到達目標や達成度をはかるものではないので、「～させなければ」と思いすぎず、目の前の子供が楽しんでいることに寄り添う視点を大切にする。また「～したくなる」「さらに～したい」と思えるような状況づくりができるよう、環境や自分自身の関わりを日々見直している。
5 歳児学級	意図的にグループ活動を取り入れたり話し合いの機会を設けたりすることで、自分の思いや考えを伝えられるようにしている
5 歳児学級	自分で考えたことを試行錯誤しながら自分の力で実現していく充実感を感じられるよう、幼児が自分で選択して使えるように用具や素材を豊富に置いておいたり、扱いやすい形で準備しておいたりする。毎日の遊びの終わりにサークルタイムを設け、遊びの意欲やめあて、友達の良さへの気づき、言葉にして伝える力などにつなげる。
5 歳児学級	実体験を通して様々な感情を伴いながらいろいろなことを感じたり考えたり試したりすることを大切にしています。また、「～すべき」「～した方が大人からするとよいだろう」というような言動が子供に見られることもありますが、教師の価値観をあえて先に伝えず、子供のそう思う理由を尋ねたり、自分で考えたことを試すことを促したりして、(教師からするとうまくいかないだろうと分かっていることでも) 子供が自分の考えでまずやってみるということも大切にしています。
5 歳児学級	小学生との交流を通して、人前で自分の意見等を発表する小学生の姿に憧れ、自分の成長に期待を持って、意欲的に自分の言葉を使って表現できるよう計画している。
5 歳児学級	小学校体験時に 1 年生の手作り玩具で遊んだ思い出があることから、子供達が「同じようなものを作りたい」と声が上がったので、クラス単位ではなく学年全体で、小学校入学前に「仲間意識」がもてたり、「想い出作り」や「入学する喜び」に繋がってほしいというねらいを立て、身近な廃材を持ち寄り手作り玩具の制作を行った。その活動では、自分達が作った玩具の遊び方や使い方を優しく異年齢児に教える姿、自分の思いを伝えたり友達の意見を取り入れたりして遊びこむ姿、他クラスの子供達と関りから会話が広がる姿が見られた。保育者は、子供達が遊び方を自ら考え実行できるよう子供達の様子をよく観察し、バランスの良い指導を心がけ、声掛けを行いすぎず、時には見守ることも大切にし、子供達が主体的に遊んだり生活できる環境を整え、健全な心身をもつ子供の育成に繋げたい。
5 歳児学級	好きな遊びの時間の中で、子供達が興味をもったときに、一緒に考えたり、経験したりできるようにしている。子供達がのびのびと自分のしたい遊びができるように環境

学年	具体的なエピソードや指導内容
	の構成を考えている。
5 歳児学級	幼児の考えや思いを大事にし、実現できるように援助や環境構成を行っている。友達との関わりでは、お互いの考えや思いを出し合いながら遊びを進められるように仲立ちをしている。オリンピックの時期に新聞記事を環境の一つとして掲示した。刺激を受けた幼児は、オリンピック競技に見立てた様々な運動遊びを友達と意欲的に楽しむようになり、運動会の競技につながった。自然物と関わる機会を大事にしている。畑に育てたい栽培物を幼児と相談、世話、収穫、食すなど五感をフルに使って楽しみながら体験したり、カイコやカエルなどの栽培物を一緒に育てる機会をつくったりしたことで、様々な気付きや感情体験をすることができた。
5 歳児学級	その季節に応じた事象に関心がもてるような環境構成に気をつけています。芋掘りをした時に、自然と匂いを嗅いだり、手触りを確かめたりして五感を使いながら関わっていました。また、つるの長さや重さなど数に興味をもつ姿も見られていました。
5 歳児学級	一日の終わりにクラスで振り返りの時間を設けて、今日の遊びや活動について、楽しかったことや感じたこと、困ったこと、次にしたいことなど、自分の言葉で皆に伝えることをしている。自分の思いや気持ちを言葉にして伝え、それが伝わる充実感を感じたり、楽しかったことなどを友達と共感したり、友達の話や遊びに興味をもって聞いたりする姿に繋がっている。子供の話に出たことを拾いながら、教師は今日の子供の姿をとらえ、翌日の環境設定や必要なものを用意するようにしている。
5 歳児学級	海に興味をもって遊ぶ姿があったため幼児がイメージした魚や船を考えて工夫して作ることができるように今まで使ってきた様々な材料を手の届くところに置いておいたり、イメージがわくように絵本や写真を掲示したりした。素材を組み合わせることで思い思いに表現できるようにしている。幼児間で話し合ったり試行錯誤して遊べるように見守ったり、クラス全体で話し合っ問題解決したりできるように日々時間を設けていった。問題解決する力がつくように教師が声かけをしすぎないように見守るようにしたり一緒に考えたりしている。海へのイメージがさらに広がるようにと動画をみたり、バス遠足で実物が見えるようにと水族館へ行った。
5 歳児学級	子供が作りたいものを考え、工作を通して表現する楽しさを促しています。色々な素材に親しみ、作りたいものを図鑑や絵本で調べ、見て、工夫しながら作ります。また、作ったもので遊び、遊びの幅や展開が見られます。(例えば「病院ごっこ」注射器が必要だと思った A ちゃんは、注射器を絵本で見て、素材を使いながら工作します。その注射器を遊びに取り入れ、医者になりきる様子が見られます。) その際に、素材を揃える、図鑑や物の絵本を工作コーナーの近くに置くなどの環境設定を行っています。
5 歳児学級	外国籍の子が多く、言葉での伝え合いは以前より難しいと感じる。イラストや写真を用いて言葉だけでなく身振り、手振りもまじえて思いを伝えあえるような工夫をしている。

学年	具体的なエピソードや指導内容
5 歳児学級	子供が興味をもっていそうなことや、前日までにしていた遊びを続けたり、発展できそうな環境を構成する。例えば、数人の子がごっこ遊びを始めたら、次に使いたくなりそうな、紙や空き箱などを用意しておく、「お金」や「財布」を作ってお店屋さんごっこに変化したり、友達と話し合って役割を決めるなど、発展がみられた。その遊びの中で、友達との深い関わりや、文字や数字への興味、またどうやったら作れるのかという工夫が見られた。
5 歳児学級	総合的に指導されるものであることを念頭におきながら、指導計画のねらいや目の前の幼児の姿から、今、幼児に必要な経験を考えるように気を付けている。例えば、ドッジボールのゲームを学級で行う際、体を動かすことを楽しむ幼児の姿を捉えるだけでなく、幼児同士が遊び方やルールを通して思いを伝え合うことや、ルールを守ることで遊びが楽しくなることの実感など、様々な気付きや楽しさを感じられるよう、遊びに使う物の置く場所、コート広さ、時間の確保など、様々な面から環境を考えるようにしている。
5 歳児学級	子供たち同士のつながりが深いものになるように、友達の遊びをドキュメンテーションにして掲示したり、振り返りの時間を多くとったりしている。それによって、友達のアイデアを真似したり、まだ経験していないことをやってみたりする姿が見られて遊びの深まりや広がりを感じている。
5 歳児学級	プリントやお手紙などを配る際に「どうぞ」「ありがとう」などのやり取りを大切に、友達同士でも席の前後で物を渡す時には思いやりの気持ちをもって言うように伝え、日頃あまり関わることもないお友達とも関わることをできると思い行っています。人間関係の中で友達や先生との関わりを大切にしたいと思い、日々保育している。一人になる子がいないように、ペアやグループで遊ぶよう促したり、自分の思いを伝えられるように話を聞いたりしている。
5 歳児学級	人間関係の領域に関して、回答する。クラスの友達や年下の友達、地域の方々など、様々な人と親しみ、人との関わりを楽しめるように、意識しながら、指導を行っている。年下の友達や地域の高齢者との関わりの中では、思いやりの気持ちを持ち、関わり方を自分たちで考えられるように言葉をかけたり、ふれ合う機会を積極的にもつようにしたりしている。クラスの友達との関わりの中では、友達のよさに気付けるような言葉をかけたり、言葉で伝え合えるよう支えたりし、力を合わせて自分たちで遊びを進めたり、工夫したりする楽しさを味わえるようにしている。
5 歳児学級	戸外で虫探しを好んでしている幼児が、シャボン玉遊びをしている友達に関心を持ち、シャボン玉遊びを始める。初めは既製の吹き口でシャボン玉を作ることを楽しんでいた幼児が、友達が大きなシャボン玉を作っていることに興味を持ち、教師が準備してあった色々な素材を使って吹き口を作り試し始める。「どれが 1 番大きなシャボン玉ができた？」と教師の言葉掛けから、吹き口を順番に並べ、幼児なりに結果を考え「今度はこれでやってみたい」と次への意欲に繋がった。この事例では、幼児

学年	具体的なエピソードや指導内容
	自身が主体的に物事に対して興味・関心をもち、関連、比較、検討を行い、遊びがより深いものへと発展している。そして教師の言葉がけで活動が変わることや、遊びの環境を整えることで意欲の高まりを感じる。幼児の好奇心や探究心の発展を支える教師の援助や幼児の実態に沿った環境構成を探りながら保育に努めている。
5 歳児学級	健康では、生活が軌道にのってくる年長児では、見通しをもち生活ができるように毎日ホワイトボードに予定を書き、登園して来た子からそれを見て片付けの時間を知り、活動の予定を把握することを意識して行っている。 人間関係、言葉では、友達との関わりが増え、親しみを感じ楽しむ一方でぶつかり合いが多い。自分とは違う考えがあることを知る為に、互いの気持ちを十分に受け止めながら、互いの思いが伝わるように援助している。また、相談したり考えを出し合ったりする機会を意図的にもつようにしている。 環境では、身近な動植物に触れることで生き物に対する関心や、命の大切さに気づけるよう身近な生き物をよく見える場所で飼育している。興味をもち自分から調べたくなる環境作りを意識している。 表現では、子供のイメージを大事に一人一人の発想や、表現に共感し、子供達が安心して伸び伸び描いたり演じたりできるようにしている。
5 歳児学級	教師自ら感性を豊かにし、様々な事象に気がつき、子供に知らせることのできるように様々な変化に敏感に反応する。そのため、積極的に教師間で会話をしたり、園内掃除の際に自然に目を向けたりする。あえて、綺麗に掃除しすぎるのではなく、落ち葉や花びらをそのままや子供の見えるようにしておき子供が遊びに使ったり、色の変化に気付いたりできるようにする。また、子供の思い(驚き、発見、嬉しい、悲しい、楽しいなど)に同じ温度で共感できる教師であれるようにしている。竹馬をコツコツと根気よく取り組み、できるようになった時に一緒に喜びあった。担任だけでなく園内の先生方に認めてもらったことでより嬉しさや自信をもてたようで竹馬だけでなく、登り棒や雲梯など他のものにも挑戦する姿がでた。子供一人一人を大切にかけがえのない存在であることを伝え、子供の思いも大切にしながら自分も相手も大切にできるように言葉をかける。
5 歳児学級	年長組では子供会議という取り組みをしています。椅子を丸く並べ、自己紹介やその日にあった出来事を振り返ったり、時には「友達ってどんな人」など答えのない議題についてそれぞれが自分達の思いを伝えます。この活動の中で1番に気をつけていることは心理的安全性を高めることです。参加者全員が安心して会議に参加できるよう教師が子供の思いを笑顔で受け止め、どんなことでもまず受け止めることを大切にしています。その環境の中にこそ5領域から見る学びがあるのではないかと思います。
5 歳児学級	幼児が、自分で何かに取り組みたいと思った時にできるだけ、教師の許可や指示を待たずに動き出せるといいなと考えているため、自分たちで場を構成できるような

学年	具体的なエピソードや指導内容
	遊具(すのこや瓶ケース、中型箱積み木や大型箱積み木など)を十分な数用意している。特にすのこや箱積み木は一人で運ぶことが難しく周囲の友達の助けを借りるときにやり取りが生じたり、イメージを言葉で伝え合ったり、その実現に向けて様々なものを工夫して使用したりする。
5 歳児学級	クラスの半数が外国籍の幼児で日本語の理解に差が大きいので、写真や絵カードなどを使って視覚的に情報を理解できるようにしています。遊びの中で日本国籍と外国籍の幼児の関わりがもちにくいので、その子なりの表現の仕方を認め合ったり、困っていることに気づいて助け合ったりできるような指導をしています。
5 歳児学級	お泊り保育では、基本的生活習慣を大切に活動の流れを立案した。例えば、脱いだ洋服は畳んで袋にしまう、明日着る服の準備をする、布団を自分たちで敷いて片付けまで行うなど自分の事は自分で取り組んだ。自分たちの寝泊りする保育室の環境構成も整え、準備の段階から子供たちが自発的に取り組めるようなプログラムにした。4 月から 7 月のお泊り保育に向けて長期的な見通しを持ってナス、キュウリ、ミニトマト、じゃがいも、人参などの野菜の栽培を行い少しずつお泊り保育に向けた興味・関心が高まるように準備した。当日に向けて、寝る場所をクラスの友達と決めたり、ゲーム等の準備物を用意したり、夕飯のカレー作りに向けて係決めに取り組むうちにお泊り保育へのイメージがもてるようになり、幼稚園に泊まることを不安に思っていた子も少しずつ期待をもてるようになっていった。
異年齢混合学級	少人数保育のデメリットを解消する為に、異年齢児の交流や関わりを大切にしている。具体的には、お弁当を同じ部屋で食べるランチタイムを設けている。また、ランチタイム前には皆で集まって、歌や手遊び、ゲーム遊びをしている。このような時間を過ごすことで互いに名前を呼び合い、自然と関わって一緒に遊ぶ姿が、好きな遊びの時間でも見られるようになった。
異年齢混合学級	子供たちの言葉を聞き、日々の教育において“振り返り”の時間を大切にしている。言葉を聞くだけでは流れていってしまうので、動画に残し、付箋に書き出して見える化して、子供たちも自分自身の言葉を振り返れるようにしてある。運動会や発表会も自分たちで考え、内容だけではなく、その都度感じたことも表出する場になるように、教師がファシリテーターとなって”こども会議”を行っている。
異年齢混合学級	子供の興味・関心を把握し、環境を構成するようにしている。直接体験ができるようにしている。また、5 領域が総合的に指導できるよう、心がけている。幼児理解においては、職員間で話し合う時間をもち、主観的にならにようにしている。 教師の願い:身近な自然に親しみをもち、関わって欲しい。 環境構成:関心がもてるよう、園庭にいる虫や植物の写真を掲示。 援助:教師も一緒に探したり、観察したり、世話をしたりする。直接いろいろな体験ができるよう、環境を準備する。図鑑と見比べたりできるようにする。 変容:じっくり関わることで、気づきが生まれ、気づきを共有できるようにしたことで、

学年	具体的なエピソードや指導内容
	親しみをもつようになり、今では虫になりきって遊ぶ姿が見られるようになった。 学び: 戸外で遊ぶ (健康)・感動体験の蓄積が遊びへの発展 (表現・人間関係・言葉での伝え合い)・調べる、比べる (環境) など、5領域が総合的に指導できるようにしている。
異年齢混合 学級	保育を振り返る際、ねらいを視点に振り替えることを軸にしている。環境構成については、日々の遊びの振り返りから、再構成をしている。また季節に応じたもの、例年していることの概念にとらわれないことも、意識している。例年、サツマイモ畑になるところが、登園時に通る通路である。そこに、種取ができる植物や、コスモス、千日紅などを植えたことで、種集めだけでなく、虫捕り、草花への関心が増している。

注釈) 抜粋に当たり、空白削除、文章前の「・」削除、句読点の修正、明らかな誤字脱字の修正を行っている。また、「子ども」「こども」は「子供」に、「友だち」「ともだち」は「友達」にそれぞれ表記を統一している。

IV. Appendix

1 アンケート調査票

1-1. 管理職向け調査票

文部科学省 令和6年度幼児教育の学び強化事業
「幼稚園教育要領等に基づく幼稚園等における教育活動の実施状況調査」

アンケート調査項目（管理職向け）

1. アンケート回答方法

● 回答方法について

- このアンケートは、特に期日を明記している設問以外はすべて今年度の状況や予定でお答えください。
- 「1つ選択」「いくつでも選択」など回答数が指定されています。あてはまる項目にその数だけ選択してください。また、設問によっては、回答を具体的にご記載いただくものもあります。
- 数字をご記載いただく設問について、半角でご入力ください。また、該当する人等がない場合は「0」とご記載ください。
- Webでご回答いただきます場合、記入したアンケート票見本はご返送いただく必要はありません。

● 回答の所要時間について

- 回答にかかる時間は、約25分です。

2. アンケート調査項目

1. 基礎的情報

No	設問	選択肢等			
Q1	令和6年5月1日時点の学級別年齢別在園者数について、学級名と数字を記入してください。※学級名を記載した行で、該当する園児がいない欄は「0」と入力してください。	以下の表中で、それぞれ数字を記入			
	学級名（●●組） ※行数が足りない場合は適宜追加いた いて構いません。	満3歳児 (令和3年4 月2日～令和 3年5月1日 生まれ)	3歳児 (令和2年4 月2日～令和 3年4月1日 生まれ)	4歳児	5歳児
1	〇〇組	人	人	人	人
2	〇〇組	人	人	人	人
3	〇〇組	人	人	人	人
4	〇〇組	人	人	人	人
5	〇〇組	人	人	人	人
6	〇〇組	人	人	人	人
Q2	満3歳児の入園に係る園の方針に合致するものをお答えください。（1つ選択）	1. 年間を通して、満3歳に達した時点でその都度入園を認めている 2. 満3歳に達しても、ある時点まで入園は認めず、ある時点が到来したらそれまでの満3歳児の入園を認め、その後は満3歳に達した時点でその都度入園を認めている（例：10月にその時点までの満3歳児を一斉に受入れ、それ以降はその都度入園を認めている） 3. 満3歳に達しても、ある時点まで入園は認めず、ある時点が到来したらそれまでの満3歳児の入園を認めることを繰り返す（例：9月、11月、1月に、それぞれその時点までの満3歳児を一斉に受入れている） 4. その他（ ） 5. 満3歳に達した後の翌年度の4月に一斉入園する形としている（満3歳児は入園を認めていない）			
Q3	（Q2にて1～4と回答した方に） 満3歳児の入園についてお答えください。 （1つ選択）	1. 満3歳児と3歳児を同じ学級にしている 2. 満3歳児と3歳児は別の学級にしている 3. その他（ ）			
Q4	地域の0～2歳児を対象とする幼児教育施設との就園に関する連携についてお答えください。（1つ選択）	1. 連携している（連携している施設の卒園児を優先的に受け入れている） 2. 特に連携していない			

Q5	貴園の現時点の教員・職員数についてお答えください。 ※非常勤の教員・職員を含みます。 ※該当する者がいない欄は「0」と入力してください。	以下の表中で、それぞれ数字を記入		
		実人数		
1	園長	人		
2	副園長	人		
3	教頭	人		
4	主幹教諭	人		
5	指導教諭	人		
		主として学級を担当する人数	主として預かり保育を担当する人数	学級と預かり保育のどちらも担当する人数
1	教諭・助教諭・講師	人	人	人
		実人数		
1	養護教諭、養護助教諭	人		
2	看護師等	人		
3	支援員、補助者	人		
4	事務職員	人		
5	用務員・警備員・その他	人		

Q6	Q5にて回答した「園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭・助教諭・講師」のうち、次の免許・資格保有者数についてお答えください。※該当する者がいない欄は「0」と入力してください	以下の表中で、それぞれ数字を記入	
教員免許、保育士資格の保有者数 ※一種、二種、専修で複数免許をもつ場合は、下記の整理で回答してください。 (例) 一種免許と二種免許の場合は一種免許と回答 (例) 専修免許と一種免許の場合は専修免許と回答	1. 幼稚園教諭一種免許保有者	人	
	2. 幼稚園教諭二種免許保有者	人	
	3. 幼稚園教諭専修免許保有者	人	
	4. 保育士資格保有者	人	
	5. 小学校教諭一種免許保有者	人	
	6. 小学校教諭二種免許保有者	人	
	7. 小学校教諭専修免許保有者	人	

2. 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

No	設問	選択肢等	
Q11	貴園では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。（それぞれいくつでも選択）	以下の表中で、あてはまるものすべてに○	
		①項目名を活用している (例:「健康な心と体」)	②項目名および各項目の具体的な記述を活用している (例:「健康な心と体」及び「幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる」)
1	教育課程の編成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている		
2	長期の指導計画（年間計画、月案等）の作成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている		
3	短期の指導計画（週案、日案等）の作成時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている		
4	指導の過程の振り返り時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を使用して話し合ったり、書いたりしている		
5	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して幼児の育ちや学びを保護者と共有している		
6	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目名又は具体的な記述を引用して幼児の育ちや学びを小学校と共有している		
7	その他（ ）		
8	特に活用していない		

3. 教育課程の役割・編成

No	設問	選択肢等
Q12	教育課程の改善のため、教育課程編成の際にどのような情報・資料等を用いていますか。（いくつでも選択）	1.前年の教育課程の振り返り、評価 2.幼児の姿等を記録した資料 3.保護者からの意見や評価等 4.学校評価の結果 5.教職員による話し合い 6.小学校からの意見や評価等 7.地域からの意見や評価等 8.有識者等（学校関係者評価の委員や、園内外研修講師など）からの意見や評価等 9.その他（ ）

4. 指導計画の作成

No	設問	選択肢等
Q13	貴園において、教育活動に関する指導計画として作成しているものとして当てはまるものをお答えください。（いくつでも選択） ※同じ様式に複数の計画を作成している場合は両方に○をしてください。（例）週・日案を作成している場合は週案と日案に○	1.年間指導計画 2.期（学期、発達の時期）単位の指導計画 3.月単位の指導計画（月案） 4.週単位の指導計画（週案） 5.日単位の指導計画（日案） 6.いずれも作成していない

5. 幼児理解に基づいた評価の実施

No	設問	選択肢等
Q14	評価の妥当性や信頼性を高めるために、貴園で行っていることについて教えてください。（いくつでも選択）	1.写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる 2.複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている 3.教職員同士で保育を見合い、フィードバックを行っている 4.評価や記録の取り方に関する園内研修を行っている 5.評価や記録の取り方に関する園外研修の受講を教職員に勧めている 6.幼児の発達の状況を日頃から保護者に伝え、幼児が育つ姿を共有している 7.幼児の発達の状況を次の保育者または小学校等に伝え、幼児が育つ姿を共有している 8.公開保育を行い、フィードバックを受けている 9.保護者の保育参加を行い、フィードバックを受けている 10.その他（ ） 11.特になし

6. 特別な配慮を必要とする幼児への指導

No	設問	選択肢等
Q15	貴園にて特別な配慮を必要とする幼児への指導に関して行っていることのうち、障害のある幼児などに関する内容について教えてください。（いくつでも選択）	1. 障害のある幼児などの支援に向けた園内委員会を設置している 2. 特別支援教育コーディネーターを配置している 3. 特別支援学校等に対し専門的な助言又は援助を要請している 4. 障害のある幼児の指導に当たり、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している 5. 保護者が子供の障害を理解したり、将来への不安を取り除くようにしたりできるよう、精神的な援助や養育に対する支援を行っている 6. 小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている 7. その他（ ） 8. 障害のある幼児などがいない
Q16	貴園にて特別な配慮を必要とする幼児への指導に関して行っていることのうち、外国人幼児などに関する内容について教えてください。（いくつでも選択）	1. 外国人幼児などの指導に当たり、母語を用いた挨拶や言葉かけを行っている 2. 外国人幼児などの指導に当たり、保護者に園生活や園の方針を丁寧に説明している 3. 小学校との連携のため、指導要録の送付以外に当該幼児の情報を共有したり、小学校教員が園を訪問したりしている 4. その他（ ） 5. 外国人幼児などがいない
Q17	その他、幼稚園の運営上の留意事項として行っていることについて教えてください。（いくつでも選択）	1. 地域の幼稚園、保育所、認定こども園の乳幼児との交流の機会を設けている 2. 地域の小学校の児童との交流の機会を設けている 3. 地域の中学校や高校の生徒との交流の機会を設けている 4. 地域の小学校との間で、教職員同士が互いの教育内容等について理解できるような機会を設けている（保育・授業参観、連絡会等） 5. 障害のある幼児児童生徒との交流や共同学習の機会を設けている 6. その他（ ） 7. 特にない

7. 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（行っていない場合は Q21 へお進みください）

No	設問	選択肢等
Q18	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる「預かり保育」）において、主にどのような場所で活動を行っていますか。当てはまるものをお答えください。（いくつでも選択）	1.主に預かり保育で使用している保育室 2.教育課程に係る活動で使用している保育室 3.遊戯室 4.その日に空いている保育室 5.園庭 6.その他 ()
Q19	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる「預かり保育」）において、主にどのような活動を行っていますか。当てはまるものをお答えください。 また、教育課程に係る教育時間中では経験できない活動をするようにしている～「その他」を選択した場合、自由回答欄に具体的な活動の例をお答えください。（いくつでも選択）	1.原則、幼児がしたいことを選んで活動している 2.教育課程に係る教育時間中では経験できない活動をするようにしている () 3.戸外で思い切り取り組める活動をするようにしている () 4.時間をかけてじっくり取り組める活動をするようにしている () 5.家庭で経験するような内容を取り入れるようにしている () 6.ゆったりと落ち着いて遊べる活動を取り入れるようにしている () 7.異年齢の幼児との関わりが深まるようにしている () 8.季節を感じる活動をするようにしている () 9.その他 ()
Q20	教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（いわゆる「預かり保育」）について、以下のような課題があればその理由とともに具体的にお答えください。 （預かり保育における活動と、教育課程に基づく活動とを関連付けることが難しい。／預かり保育を担当する先生と、教育課程に係る教育時間を担当する先生との情報共有が難しい。／預かり保育を利用する保護者と、教育課程に係る教育時間を担当する先生との連携が難しい。など）	

8. 子育ての支援

No	設問	選択肢等
Q21	貴園にて行っている子育ての支援を教えてください。（いくつでも選択）	1. 地域の子育て家庭に対する園舎や園庭の開放 2. 地域の子育て家庭に対する相談対応 3. 地域の子育て家庭に対する情報提供（子育て講座の開催など） 4. 0歳～満3歳未満の未就園児を対象とした親子登園などの保育活動 5. 通園する保護者同士の交流機会の提供 6. 高齢者、ボランティア団体、子育てサークルなどとの交流 7. 地域の子育て家庭が使える預かり事業（一時預かり等） 8. その他（ 9. 特にない

9. ICT 整備の状況

No	設問	選択肢等
Q22	貴園の ICT に係る環境について、保有・活用しているものをお答えください。（いくつでも選択）	1. 教員用の園務用パソコン 2. 教員用の園務用タブレット 3. 教員用の園務用スマートフォン 4. 教育活動で使用するパソコン 5. 教育活動で使用するタブレット 6. 教育活動で使用するスマートフォン 7. 教育活動で使用するテレビモニター 8. 幼児向けに開発されたアプリケーションソフト 9. 園務用無線 LAN、Wi-Fi、LTE 等 10. 教育活動用 LAN、Wi-Fi、LTE 等 11. その他（ 12. 特にない
Q23	貴園において、ICT 機器を活用して教育活動を実施する際、どのような目的で活用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも選択）	1. 記録をして友達や先生と共有するため 2. 記録をして繰り返し見るため 3. 拡大したり裏側・内側などを見たり、音や声を聞いたりするため 4. 離れたところの人とコミュニケーションをとったり、場を共有したりするため 5. 表現活動を行うため 6. 表現の幅を広げるため（園児が紙に描いた絵を ICT 機器で動かすなど） 7. 情報を探したり、より詳しく調べたりするため 8. その他（
Q24	ICT 機器を活用して教育活動を実施した際に、想定していたような活動にならなかったり、幼児の発達にふさわしくなかったりしたことがあれば、具体的にお答えください。	

1-2. 担任向け調査票

文部科学省 令和6年度幼児教育の学び強化事業
「幼稚園教育要領等に基づく幼稚園等における教育活動の実施状況調査」
アンケート調査項目（各学年担当教員向け）

1. アンケート回答方法

● 回答方法について

- このアンケートは、特に期日明記している設問以外はすべて今年度の状況でお答えください。
- 「1つ選択」「いくつでも選択」など回答数が指定されています。あてはまる項目にその数だけ選択してください。また、設問によっては、回答を具体的にご記載いただくものもあります。
- Webでご回答いただきます場合、記入したアンケート票見本はご返送いただく必要はありません。

● 回答の所要時間について

- 回答にかかる時間は、約20分です。

2. アンケート調査項目

0. 回答者情報

No	設問	選択肢等
Q0	担当学年（1つ選択）	1.3 歳児学級 2.4 歳児学級 3.5 歳児学級 4.異年齢混合学級

1. 幼児理解に基づいた評価の実施

No	設問	選択肢等
Q1	ご自身の指導の過程について評価する際に、振り返っている視点として当てはまるものをお答えください。（いくつでも選択）	1. 幼児がどのような姿を見せていたか 2. 幼児がどのように変容しているか 3. 幼児が見せる姿が生み出されてきた状況はどのようなものであったか 4. 教師の関わり方は適切であったか 5. 幼児の生活の実態や発達の理解が適切であったか 6. 指導計画で設定したねらいや内容が適切であったか 7. 環境の構成や再構成が適切であったか 8. 幼児の活動に沿って必要な援助や再構成を行ったか 9. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いた幼児の姿 10. 幼児の具体的な姿から捉えられる「幼稚園教育において育みたい資質・能力」 11. その他 () 12. 特にない
Q2	ご自身は、日頃、教育活動に関する記録をどのようにしていますか。（いくつでも選択）	1. 手書きで文章のみを記載している 2. 手書きの文章と写真を記載している 3. PC、タブレット、スマホ等で作成した文章のみを記載している 4. PC、タブレット、スマホ等で作成した文章と写真を記載している 5. 写真付きの記録に特化したアプリやクラウドサービスを利用している 6. その他 () 7. いずれも当てはまらない

2. ねらい・内容

No	設問	選択肢等		
Q3	幼稚園教育要領の 5 領域のうち、「健康」に示される「内容」について、日々の実践の中でどの程度重点を置いて指導していますか。	以下の表中で、それぞれ 1 つずつ選択		
		特に重点を置いて指導している	重点を置いて指導している	指導している
1	先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する			
2	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす			
3	進んで戸外で遊ぶ			
4	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む			
5	先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ			
6	健康な生活のリズムを身に付ける			
7	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする			
8	幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する			
9	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う			
10	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する			

No	設問	選択肢等		
Q4	幼稚園教育要領の 5 領域のうち、「 人間関係 」に示される「内容」について、日々の実践の中でどの程度重点を置いて指導していますか。	以下の表中で、それぞれ 1 つずつ選択		
		特に重点を置いて指導している	重点を置いて指導している	指導している
1	先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう			
2	自分で考え、自分で行動する			
3	自分でできることは自分でする			
4	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ			
5	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う			
6	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く			
7	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう			
8	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする			
9	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する			
10	友達との関わりを深め、思いやりをもつ			
11	友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする			
12	共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う			
13	高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ			

No	設問	選択肢等		
Q5	幼稚園教育要領の 5 領域のうち、「環境」に示される「内容」について、日々の実践の中でどの程度重点を置いて指導していますか。	以下の表中で、それぞれ 1 つずつ選択		
		特に重点を置いて指導している	重点を置いて指導している	指導している
1	自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く			
2	生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ			
3	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く			
4	自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ			
5	身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする			
6	日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ			
7	身近な物を大切にする			
8	身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ			
9	日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ			
10	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ			
11	生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ			
12	幼稚園内外の行事において国旗に親しむ			

No	設問	選択肢等		
Q6	幼稚園教育要領の 5 領域のうち、「言葉」に示される「内容」について、日々の実践の中でどの程度重点を置いて指導していますか。	以下の表中で、それぞれ 1 つずつ選択		
		特に重点を置いて指導している	重点を置いて指導している	指導している
1	先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする			
2	したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する			
3	したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする			
4	人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す			
5	生活の中で必要な言葉が分かり、使う			
6	親しみをもって日常の挨拶をする			
7	生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く			
8	いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする			
9	絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう			
10	日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう			

No	設問	選択肢等		
Q7	幼稚園教育要領の5領域のうち、「表現」に示される「内容」について、日々の実践の中でどの程度重点を置いて指導していますか。	以下の表中で、それぞれ1つずつ選択		
		特に重点を置いて指導している	重点を置いて指導している	指導している
1	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ			
2	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする			
3	様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう			
4	感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする			
5	いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ			
6	音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう			
7	かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする			
8	自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう			

No	設問	選択肢等
Q8	5 領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）について、実際に指導を行う際に気を付けていることや、環境を構成する上で工夫されていることはありますか。 具体的なエピソードや指導内容についてお書きください。	
Q9	【Q8をご回答された方へ】 上述の具体的なエピソードが該当する学年についてお答えください。（いくつでも選択）	1.3 歳児学級 2.4 歳児学級 3.5 歳児学級 4.異年齢混合学級